別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ 設置者		ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝ ｶｺﾞｼﾏﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人　鹿児島大学							
フリガナ 大学の名称		ｶｺﾞｼﾏﾀﾞｲｶﾞｸ 鹿児島大学（Kagoshima University）							
大学本部の位置		鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号							
大学の目的		鹿児島大学は、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって学術文化の向上に寄与する有為な人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的		動物福祉の概念を理解し、生物学的・化学的知識を基盤として畜産学と獣医学の素養を併せ持ち、持続可能な動物生産、人の健康・安心・安全に配慮した食料生産及び高付加価値な畜産食品の開発・流通に関する高い知識と技術を涵養し、もって我が国における未来型畜産への新興と改革を牽引して国際競争力強化に貢献できる人材の育成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	共同獣医学部 (Joint Faculty of Veterinary Medicine)	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
	畜産学科 (Department of Animal Science and Welfare)	4	30	－	120	学士（農学） (Bachelor of Agriculture)	令和６年４月 第１年次	鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号	
	計		30	－	120				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		【学科の設置】 農学部　農学科　(175)　（令和5年4月事前相談） （３年次編入学定員）　(　5) 【名称変更】 共同獣医学部　獣医学科→共同獣医学科（令和5年4月事前相談） 【入学定員の変更】 法文学部（３年次編入学定員） 法経社会学科　（定員増）（ 4）（令和6年4月　※概算要求） 人文学科　（定員増）（ 6）（令和6年4月　※概算要求） 教育学部（３年次編入学定員） 学校教育教員養成課程（定員増）（ 5）（令和6年4月　※概算要求） 医学部（３年次編入学定員） 保健学科　（定員減）（△20）（令和6年4月　※概算要求）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	共同獣医学部 畜産学科	166 科目	7 科目	38 科目	211 科目		124 単位		

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	共同獣医学部　畜産学科	4 人 (4)	2 人 (2)	0 人 (0)	2 人 (2)	8 人 (8)	0 人 (0)	216 人 (250)	令和5年4月 事前相談
		農学部　農学科	13 (16)	23 (29)	1 (1)	10 (10)	47 (56)	0 (0)	173 (201)	
		計	17 (20)	25 (31)	1 (1)	12 (12)	55 (64)	0 (0)	－ (－)	
	既設分	法文学部　法経社会学科	22 (22)	9 (9)	1 (1)	4 (4)	36 (36)	0 (0)	11 (11)	
		人文学科	19 (19)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	2 (2)	23 (23)	
		附属「鹿児島の近現代」教育研究センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		教育学部　学校教育教員養成課程	16 (16)	34 (34)	7 (7)	5 (5)	62 (62)	0 (0)	53 (53)	

教員組織の概要	既設分	附属教育実践総合センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		理学部　理学科	17 (17)	25 (25)	2 (2)	10 (10)	54 (54)	0 (0)	23 (23)	
		附属南西島弧地震火山観測所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		工学部　先進工学科	35 (35)	34 (34)	0 (0)	15 (15)	84 (84)	0 (0)	40 (40)	
		建築学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
		医学部　医学科	39 (39)	22 (22)	21 (21)	61 (61)	143 (143)	0 (0)	118 (118)	
		保健学科	19 (19)	7 (7)	2 (2)	17 (17)	45 (45)	0 (0)	88 (88)	
		歯学部　歯学科	20 (20)	10 (10)	8 (8)	50 (50)	88 (88)	0 (0)	180 (180)	
		水産学部　水産学科	13 (13)	13 (13)	0 (0)	10 (10)	36 (36)	0 (0)	15 (15)	
		附属練習船かごしま丸	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		附属練習船南星丸	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		附属海洋資源環境教育研究センター	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		共同獣医学部　共同獣医学科	10 (11)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	21 (22)	0 (0)	22 (22)	令和5年4月 事前相談（名称変更）
		附属動物病院	3 (3)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
		附属越境性動物疾病制御研究センター	0 (1)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	
		共通教育センター	5 (5)	18 (18)	4 (4)	4 (4)	31 (31)	0 (0)	166 (166)	
		高等教育研究開発センター	0 (0)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		キャリア形成支援センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		中等・高等教育接続センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		グローバルセンター	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		稲盛アカデミー	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		ヒトレトロウイルス学共同研究センター	5 (5)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
		保健管理センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
		総合研究博物館	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		埋蔵文化財調査センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
		環境安全センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
		情報基盤統括センター	3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
		南九州・南西諸島域イノベーションセンター	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		国際島嶼教育研究センター	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		先端科学研究推進センター	3 (3)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	
		計	253 (255)	231 (231)	50 (50)	207 (207)	741 (743)	2 (2)	－ (－)	
	合　計		270 (275)	256 (262)	51 (51)	219 (219)	796 (807)	2 (2)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	429 人 (429)	43 人 (43)	472 人 (472)	大学全体
	技術職員	87 (87)	37 (37)	124 (124)	
	図書館専門職員	8 (8)	0 (0)	8 (8)	
	その他の職員	506 (506)	0 (0)	506 (506)	
	計	1,030 (1,030)	80 (80)	1,110 (1,110)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	484,412 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	484,412 ㎡	大学全体
	運動場用地	106,929 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	106,929 ㎡	
	小計	591,341 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	591,341 ㎡	
	その他	35,962,939 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	35,962,939 ㎡	
	合計	36,554,280 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	36,554,280 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	239,366 ㎡ (239,366 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	239,366 ㎡ (239,366 ㎡)	大学全体

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	156 室	124 室	546 室	21 室 (補助職員 0人)	2 室 (補助職員 0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	共同獣医学部 畜産学科	27 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	1,230,772〔338,557〕 (1,230,772〔338,557〕)	42,211〔13,333〕 (42,211〔13,333〕)	7,685〔6,160〕 (7,685〔6,160〕)	8,327 (8,327)	1,725 (1,725)	1,354,970 (1,354,970)	大学全体
	計	1,230,772〔338,557〕 (1,230,772〔338,557〕)	42,211〔13,333〕 (42,211〔13,333〕)	7,685〔6,160〕 (7,685〔6,160〕)	8,327 (8,327)	1,725 (1,725)	1,354,970 (1,354,970)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	15,509 ㎡	1,247	1,184,389	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	4,658 ㎡	陸上競技場、球技場、野球場、テニスコート、武道場、室内プール、艇庫、弓道場	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		－	－	－	－	－	－	国費による
	共同研究費等		－	－	－	－	－	－	
	図書購入費	－	－	－	－	－	－	－	
	設備購入費	－	－	－	－	－	－	－	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	－

既設大学等の状況	大学の名称	国立大学法人 鹿児島大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	法文学部						1.03		鹿児島市郡元一丁目21番30号	※編入学定員は各学科収容定員の内数
	法経社会学科	4	245	3年次 6	992	学士（法学・経済学・学術）	1.02	平成29年度		
	人文学科	4	165	3年次 4	668	学士（文学）	1.03	平成29年度		

	法政策学科	4	－	－	－	学士（法学）	－	平成9年度		平成29年度より学生募集停止（法政策学科、経済情報学科、人文学科）改組前の編入学定員は平成31年度より学生募集停止
	経済情報学科	4	－	－	－	学士（経済学）	－	平成9年度		
	人文学科	4	－	－	－	学士（文学）	－	昭和54年度		
	教育学部						1.06		鹿児島市郡元一丁目20番6号	
	学校教育教員養成課程	4	190	－	760	学士（教育学）	1.06	平成9年度		
	特別支援教育教員養成課程	4	－	－	－	学士（教育学）	－	昭和49年度		令和2年度より学生募集停止（特別支援教育教員養成課程）
	理学部						1.03		鹿児島市郡元一丁目21番35号	
	理学科	4	185	－	740	学士（理学）	1.03	令和2年度		
	数理情報科学科	4	－	－	－	学士（理学）	－	平成9年度		令和2年度より学生募集停止（数理情報科学科、物理科学科、生命化学科、地球環境化学科）
	物理科学科	4	－	－	－	学士（理学）	－	平成9年度		
	生命化学科	4	－	－	－	学士（理学）	－	平成9年度		
	地球環境科学科	4	－	－	－	学士（理学）	－	平成9年度		
	医学部						0.96		鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	※編入学定員は各学科収容定員の内数
	医学科	6	110	2年次10	704	学士（医学）	0.98	昭和30年度		6年制学科
	保健学科						0.93	平成11年度		4年制学科
	看護学専攻	4	80	3年次10	340	学士（看護学）	0.94			
	理学療法学専攻	4	20	3年次5	90	学士（保健学）	0.90			
	作業療法学専攻	4	20	3年次5	90	学士（保健学）	0.90			
	歯学部						0.98		鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
	歯学科	6	53	－	318	学士（歯学）	0.98	昭和52年度		
	工学部						1.01		鹿児島市郡元一丁目21番40号	※編入学定員は各学科収容定員の内数
	先進工学科	4	385	3年次17	1574	学士（工学）	1.01	令和2年度		
	建築学科	4	55	3年次3	226	学士（工学）	1.02	令和2年度		
	機械工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成4年度		令和2年度より学生募集停止（機械工学科、電気電子工学科、建築学科、環境化学プロセス工学科、海洋土木工学科、情報生体システム工学科、化学生命工学科）
	電気電子工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成4年度		
	建築学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	昭和30年度		
	環境化学プロセス工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成21年度		
	海洋土木工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成4年度		
	情報生体システム工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成21年度		
	化学生命工学科	4	－	－	－	学士（工学）	－	平成21年度		
	農学部						1.05		鹿児島市郡元一丁目21番24号	
	農業生産科学科	4	75	－	300	学士（農学）	1.09	平成28年度		
	食料生命科学科	4	70	－	280	学士（農学）	1.01	平成28年度		
	農林環境科学科	4	60	－	240	学士（農学）	1.07	平成28年度		
	水産学部						1.06		鹿児島市下荒田四丁目50番20号	
	水産学科	4	140	－	560	学士（水産学）	1.06	昭和50年度		
	共同獣医学部						1.05		鹿児島市郡元一丁目21番24号	
	獣医学科	6	30	－	180	学士（獣医学）	1.05	平成24年度		

既設大学等の状況

既設大学等の状況	〔修士（博士前期）〕									
	人文社会科学研究科						0.96		鹿児島市郡元一丁目21番30号	
	法学専攻	2	5	－	10	修士（法学）	1.10	平成10年度		
	経済社会システム専攻	2	10	－	20	修士（経済学・社会学）	0.60	平成10年度		
	人間環境文化論専攻	2	5	－	10	修士（文学）	1.60	平成10年度		
	国際総合文化論専攻	2	8	－	16	修士（文学）	0.94	平成10年度		
	教育学研究科						－		鹿児島市郡元一丁目20番6号	令和3年度より学生募集停止（教育実践総合専攻）
	教育実践総合専攻	2	－	－	－	修士（教育学）	－	平成21年度		
	医歯学総合研究科						0.50		鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
	医科学専攻	2	15	－	30	修士（医科学）	0.50	平成16年度		
	保健学研究科						1.25		鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
	保健学専攻	2	22	－	44	修士（保健学・看護学）	1.25	平成15年度		
	理工学研究科						0.99		鹿児島市郡元一丁目21番40号	
	理学専攻	2	64	－	128	修士（理学・学術）	0.84	令和2年度		
	工学専攻	2	237	－	474	修士（工学・学術）	1.03	令和2年度		
	農林水産学研究科						1.21		鹿児島市郡元一丁目21番24号・鹿児島市下荒田四丁目50番20号	
	農林資源科学専攻	2	39	－	78	修士（農学）	1.08	平成31年度		
	食品創成科学専攻	2	26	－	52	修士（農学・水産学）	1.33	平成31年度		
	環境フィールド科学専攻	2	16	－	32	修士（農学・水産学）	1.56	平成31年度		
	水産資源科学専攻	2	20	－	40	修士（水産学）	1.05	平成31年度		
	〔博士後期〕									
	人文社会科学研究科						1.11		鹿児島市郡元一丁目21番30号	
	地域政策科学専攻	3	6	－	18	博士（学術）	1.11	平成15年度		
	医歯学総合研究科						1.59		鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
	健康科学専攻	4	19	－	76	博士（医学・歯学・学術）	1.11	平成15年度		
	先進治療科学専攻	4	31	－	124	博士（医学・歯学・学術）	1.88	平成15年度		
	保健学研究科						1.39		鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	
	保健学専攻	3	6	－	18	博士（保健学）	1.39	平成17年度		
	理工学研究科						0.50		鹿児島市郡元一丁目21番40号	
	総合理工学専攻	3	24	－	72	博士（理学・工学・学術）	0.50	平成28年度		
	共同獣医学研究科						1.58		鹿児島市郡元一丁目21番24号	
	獣医学専攻	4	6	－	24	博士（獣医学）	1.58	平成30年度		
	連合農学研究科						1.45		鹿児島市郡元一丁目21番24号	
	生物生産科学専攻	3	7	－	21	博士（農学・水産学・学術）	1.76	平成21年度		
	応用生命科学専攻	3	8	－	24	博士（農学・水産学・学術）	1.04	平成21年度		
	農水圏資源環境科学専攻	3	8	－	24	博士（農学・水産学・学術）	1.58	平成21年度		
	〔専門職学位課程〕									
	教育学研究科						1.08		鹿児島市郡元一丁目20番6号	
	学校教育実践高度化専攻	2	20	－	40	教職修士（専門職）	1.08	令和3年度		
	臨床心理学研究科						1.00		鹿児島市郡元一丁目21番30号	
	臨床心理学専攻	2	15	－	30	臨床心理修士（専門職）	1.00	平成19年度		

附属施設の概要	名　　称：高等教育研究開発センター 目　　的：高等教育に関する研究・開発・提言及び高等教育に係る全学的な連絡調整 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：平成29年4月 規 模 等：共通教育棟の一部を使用 名　　称：共通教育センター 目　　的：全学協力体制に基づいて実施する共通教育・基礎教育、学芸員資格科目及び大学院共通科目等に関する企画・立案・実施、外国語教育の企画・提言並びに教育に係る全学的な連絡調整 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：平成29年10月 規 模 等：共通教育棟の一部を使用 名　　称：キャリア形成支援センター 目　　的：全学的なキャリア形成支援体制のもとで、キャリア教育及びインターンシップを含めたキャリア形成・就職支援を充実・推進し、学生の多様なキャリア形成を全学的立場から支援 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：令和2年4月 規 模 等：共通教育棟の一部を使用 名　　称：中等・高等教育接続センター 目　　的：入学者選抜方法等に係る企画・調査・研究、入試広報、アドミッションに関するIR（調査・分析）、本学への志望度を高める中高大接続事業、多様な学生の入学に伴う学びの複線化、高大接続育成型入試の実施 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：令和5年4月 規 模 等：事務局の一室を使用 名　　称：グローバルセンター 目　　的：教育研究の国際活動、海外機関との連携、国際協力事業支援、海外広報、外国人留学生に対する日本語教育 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：平成28年4月 規 模 等：共通教育棟の一部を使用 名　　称：稲盛アカデミー 目　　的：倫理、哲学、経営哲学に関する教育 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：平成17年4月 規 模 等：建物1,601㎡ 名　　称：ヒトレトロウイルス学共同研究センター 目　　的：ヒトレトロウイルス感染症の感染予防及び治癒を目指し、世界的・全国的な研究及び教育の総合的推進 所 在 地：鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号 設置年月：平成31年4月 規 模 等：建物1,290㎡ 名　　称：附属図書館 目　　的：教育と研究に資する図書資料その他の学術資料の収集管理 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番35号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：建物15,509㎡ 名　　称：保健管理センター 目　　的：学生及び職員の心身の健康保持、増進 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：昭和47年5月 規 模 等：建物902㎡ 名　　称：総合研究博物館 目　　的：学術標本資料の収蔵、展示、公開及び学術標本資料に関する教育研究の支援 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：平成13年4月 規 模 等：建物531㎡	

附属施設の概要	名　　称：埋蔵文化財調査センター 目　　的：埋蔵文化財の調査、保護対策 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：平成24年4月 規 模 等：事務局車庫の一部を使用 名　　称：環境安全センター 目　　的：有害廃棄物及び実験排水に関する情報の集約、適正な処理の推進及び環境の保全 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：平成31年4月 規 模 等：共通教育棟の一部を使用 名　　称：情報基盤統括センター 目　　的：DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進、地域のDXの積極的支援、情報通信基盤を支え、情報環境の高度化推進、研究開発 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番35号 設置年月：令和4年4月 規 模 等：建物2,347㎡ 名　　称：地域防災教育研究センター 目　　的：防災に関する教育研究、地域と連携した地域防災体制の向上 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番40号 設置年月：令和4年4月 規 模 等：産学交流プラザの一部を使用 名　　称：南九州・南西諸島域イノベーションセンター 目　　的：グローバル卓越研究と産学・地域連携を両立する支援体制の強化、研究活動の活性化、外部資金獲得の推進及び研究成果の社会実装によるイノベーションの創出 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番40号 設置年月：令和4年4月 規 模 等：建物2,626㎡ 名　　称：国際島嶼教育研究センター 目　　的：島嶼域を対象とした自然・人間・文化社会環境にかかわる問題に関する教育及び統合的かつ学際的調査研究 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：平成22年4月 規 模 等：総合教育研究棟の一部を使用 名　　称：先端科学研究推進センター 目　　的：動物実験、遺伝子実験及び放射性同位元素を活用した教育研究の支援、高度先端研究機器・設備の一元的管理・運営及び研究、先進的感染制御等の国際レベルの研究による地域への貢献等を推進 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：令和4年4月 規 模 等：建物6,732㎡ 名　　称：附属病院 目　　的：医学・歯学の教育、研究及び診療 所 在 地：鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号 設置年月：平成15年10月 規 模 等：土地109,503㎡、建物100,295㎡ 名　　称：法文学部附属司法政策教育研究センター 目　　的：法学分野の教育研究の振興、司法政策に関する調査研究及び社会貢献活動 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：令和4年4月 規 模 等：総合教育研究棟の一部を使用 名　　称：法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター 目　　的：鹿児島の近現代に関する教育研究促進及び地域マネジメント人材の育成並びにその成果の地域への還元 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番30号 設置年月：令和4年10月 規 模 等：総合教育研究棟の一部を使用	

附属施設の概要	名　　称：教育学部附属幼稚園 目　　的：義務教育及びその後の教育を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する。幼児の保育に関する研究に協力し、学生の教育実習に当たる。 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目20番15号 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：建物700㎡ 名　　称：教育学部附属小学校 目　　的：心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す。児童の教育に関する研究に協力し、学生の教育実習に当たる。小学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。鹿児島県の小学校教育の向上に資する。 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目20番15号 設置年月：昭和24年9月 規 模 等：建物8,161㎡ 名　　称：教育学部附属中学校 目　　的：生徒の教育に関する研究に協力し、学生の教育実習に当たる。 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目20番35号 設置年月：昭和26年5月 規 模 等：建物6,471㎡ 名　　称：教育学部附属特別支援学校 目　　的：知的障害者に対して、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける。児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、学生の教育実習に当たる。 所 在 地：鹿児島市下伊敷一丁目10番1号 設置年月：昭和55年4月 規 模 等：建物3,538㎡ 名　　称：教育学部附属教育実践総合センター 目　　的：教育実践及び教育臨床に関する理論的かつ実践的な研究並びに教育を総合的に行い、教育学部の研究教育の充実に寄与するとともに、他の教育機関及び地域社会と連携を図り、その教育研究活動を支援する。 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目20番6号 設置年月：平成14年4月 規 模 等：建物529㎡ 名　　称：農学部附属農場 目　　的：フィールド農学に関する実習教育並びに農学理論の総合化、実用化に関する試験研究及び地域貢献 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地1,604,534㎡、建物10,387㎡ 名　　称：農学部附属高隈演習林 目　　的：森林や自然環境に関するさまざまな研究・実習 所 在 地：垂水市海潟3237 設置年月：昭和24年5月 規 模 等：土地30,598,349㎡、建物1,530㎡ 名　　称：農学部附属焼酎・発酵学教育研究センター 目　　的：焼酎学及び発酵学分野の教育・研究拠点として広く焼酎・発酵産業へ寄与するとともに、鹿児島の誇る焼酎文化の継承発展に貢献する。 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：平成23年4月 規 模 等：建物428㎡ 名　　称：水産学部附属練習船かごしま丸 目　　的：水産系の高度洋上技術者や航海士の育成 所 在 地：鹿児島市 設置年月：平成24年3月 規 模 等：総トン数935トン	

附属施設の概要	名　　称：水産学部附属練習船南星丸 目　　的：水産系の高度洋上技術者や航海士の育成 所 在 地：鹿児島市 設置年月：平成14年11月 規 模 等：総トン数175トン 名　　称：水産学部附属海洋資源環境教育研究センター 目　　的：沿岸域を対象とし、教育・研究における実習教育及び調査をフィールドワークの面から補完し強化するとともに、沿岸域における諸問題の解決に向けた研究を実施し、地域社会及び国際社会に貢献する。 所 在 地：鹿児島市下荒田四丁目50番20号 設置年月：平成12年4月 規 模 等：水産学部６号館の一部を使用 名　　称：共同獣医学部附属動物病院 目　　的：動物の診療及び臨床実習を通じた獣医学の教育研究 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：平成24年4月 規 模 等：建物4,681㎡ 名　　称：共同獣医学部附属越境性動物疾病制御研究センター 目　　的：我が国における畜産動物等を口蹄疫等の越境性動物疾病の脅威から守ること 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番24号 設置年月：平成24年4月 規 模 等：共同利用棟の一部を使用 名　　称：理工学研究科附属地域コトづくりセンター 目　　的：地域、特に南九州地区の企業・自治体等の活性化や雇用の創出に係る諸課題の解決につながる研究・活動等の支援、自然科学を深く理解し、イノベーションの創出に貢献できる研究開発技術者の育成等の支援 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番40号 設置年月：平成27年4月 規 模 等：建物1,232㎡ 名　　称：理工学研究科附属天の川銀河研究センター 目　　的：天の川銀河研究において、天文学上の諸問題を追究する研究活動の支援、観測限界を突破するための観測技術開発活動の支援、自然現象の追究の過程で修得する優れた問題解決能力を持つ科学者・技術者・教育者の育成、一般市民を対象とした自然科学の広報普及等の支援 所 在 地：鹿児島市郡元一丁目21番35号 設置年月：平成31年1月 規 模 等：理学部１号館の一部を使用 名　　称：理工学研究科附属南西島弧地震火山観測所 目　　的：地震及び火山に関する観測、調査及び研究並びにこれに基づく地震予知及び噴火予知に関する基礎的研究、学生の固体地球科学に関する実習 所 在 地：鹿児島市吉野町10861 設置年月：令和4年4月 規 模 等：敷地 300,855㎡（吉野２団地面積）建物　464㎡ 名　　称：医歯学総合研究科附属南九州先端医療開発センター 目　　的：医歯学総合研究科の基礎研究で創出される創薬・医療機器・再生医療等製品等のシーズを、実用化(産業化)まで切れ目なく研究開発を進める。 所 在 地：鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号 設置年月：平成30年4月 規 模 等：医歯学総合研究科棟２（基礎医学系）の一部を使用	

（別添２－５）

国立大学法人鹿児島大学　設置申請等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
鹿児島大学				鹿児島大学				
法文学部				法文学部				
法経社会学科	245	3年次 6	992	法経社会学科	245	3年次 10	1,000	3年次編入学定員増(4人)（概算要求）
人文学科	165	3年次 4	668	人文学科	165	3年次 10	680	3年次編入学定員増(6人)（概算要求）
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	190		760	学校教育教員養成課程	190	3年次 5	770	3年次編入学定員増(5人)（概算要求）
理学部				理学部				
理学科	185		740	理学科	185		740	
医学部				医学部				
医学科	110	2年次 10	590	医学科	90	2年次 10	590	
保健学科	120	3年次 20	520	保健学科	120	0	480	3年次編入学定員減(20人)（概算要求）
歯学部				歯学部				
歯学科	53		318	歯学科	53		318	
工学部				工学部				
先進工学科	385	3年次 17	1,574	先進工学科	385	3年次 17	1,574	
建築学科	55	3年次 3	226	建築学科	55	3年次 3	226	
農学部				農学部				
農業生産科学科	75		300	農学科	175	3年次 5	710	学部の学科の設置（事前相談）
食料生命科学科	70		280					
農林環境科学科	60		240					
水産学部				水産学部				
水産学科	140		560	水産学科	140		560	
共同獣医学部				共同獣医学部				
獣医学科	30		180	共同獣医学科	30		180	名称変更(事前相談)
				畜産学科	30		120	学部の学科の設置（事前相談）
計	1,883	2年次 10 3年次 50	7,948	計	1,863	2年次 10 3年次 50	7,948	
鹿児島大学大学院				鹿児島大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				
法学専攻(M)	5		10	法学専攻(M)	5		10	
経済社会システム専攻(M)	10		20	経済社会システム専攻(M)	10		20	
人間環境文化論専攻(M)	5		10	人間環境文化論専攻(M)	5		10	
国際総合文化論専攻(M)	8		16	国際総合文化論専攻(M)	8		16	
地域政策科学専攻(D)	6		18	地域政策科学専攻(D)	6		18	
教育学研究科				教育学研究科				
学校教育実践高度化専攻(P)	20		40	学校教育実践高度化専攻(P)	20		40	
保健学研究科				保健学研究科				
保健学専攻(M)	22		44	保健学専攻(M)	22		44	

保健学専攻(D)	6	18
理工学研究科		
理学専攻(M)	64	128
工学専攻(M)	237	474
総合理工学専攻(D)	24	72
農林水産学研究科		
農林資源科学専攻(M)	39	78
食品創成科学専攻(M)	26	52
環境フィールド科学専攻(M)	16	32
水産資源科学専攻(M)	20	40
医歯学総合研究科		
医科学専攻(M)	15	30
健康科学専攻(D)	19	76
先進治療科学専攻(D)	31	124
臨床心理学研究科		
臨床心理学専攻(P)	15	30
共同獣医学研究科		
獣医学専攻(D)	6	24
連合農学研究科		
生物生産科学専攻(D)	7	21
応用生命科学専攻(D)	8	24
農水圏資源環境科学専攻(D)	8	24
計	617	1,405

保健学専攻(D)	6	18
理工学研究科		
理学専攻(M)	64	128
工学専攻(M)	237	474
総合理工学専攻(D)	24	72
農林水産学研究科		
農林資源科学専攻(M)	39	78
食品創成科学専攻(M)	26	52
環境フィールド科学専攻(M)	16	32
水産資源科学専攻(M)	20	40
医歯学総合研究科		
医科学専攻(M)	15	30
健康科学専攻(D)	19	76
先進治療科学専攻(D)	31	124
臨床心理学研究科		
臨床心理学専攻(P)	15	30
共同獣医学研究科		
獣医学専攻(D)	6	24
連合農学研究科		
生物生産科学専攻(D)	7	21
応用生命科学専攻(D)	8	24
農水圏資源環境科学専攻(D)	8	24
計	617	1,405

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーI	1前	2			○								兼13	
			初年次セミナーII	1後	2			○								兼13	
			大学と地域	1前	2			○								兼5	
			情報活用	1前	2			○								兼1	
			体育・健康科学理論	1前	1			○								兼2	
			体育・健康科学実習	1前	1					○						兼4	
			小計（6科目）	－	10	0	0	－			0	0	0	0	0	兼38	
		教育科目 グローバル	英語IA	1前	1			○								兼5	
			英語IB	1前	1			○								兼6	
			英語IIA	1後	1			○								兼5	
			英語IIB	1後	1			○								兼6	
			動物基礎英語	2前	2			○								兼1	
			異文化理解入門	1前	2			○								兼5	オムニバス
			小計（6科目）	－	8	0	0	－			0	0	0	0	0	兼28	
		日本語・日本事情	日本語Ⅰ	1前	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本語Ⅱ	1前	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本語Ⅲ	1後	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本語Ⅳ	1後	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本事情A	1前	2			○								兼1	外国人留学生のみ
			日本事情B	1後	2			○								兼1	外国人留学生のみ
			小計（6科目）	－	8	0	0	－			0	0	0	0	0	兼10	
	小計（18科目）			－	26	0	0	－			0	0	0	0	0	兼76	
	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	「起業」－ビジネスの発見と創出	1後		2		○							兼1	
				アメーバ経営	1前・後		2		○							兼1	
				グローバル人材育成（雲南）	1後		2			○						兼12	共同・集中
				コーポレート・ファイナンス	1後		2		○							兼1	
				医学・行動心理学入門	1前		2		○							兼2	共同・集中
				稲盛和夫のベンチャー企業論	1前		2		○							兼2	オムニバス
				稲盛和夫の経営哲学（Ⅰ）	1前		2		○							兼1	
				稲盛和夫の経営哲学（Ⅱ）	1後		2		○							兼1	
				韓国語入門Ⅰ	1前・後		1		○							兼1	
				韓国語入門Ⅱ	1後・2前・後		1		○							兼1	
				教育社会学入門	1前		2		○							兼1	
				現代の日本政治	1前		2		○							兼1	
				現代社会を考える	1後		2		○							兼1	
				現代哲学入門	1後		2		○							兼1	
				古代東アジアの王陵	1前		2		○							兼1	
				行動科学	1前・後		2		○							兼1	
				自然学校へ行こう	1前		2		○							兼2	
				自然学校へ行こう　実践編Ⅰ	1前		2			○						兼1	集中
				自然学校へ行こう　実践編Ⅱ	1後		2			○						兼1	集中
				鹿児島探訪－歴史－	1前・後		2		○							兼1	
				実験医学・行動心理学	1前		2			○						兼2	共同・集中
				社会学の世界	1後		2		○							兼1	
				戦後日本外交史	1後		2		○							兼1	
				大人になるための政治学	1後		2		○							兼1	
				知的財産制度の基礎	1後		2		○							兼1	
				中国語入門Ⅰ	1前・後		1		○							兼1	
				中国語入門Ⅱ	1後・2前・後		1		○							兼1	
				中国文学の世界	1後		2		○							兼1	
				貞観政要を読む－帝王学入門－	1前		2		○							兼1	
				独語入門Ⅰ	1前		1		○							兼1	
				独語入門Ⅱ	1後		1		○							兼1	
				日本国憲法	1後		2		○							兼1	
				美術への誘い	1前		2		○							兼4	オムニバス・集中
				仏語入門Ⅰ	1後		1		○							兼1	
				仏語入門Ⅱ	2前		1		○							兼1	
				文化人類学の世界	1後		2		○							兼1	
				簿記入門	1前		2		○							兼1	
				方言コンテンツを作ろう	1前		2		○							兼1	
				方言学入門	1後		2		○							兼1	
				陽明学入門	1後		2		○							兼1	
				小計（40科目）	－	0	72	0	－			0	0	0	0	0	兼58	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（自然科学分野）	くらしの化学	１後		2		○								兼1
				ヒトの産み育てを考える	１前		2		○								兼8 オムニバス
				遺伝のしくみ	１前		2		○								兼2 オムニバス
				宇宙のすがた	１前		2		○								兼1
				化学と環境	１後		2		○								兼1
				家畜の歴史	１後		2		○								兼1
				教養の物理学入門	１前		2		○								兼1
				教養線形代数学	１前		2		○								兼1 隔年
				鹿児島の自然史	１前		2		○								兼1
				初心者のためのサバイバル生物学	１前		2		○								兼1
				焼酎	１前・後		2		○								兼5 オムニバス
				情報セキュリティ入門	１後		2		○								兼1
				食品・化粧品・医薬品の有機化学	１後		2		○								兼1
				世界を変えた有機分子	１後		2		○								兼1
				生化学実験Ⅰ	１後		2				○						兼2 共同
				生物学入門	１前		2		○								兼1
				生命科学情報活用１	１後		2			○							兼2 共同
				電気電子工学入門	１後		2		○								兼3 オムニバス
				動物の感覚・脳・行動	１後		2		○								兼14 オムニバス
				動物の病気	１前		2		○								兼15 オムニバス
				脳と心の生物学	１前		2		○								兼10 オムニバス
				保健学入門	１後		2		○								兼1
				暮らしの中のバイオ	１前		2		○								兼13 オムニバス
				遊び心と科学	１後		2		○								兼1
				理系ジャーナリズム	１前		2		○								兼2 オムニバス
				小計（25科目）	－	0	50	0	－			0	0	0	0	0	兼90
			教養活用科目（統合Ⅰ）	Intercultural Communication for Global Citizens	１後		2		○								兼1
				Intercultural Understanding and Acceptance	１前		2		○								兼1
				いのちと地域を守る防災学Ⅰ	１前		2		○								兼12 オムニバス
				かごしま教養プログラム	１前		2		○								兼1 集中
				キャリアデザイン	１前・後		2		○								兼5 オムニバス・共同(一部)
				稲盛哲学：稲盛研究の最高峰が伝授	１前		2		○								兼1
				自然体験活動入門講座	１前		2				○						兼1 集中
				身の周りの男女共同参画	１後		2		○								兼1
				身近な話題の生物学	１後		2		○								兼1
				進取の精神を学ぶ	１前		2		○								兼1
				人生における出会いの意義と役割	１後		2		○								兼1
				大学で学ぶ	１前		2		○								兼3 オムニバス
				地域コミュニティ論	１前		2		○								兼1
				地域リサーチ・スタートアップ	１後		2			○							兼2 共同
				地域防災学実践	１前		2		○								兼4
				防災フィールドワーク	１後		2			○							兼2 集中
				倫理学入門	１前		2		○								兼1
				小計（17科目）	－	0	34	0	－			0	0	0	0	0	兼39
			教養活用科目（統合Ⅱ）	いのちと地域を守る防災学Ⅱ	１後		2		○								兼8 オムニバス
				かごしまフィールドスクール	１前		2				○						兼1
				がんはなぜおこるのか：がんとの共生	１前		2		○								兼14 オムニバス
				ヒトの身体の仕組みと働き	１前		2		○								兼6 オムニバス
				ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅰ	１前		2		○								兼6 オムニバス
				ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅱ	１後		2		○								兼6 オムニバス
				医学・脳科学入門	１後		2		○								兼2 共同
				稲盛和夫のリーダー論	１前		2		○								兼1
				宇宙・地球における計測・計量	１後		2		○								兼1
				屋久島の環境文化Ⅰ－植生－	１後		2				○						兼2 共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅱ－生き物－	１前		2				○						兼2 共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅲ－産業－	１前		2				○						兼2 共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅳ－生活と文化－	１後		2				○						兼2 共同・集中
				価値創造の場	１後		2		○								兼1
				環境と進化の科学	１前		2		○								兼1
				口と顔の科学	１前・後		2		○								兼22 オムニバス
				国際感覚を持つバイテク人材育成	１後		2				○						兼9 共同・集中
				最先端医療を創出するバイオ研究	１前		2		○								兼7 オムニバス
				自己理解・他者理解と障害理解	１後		2		○								兼1
				自然学校インターンシップⅠ	１前		2				○						兼1 集中
				自然学校インターンシップⅡ	１後		2				○						兼1 集中
				自然環境保全と世界遺産	１後		2		○								兼1
				鹿児島探訪－文化－	１前		2		○								兼1
				実験医学・脳科学	１後		2				○						兼2 共同
				森・ひと・体験	１後		2				○						兼1 集中

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	進取の精神海外研修inベトナム	１前		2				○						兼3 共同・集中
				地域環境論	１前		2		○								兼1
				島のしくみ	１前		2				○						兼1 集中
				南太平洋多島域	１前		2		○								兼3 オムニバス
				農家民泊体験講座	１前		2				○						兼1
				派遣留学Ⅰ	１後		1			○							兼1 集中
				派遣留学Ⅱ	１前・後		1			○							兼2 集中
				有機農業Ⅰ　新しい食と農のかたち	１前		2		○								兼2 オムニバス
				留学生のための異文化理解	１後		2		○								兼1
				小計（34科目）	－	0	66	0	－			0	0	0	0	0	兼116
			小計（116科目）		－	0	222	0	－			0	0	0	0	0	兼303
	小計（134科目）				－	26	222	0	－			0	0	0	0	0	兼379

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目	基礎生物化学	１前	2			○			2						オムニバス，共同（一部）
			生化学	１後	1			○			1	1					共同
			分子生物学	２前	2			○								兼2	オムニバス
			動物科学専門英語	２後	2			○								兼1	
			畜産キャリア形成I	１前	1			○			1						
			畜産キャリア形成II	２前	1			○			1						
			畜産キャリア形成III	３前	1			○			1						
			欧文講読I	４前	1			○			4	2		2			共同
			欧文講読II	４後	1			○			4	2		2			共同
			小計（9科目）	－	12	0	0	－			4	2	0	2	0	兼3	
		専門基礎科目	畜産学	１前	2			○			3						オムニバス
			獣医学概論	１前	1			○								兼7	オムニバス
			動物福祉学	１後	1			○				1				兼1	オムニバス，共同（一部）
			動物と人間の関係論	１後	1			○								兼1	
			動物形態学	１後	2			○								兼1	
			動物生理学	２前	2			○								兼2	オムニバス，共同（一部）
			実験動物学	２前	2			○								兼1	
			家畜飼養管理学	２前	2			○				1					
			家畜繁殖学	２前	2			○								兼1	
			動物遺伝学	２前	2			○			1						
			家畜栄養学	２前	2			○				1					
			生物統計学	２前	2			○			1						
			食肉科学	２前	2			○			1						
			牧場実習I	２前	1					○		1		1			共同
			牧場実習II	２後	1					○		1		1			共同
			動物行動学	２後	2			○				1				兼1	オムニバス
			畜産化学基礎実験	２後	1					○	1	1					共同
			栄養生化学実験	２後	1					○		1					
			畜産物分析化学実験	２後	1					○	1	1		1			共同
			家畜育種・繁殖学実験	２後	1					○	2						オムニバス
			飼料化学	２後	2			○			1						
			家畜育種学	２後	2					○	1						
			畜産物加工実習	３後	1					○	1			1			共同
			野生・森林動物学	２後	1			○								兼2	オムニバス
			動物関係法規	２後	1			○								兼1	
			動物衛生学	２後	2			○								兼1	
			動物病理学	２後	2			○								兼1	
			動物感染症学	２後	2			○								兼2	オムニバス
			動物薬理・毒性学	３前	2			○								兼2	オムニバス
			獣医公衆衛生学	３前	1			○								兼1	
			食品衛生学	３後	2			○								兼1	
			動物形態機能学実習	２前	1					○						兼5	オムニバス
			卒業研究論文	４前	6				○		4	2		2			共同
			小計（33科目）	－	56	0	0	－			4	2	0	2	0	兼21	
	小計（42科目）			－	68	0	0	－			4	2	0	2	0	兼24	
	選択科目	専門応用科目	動物生殖工学	３前		2		○								兼1	
			情報処理演習	３前		1			○		1						
			インターンシップ研修	３前		1				○		1					
			ミートジャッジング（畜産物品質評価実習）	３前		1				○		1		1			共同
			草地利用学	３前		1		○						1			
			畜産物利用学	３前		2		○						1			
			食品科学	３前		2		○			1						
			バイオインフォマティクス	３後		1		○								兼2	共同
			スマート畜産論	３後		1		○						1			
			飼料資源化学概論	３後		2		○			1	1					共同
			家畜人工繁殖学実習	４前		1				○						兼1	
			家禽生産学	４前		1		○								兼1	
			畜産物高度利用学	４後		1		○								兼2	共同
			動物臨床検査学	３前		2		○								兼2	共同
			動物医療看護概論	３前		2		○								兼3	共同
			動物看護各論	３前		2		○								兼2	オムニバス
			動物検査学実習	３前		1				○						兼2	共同
			動物看護学実習I	３前		1				○						兼3	共同
			動物看護学実習II	３後		1				○						兼1	
			動物内科学	３後		2		○								兼1	
			動物外科学	３後		2		○								兼1	
			適正飼養指導論	４前		1		○								兼1	
			動物生活環境学	４前		1		○								兼1	
			産業動物治療学実習	３後		2				○						兼3	共同

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物医療総合実習Ⅰ	４前		2				○						兼5	共同
			動物医療総合実習Ⅱ	４前		2				○						兼11	共同
			食料経済学	３後		2		○								兼1	
			応用微生物学	４前		2		○								兼1	
			農産物マーケティング論	４前		2		○								兼1	
			食料安全生産論	４前		2		○								兼1	
		小計（30科目）		－	0	46	0	－			3	1	0	2	0	兼22	
	小計（72科目）			－	68	46	0	－			4	2	0	2	0	兼41	
合計（206科目）				－	94	268	0	－			4	2	0	2	0	兼420	
自由科目（卒業要件外）			伴侶動物学	４前			2	○								兼1	
			愛玩動物関連産業概論	４前			1	○								兼1	
			作物学	４前			2	○								兼1	
			スマート農学入門	４前			2	○			1					兼9	オムニバス，共同（一部）
			農業と社会	１前			2	○								兼4	オムニバス
合計（5科目）				－	0	0	9	－			1	0	0	0	0	兼14	

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目30単位、専門教育科目の必修科目68単位、選択科目26単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） （共通教育科目の必修科目は、１年次に履修すること。）	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

【既設】（農学部全学科共通）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーI	1前	2			○				1				兼12	
			初年次セミナーII	1後	2			○				1				兼12	
			大学と地域	1前	2			○								兼5	
			情報活用	1前	2			○				2					
			体育・健康科学理論	1前	1			○								兼1	
			体育・健康科学実習	1前	1					○						兼4	
			小計（6科目）	－	10	0	0	－			0	3	0	0	0	兼34	
		グローバル教育科目	英語IA	1前	1			○								兼5	
			英語IB	1前	1			○								兼6	
			英語IIA	1後	1			○								兼5	
			英語IIB	1後	1			○								兼6	
			英語Ⅲ	2前	1			○								兼6	
			英語Ⅳ	2後	1			○								兼5	
			異文化理解入門	1前	2			○								兼5	オムニバス
			小計（7科目）	－	8	0	0	－			0	0	0	0	0	兼38	
		日本語・日本事情	日本語Ⅰ	1前	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本語Ⅱ	1前	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本語Ⅲ	1後	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本語Ⅳ	1後	1			○								兼2	外国人留学生のみ
			日本事情A	1前	2			○								兼1	外国人留学生のみ
			日本事情B	1後	2			○								兼1	外国人留学生のみ
			小計（6科目）	－	8	0	0	－			0	0	0	0	0	兼10	
	小計（19科目）			－	26	0	0	－			0	3	0	0	0	兼82	
	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	「起業」－ビジネスの発見と創出	１後		2		○							兼1	
				アメーバ経営	１前・後		2		○							兼1	
				グローバル人材育成（雲南）	１後		2			○	2	4		3		兼3	共同・集中
				コーポレート・ファイナンス	１後		2		○							兼1	
				医学・行動心理学入門	１前		2		○							兼2	共同・集中
				稲盛和夫のベンチャー企業論	１前		2		○							兼2	オムニバス
				稲盛和夫の経営哲学（Ⅰ）	１前		2		○							兼1	
				稲盛和夫の経営哲学（Ⅱ）	１後		2		○							兼1	
				韓国語入門Ⅰ	１前・後		1		○							兼1	
				韓国語入門Ⅱ	１後・2前・後		1		○							兼1	
				教育社会学入門	１前		2		○							兼1	
				現代の日本政治	１前		2		○							兼1	
				現代社会を考える	１後		2		○							兼1	
				現代哲学入門	１後		2		○							兼1	
				古代東アジアの王陵	１前		2		○							兼1	
				行動科学	１前・後		2		○							兼1	
				自然学校へ行こう	１前		2		○			1				兼1	
				自然学校へ行こう　実践編Ⅰ	１前		2			○		1					集中
				自然学校へ行こう　実践編Ⅱ	１後		2			○		1					集中
				鹿児島探訪－歴史－	１前・後		2		○							兼1	
				実験医学・行動心理学	１前		2			○						兼2	共同・集中
				社会学の世界	１後		2		○							兼1	
				戦後日本外交史	１後		2		○							兼1	
				大人になるための政治学	１後		2		○							兼1	
				知的財産制度の基礎	１後		2		○							兼1	
				中国語入門Ⅰ	１前・後		1		○							兼1	
				中国語入門Ⅱ	１後・2前・後		1		○							兼1	
				中国文学の世界	１後		2		○							兼1	
				貞観政要を読む－帝王学入門－	１前		2		○							兼1	
				独語入門Ⅰ	１前		1		○							兼1	
				独語入門Ⅱ	１後		1		○							兼1	
				日本国憲法	１後		2		○							兼1	
				美術への誘い	１前		2		○							兼5	オムニバス・集中
				仏語入門Ⅰ	１後		1		○							兼1	
				仏語入門Ⅱ	２前		1		○							兼1	
				文化人類学の世界	１後		2		○							兼1	
				簿記入門	１前		2		○							兼1	
				方言コンテンツを作ろう	１前		2		○							兼1	
				方言学入門	１後		2		○							兼1	
				陽明学入門	１後		2		○							兼1	
				小計（40科目）	－	0	72	0	－		2	5	0	3	0	兼47	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

【既設】（農学部全学科共通）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（自然科学分野）	くらしの化学	１後		2		○								兼1	
				ヒトの産み育てを考える	１前		2		○								兼8	オムニバス
				遺伝のしくみ	１前		2		○			1					兼1	オムニバス
				宇宙のすがた	１前		2		○								兼1	
				化学と環境	１後		2		○								兼1	
				家畜の歴史	１後		2		○								兼1	
				教養の物理学入門	１前		2		○								兼1	
				教養線形代数学	１前		2		○								兼1	隔年
				鹿児島の自然史	１前		2		○								兼1	
				初心者のためのサバイバル生物学	１前		2		○								兼1	
				焼酎	１前・後		2		○			3	2					オムニバス
				情報セキュリティ入門	１後		2		○								兼1	
				食品・化粧品・医薬品の有機化学	１後		2		○								兼1	
				世界を変えた有機分子	１後		2		○								兼1	
				生化学実験Ⅰ	１後		2				○						兼2	共同
				生物学入門	１前		2		○								兼1	
				生命科学情報活用１	１後		2			○							兼2	共同
				電気電子工学入門	１後		2		○								兼3	オムニバス
				動物の感覚・脳・行動	１後		2		○			1					兼13	オムニバス
				動物の病気	１前		2		○								兼15	オムニバス
				脳と心の生物学	１前		2		○								兼10	オムニバス
				保健学入門	１後		2		○								兼1	
				暮らしの中のバイオ	１前		2		○			5	7		1			オムニバス
				遊び心と科学	１後		2		○								兼1	
				理系ジャーナリズム	１前		2		○								兼3	オムニバス
				小計（25科目）	－	0	50	0	－			8	8	0	1	0	兼83	
			教養活用科目（統合Ⅰ）	Intercultural Communication for Global Citizens	１後		2		○								兼1	
				Intercultural Understanding and Acceptance	１前		2		○								兼1	
				いのちと地域を守る防災学Ⅰ	１前		2		○						1		兼11	オムニバス
				かごしま教養プログラム	１前		2		○								兼1	集中
				キャリアデザイン	１前・後		2		○								兼5	オムニバス・共同(一部)
				稲盛哲学：稲盛研究の最高峰が伝授	１前		2		○								兼1	
				自然体験活動入門講座	１前		2				○						兼1	集中
				身の周りの男女共同参画	１後		2		○								兼1	
				身近な話題の生物学	１後		2		○								兼1	
				進取の精神を学ぶ	１前		2		○								兼1	
				人生における出会いの意義と役割	１後		2		○								兼1	
				大学で学ぶ	１前		2		○								兼3	オムニバス
				地域コミュニティ論	１前		2		○								兼1	
				地域リサーチ・スタートアップ	１後		2			○							兼2	共同
				地域防災学実践	１前		2		○								兼4	
				防災フィールドワーク	１後		2			○							兼2	集中
				倫理学入門	１前		2		○								兼1	
				小計（17科目）	－	0	34	0	－			0	0	0	1	0	兼38	
			教養活用科目（統合Ⅱ）	いのちと地域を守る防災学Ⅱ	１後		2		○								兼6	オムニバス
				かごしまフィールドスクール	１前		2				○						兼1	
				がんはなぜおこるのか：がんとの共生	１前		2		○								兼14	オムニバス
				ヒトの身体の仕組みと働き	１前		2		○								兼6	オムニバス
				ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅰ	１前		2		○								兼6	オムニバス
				ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅱ	１後		2		○								兼6	オムニバス
				医学・脳科学入門	１後		2		○								兼2	共同
				稲盛和夫のリーダー論	１前		2		○								兼1	
				宇宙・地球における計測・計量	１後		2		○								兼1	
				屋久島の環境文化Ⅰ－植生－	１後		2				○						兼1	共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅱ－生き物－	１前		2				○	1					兼1	共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅲ－産業－	１前		2				○						兼2	共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅳ－生活と文化－	１後		2				○						兼2	共同・集中
				価値創造の場	１後		2		○								兼1	
				環境と進化の科学	１前		2		○								兼1	
				ロと顔の科学	１前・後		2		○								兼24	オムニバス
				国際感覚を持つバイテク人材育成	１後		2				○	1	6	1	1			共同・集中
				最先端医療を創出するバイオ研究	１前		2		○								兼8	オムニバス
				自己理解・他者理解と障害理解	１後		2		○								兼1	
				自然学校インターンシップⅠ	１前		2				○		1					集中
				自然学校インターンシップⅡ	１後		2				○		1					集中
				自然環境保全と世界遺産	１後		2		○								兼1	
				鹿児島探訪－文化－	１前		2		○								兼1	
				実験医学・脳科学	１後		2				○						兼2	共同
				森・ひと・体験	１後		2				○		1					集中

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

【既設】（農学部全学科共通）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	進取の精神海外研修inベトナム	１前		2				○						兼3	共同・集中
				地域環境論	１前		2		○								兼2	オムニバス
				島のしくみ	１前		2				○						兼1	共同・集中
				南太平洋多島域	１前		2		○								兼4	オムニバス
				農家民泊体験講座	１前		2				○		1					
				派遣留学Ⅰ	１後		1			○							兼1	集中
				派遣留学Ⅱ	１前・後		1			○							兼2	集中
				有機農業Ⅰ　新しい食と農のかたち	１前		2		○				2					オムニバス
				留学生のための異文化理解	１後		2		○								兼1	
				小計（34科目）	－	0	66	0	－			1	8	1	1	0	兼103	
			小計（116科目）		－	0	222	0	－			10	14	1	4	0	兼271	
	小計（135科目）				－	26	222	0	－			10	15	1	4	0	兼353	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

【既設】（農学部農業生産科学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通教育科目																	
専門教育科目	農学部共通科目	学部共通履修科目	国際協力農業体験講座-東南アジアファームステイ-	1・2・3・4前		2		○			1	4		1		兼1	集中
			公開森林実習	1・2・3・4前・後		1				○		1					集中
			国際食創システム学（食と健康）	4前・後		2		○			1						集中
			国際食創システム学（食の安全）	4前・後		2		○				1					集中
			協同組合を知ろう	3後		2		○			1						
			応用植物科学	1前		1		○			3	4	1				集中
			家畜生産の科学	1前		1		○			1						集中
			現代農業と食料・環境	1前		1		○			3			1			集中
			食品機能科学	1前		1		○			1						集中
			食をめぐる環境と食の安全	1前		1		○			1	6		1			集中
			焼酎発酵・微生物科学序論	1前		1		○			3	2		1		兼1	集中
			SDGｓと森林	1前		1		○				4		2			集中
			未来の農業とスマート農業（農業ICT）	1前		1		○				1		2			集中
			小計（13科目）	－	0	17	0	－			14	22	1	7	0	兼1	
専門基礎科目	必修科目、選択必修科目、選択科目、選		農学入門－食・生命・環境科学の挑戦－	1前	1			○			4	7	1			兼1	オムニバス
			農業と社会	1前	2			○			3			1			オムニバス
			応用植物科学概論	1後	2			○			1						オムニバス
			畜産科学概論	1後	2			○			3	4					オムニバス
			遺伝学	1後	2			○			1						
			農業生産科学農場実習	1前・後	1					○	2	2	1				通年
			生物統計学	2後	2			○			1						
			国際開発学	1後		2		○			1						集中
			小計（8科目）	－	12	2	0	－			13	12	1	1	0	兼1	
応用植物科学コース　専門科目（講義、実験、演習等）	必修科目、選択科目、選択必修科目		栽培技術論	2前	2			○			1	1					
			果樹園芸学	2前	2			○			1						
			蔬菜園芸学	2前	2			○				1					
			耕地生態学	2前	2			○			1	1					オムニバス
			植物生理学	2前	2			○				1					
			植物病理学	2前	2			○				1					
			農業経営学	2前	2			○						1			
			作物学	2後	2			○				1					
			熱帯作物学	2後	2			○			1						
			植物育種学	2後	2			○			1						
			植物遺伝資源学	2後	2			○					1				オムニバス
			観賞園芸学	2後	2			○				1					オムニバス
			害虫学	2後	2			○			1						
			農場実習Ⅰ	2後	1					○	2	2	1			兼1	
			植物生産学実験Ⅰ	2後	1					○		1					オムニバス
			農場実習（集中）	2前・後	1					○	2	1	1				通年
			畜産学	3前	2			○			1	1					オムニバス
			植物生産学英語	3前	2			○				1					
			農場実習Ⅱ	3前	1					○	2	2	1			兼1	
			植物生産学実験Ⅱ	3前	1					○		1					オムニバス
			植物生産学実験Ⅲ	3前	1					○		1					オムニバス
			農場実習Ⅲ	3後	1					○	5	4	1				
			植物生産実地研修	3前・後	1					○		1					通年
			植物生産学応用実験	3前・後	2					○		1					オムニバス
			欧文講読	4前	2			○				1					
			卒業論文	4前・後	6			○			6	4	1				
			家畜管理学	2前		2		○				1					
			基礎分子生物学	2前		2		○				2					オムニバス
			食品化学	2前		2		○								兼1	
			植物病原微生物学	2後		2		○				1					
			生物化学Ⅰ	2後		2		○				1					
			植物バイオテクノロジー	3前		2		○				1					
			生物的防除論	3前		2		○			1						オムニバス
			植物形態学	3前		2		○			1						
			Agricultural Production Science	3前		2		○			1						
			植物栄養・肥料学	3前		2		○				1					
			青果保蔵学	3前		2		○				2					
			土壌科学	3前		2		○			1						
			育林学	3前		2		○				1					
			地域実習	3前・後		1				○		1					通年・集中
			雑草防除学	2・3前		2		○								兼1	隔年
			家畜繁殖学	3後		2		○				1					
			農業経済学入門	3後		2		○								兼1	
			農業政策学	3後		2		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

【既設】（農学部農業生産科学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	応用植物科学コース　専門科目（講義、実験、演習等）	必修科目、選択科目、選択必修科目	食品微生物学	3後		2		○			1						オムニバス
			細胞分子生物学	3後		2		○			1						
			インターンシップ研修	3前・後		1				○	1	1					通年・集中
			比較環境農学	3後		2		○			1						
			応用微生物学	4前		2		○			1						
			森林生態学	4前		2		○				1					
			砂防学	4前		2		○			1						
			環境物理学実験	4前		1				○	1	1		1			
			水土実験	4前		1				○		1		1			
			Elements of Agricultural Science	4後		2		○				1					
			有機畜産論	4後		2		○				1					
			農業機械学	4後		2		○						1			オムニバス
			小計（56科目）	－	48	56	0	－			14	17	1	3	0	兼4	
	畜産科学コース　専門科目（講義、実験、演習等）	必修科目、選択科目、選択必修科目	畜産学	2前	2			○			1	1					オムニバス
			応用動物行動学	2前	2			○				1					
			家畜管理学	2前	2			○				1					
			家畜栄養学	2前	2			○				1					
			畜産化学実験	2前	1					○	1						
			牧場実習	2前	1					○		1					集中
			家畜生理学	2前	2			○								兼2	
			栄養生化学実験	2前	1					○		1					
			家畜育種学	2後	2			○			1						
			家畜繁殖学	2後	2			○				1					
			家畜生体機構学	2後	2			○				1					
			作物学	2後	2			○				1					
			生物化学Ⅱ	2後	2			○				1					
			家畜育種・繁殖学実験	2後	1					○	2	1					オムニバス
			飼料化学	3前	2			○			1						
			動物性食品学	3前	2			○				1					
			家畜飼養管理学演習Ⅰ	3前	1				○			1					オムニバス
			家畜解剖学演習	3前	1				○							兼1	集中
			畜産科学英語	3前	2			○			1						
			動物発生工学	3後	2			○				1					
			家畜微生物学概論	3後	2			○			1					兼1	
			家畜疾病概論	3後	2			○								兼8	
			食肉科学	3後	2			○				1					
			情報処理演習	3後	1				○		1						
			家畜飼養管理学演習Ⅱ	3後	1				○			1					オムニバス
			欧文講読	4前	2			○			1						
			卒業論文	4前・後	6			○			3	4					
			動物分子遺伝学	2前		2		○			1						
			応用微生物学	2・4前		2		○			1						
			農業経営学	2・4前		2		○						1			
			有機畜産論	2後		2		○				1					
			生物化学Ⅰ	2後		2		○				1					
			畜産生化学実験	2後		1				○	1	1					
			動物資源保護論	3前		2		○			1	1					オムニバス
			動物生殖工学	3前		2		○			1						
			栄養生理化学	3前		2		○			1						
			食品化学	3前		2		○								兼1	
			基礎分子生物学	3前		2		○				2					オムニバス
			雑草防除学	2・3前		2		○								兼1	集中・隔年
			家畜衛生学	3前		2		○								兼3	
			飼料資源化学概論	3後		2		○			1	1					
			食料経済学	3後		2		○			1						
			食品衛生学	3後		2		○								兼1	オムニバス
			インターンシップ研修	3前・後		1				○	1	1					通年
			農産物マーケティング論	4前		2		○			1						
			植物栄養・肥料学	4前		2		○				1					
			土壌科学	4前		2		○			1						
			食料安全生産論	4前		2		○						1			
			家畜人工繁殖学実習	4前		1				○	1	1					集中
			食品機能学	4後		2		○			1						オムニバス
			森林動物学	4後		2		○						1			
			小計（51科目）	－	50	45	0	－			8	12	0	3	0	兼16	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

【既設】（農学部農業生産科学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専門教育科目	食料農業経済学コース　専門科目（講義、実験、演習等）	必修科目、選択科目、選択必修科目	農産物価格理論	2前	2			○			1						
			農業経営学	2前	2			○						1			
			フードシステム入門	2後	2			○			1						
			農業経済学入門	2後	2			○								兼1	
			食料経済学	2後	2			○			1						
			農業生産学実習	2後	1					○	1	1				兼1	オムニバス
			農産物流通論	3前	2			○			1						
			農産物マーケティング論	3前	2			○			1						
			農村計画学	3前	2			○						1			
			国際農業論	3後	2			○			1						
			農業政策学	3後	2			○			1						
			食料農業経済学英語	3後	2			○			1						
			農村課題解決プログラム	3後・4前	4			○			1						通年
			欧文購読	4前	2			○								兼1	
			卒業論文	4前・後	6			○			3			1			
			栽培技術論	2前		2		○			1	1					
			植物生理学	2前		2		○				1					
			植物病理学	2前		2		○				1					
			蔬菜園芸学	2前		2		○				1					
			果樹園芸学	2・4前		2		○			1						
			畜産学	2・4前		2		○			1	1					オムニバス
			家畜管理学	2前		2		○				1					
			家畜栄養学	2前		2		○				1					
			森林経済学	2前		2		○						1			
			作物学	2後		2		○				1					
			植物育種学	2後		2		○			1						
			熱帯作物学	2・3後		2		○			1						
			観賞園芸学	2後		2		○				1					オムニバス
			家畜生体機構学	2後		2		○				1					
			有機畜産論	2後		2		○				1					
			家畜繁殖学	2・3後		2		○				1					
			森林政策学	2後		2		○								兼1	
			耕地生態学	3前		2		○			1	1					オムニバス
			植物形態学	3前		2		○			1						
			応用動物行動学	3前		2		○				1					
			基礎分子生物学	3前		2		○				2					オムニバス
			土壌科学	3前		2		○			1						
			森林政策実施論	3前		2		○								兼1	
			雑草防除学	2・3前		2		○								兼1	集中・隔年
			植物遺伝資源学	3後		2		○					1				オムニバス
			害虫学	3後		2		○			1						
			家畜育種学	3後		2		○			1						
			インターンシップ研修	3前・後		1				○	1	1					通年・集中
			動物資源保護論	4前		2		○			1	1					オムニバス
			品質管理システム学	4前		2		○				1					
			植物栄養・肥料学	4前		2		○				1					
			比較酒文化論	4前		2		○			1					兼2	
			小計（47科目）	－	35	63	0	－			13	12	1	2	0	兼6	
	小計（175科目）			－	145	183	0	－			19	25	1	6	0	兼21	
合計（310科目）				－	171	405	0	－			28	41	2	10	0	兼374	

学位又は称号	学士（農学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目36単位、専門基礎科目から必修科目12単位、専門教育科目から各コースごとに定められる必修科目、選択科目、選択必修科目76単位以上を修得し、124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間）） （履修科目の登録の上限：48単位（年間））	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業の標準時間	９０分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

【既設】（農学部農業生産科学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考

コース名						応用生物科学	畜産科学	食料農業経済学
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーⅠ			2		
			初年次セミナーⅡ			2		
			大学と地域			2		
			体育・健康	理論		1		
				実習		1		
			情報活用			2		
		グローバル教育科目	英語			6		
			異文化理解入門			2		
	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目	人文・社会科学分野		4		
				自然科学分野	選択科目	4		
					高度教育入門科目	4		
			教養活用科目	統合Ⅰ		4		
				統合Ⅱ				
			自由選択科目			2		
共通教育科目単位数計						36		
専門教育科目	専門基礎科目				必修科目	12	12	12
	専門科目				必修科目	48	51	37
	専門基礎科目または専門科目				選択科目	28	25	39
専門基礎科目または専門科目単位数計						88		
合計単位数						124		

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	必修科目	初年次教育科目	初年次セミナーⅠ	初年次セミナーⅠは、大学生としての基本的姿勢と市民性の理解を目指した「スチューデント・スキル」を題材としながら、基礎的なプレゼンテーション力を身に付けることを目的とする科目である。スチューデント・スキルでは、大学生としてのキャリアデザインのほか、科学や研究に関する倫理、労働・消費者問題や人権といった現代社会が抱える諸課題について扱う。約30人程度の学部混成型クラス編成で、多様な興味・関心を持つ他者とのグループ活動を基盤とするアクティブ・ラーニング型授業である。 大学での学習は、様々な問題の中から自ら課題を発見し、適切な情報を収集・精査して活用し、合理的な解決策を導き出していくことが求められる。この科目は、そのための基礎を育成する科目といえる。	
			初年次セミナーⅡ	「初年次セミナーⅠ」で学んだ基礎力に基づき、自身が明らかにした探究の成果を適切に文章表現するためのスキル育成を目指す。 授業は、各課題のテーマに関して、ペアやグループでコミュニケーションを図りながら学習を進める。ワークシートの内容確認や収集した資料の生かし方などについて話し合いつつ、根拠に基づく主張の意義を理解し、かつ分かりやすい表現などを修得して、適切な論証型レポートの作成能力の修得を目指す。	
			大学と地域	鹿児島という地域を題材に授業を進め、鹿児島について知り、理解する。ただし、鹿児島に関する知識の暗記は求めない。 本授業でより重要視されるのは、論理的思考力、情報収集・分析能力等の大学生に求められる基礎的な能力を身に付けることである。知るだけで終わるのではなく、さらに考えることが求められる。 第１回授業にてガイダンスを実施し、第２回授業以降は、全１２回の話題提供講義に基づく個人の学び、それに続く意見交換によるグループでの学びを実施する。	
			情報活用	パーソナルコンピュータの操作、情報セキュリティに関する知識、そしてインターネットを利用した情報の発信 ・収集といったコンピュータ及び通信ネットワークを活用する能力は、高度情報化社会の現代に生きる我々にとって身に付けるべき重要かつ基本的な技能・知識の一つである。本授業では、このようなコンピュータ及び通信ネットワーク並びに情報セキュリティに関する基礎知識を修得し、加えてAI社会に対応するために必要な数理・データサイエンス・AI（以下、DS）の基礎知識を習得することを目的とする。授業は端末を使用した演習を多く含み、担当教員や教育補助員（Teaching Assistant等）が演習をサポートする。 DS教育の一環として情報科学に関する基本情報の収集手法や収集したデータの統計学的見方の基礎を学ぶ。さらにDS分野における応用例の現状、ビックデータが活用されている社会的状況、数理データサイエンスAIによる分析が一般社会活動で必要不可欠になっている現状についても学ぶ。	
			体育・健康科学理論	大学において充実した生活を送り、さらに生涯にわたって豊かな人生を送るためには、身心の健全な育成と健康の増進が不可欠である。この授業は、身心の基本的な機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な運動、栄養、休養のライフスタイルのあり方について、生活の中で実践できるようになることを目的とする。 授業内容としては、まずわが国の健康の現状から、現代日本人が共通に気をつけるべき健康問題を把握し、このような健康問題への対処法を、主として運動、栄養、休養の観点から提示し、日常生活での実践に結びつけられるようアンケートやグループワークで理解を深める。	
			体育・健康科学実習	「体育・健康科学理論」で学習した身体の機能とその適応性や健康と運動の関係などを背景に、本実習では実習ノートをもとに、各自の身体能力について測定し、自己の形態や体力の現状を把握する。そして、具体的な健康づくりに適した運動を安全に実施するための方法を学ぶ。	
		グローバル教育科目	英語 Ⅰ A	ELAコースは、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。「大学ならではの英語」「大学生に必要な英語」としてとらえ、学習を通して教養を深め、人格形成に努めていく。それらに役立つ内容（多様なものの見方、価値観、歴史的変遷、社会情勢、異文化に関する問題など）を理解し、考えを深める習慣を身に付け、大学1年間を通して視野の拡大と個の確立をめざす。前期のこの科目では、(1) 大学生としての自己発見と自己覚醒（Self-Discovery and Self-Awareness）[Stage 1] (2) 大学生としてのアイデンティティ構築（Self-Identity Development）[Stage 2]というプロセスで進めていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	必修科目	グローバル教育科目	英語Ⅰ B	EGAPコースはELAコース同様、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。EGAPでは大学生での所属（学部、学科）を軸に、専攻分野や学術上の専門領域に対する関心を、英語学習を通して高めていく。前半にあたるこの科目では、最初から専門性に目を向けるのではなく、その周辺・関連領域にまず目を向け、広い視点から自分自身の所属（学部、学科）と専攻について考えていく学際的な視点を養う。「使う英語」「自己表現のための英語」を意識し、ライティングとスピーキング能力を統合的に習得し、内容と論理性にすぐれたコミュニカティブな英語運用能力を獲得し、高めていく。同時にELAコースで習得するリーディング（音読）、リスニング（シャドウイング）のスキルをEGAPコースで活用していく。	
			英語ⅡA	ELAコースは、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。「大学ならではの英語」「大学生に必要な英語」としてとらえ、学習を通して教養を深め、人格形成に努めていく。それらに役立つ内容（多様なものの見方、価値観、歴史的変遷、社会情勢、異文化に関する問題など）を理解し、考えを深める習慣を身に付け、大学1年間を通して視野の拡大と個の確立をめざす。後期にあたるこの科目では、(2) 大学生としてのアイデンティティ構築（Self-Identity Development）[Stage 2] （継続）(3) 大学生としての自己省察と自己表現（Self-Reflection and Self-Description） [Stage 3]というプロセスで進めていく。	
			英語ⅡB	EGAPでは大学生での所属（学部、学科）を軸に、専攻分野や学術上の専門領域に対する関心を英語学習を通して高めていく。後半にあたるこの科目では、自分が所属する学部、学科（専門分野）の科学技術面への関心を高める。前期の学習活動の継続・強化をめざし、「使う英語」「自己表現のための英語」を意識し、ライティングとスピーキング能力を統合的に習得し、内容と論理性にすぐれたコミュニカティブな英語運用能力を獲得し、高めていく。同時にELAコースで習得するスキルをEGAPコースで効果的に活用していく。高次の英語統合・活用能力を獲得し、実現できるようにする。	
			動物基礎英語	この科目は、畜産動物科学専攻の学生が、進路選択や将来の研究、自身の研究に役立つ国際的な知識を得るために役立つレベルの英語力を身に付けることを目的としている。この科目では、英語の主要概念の紹介、主要分野（動物の飼育・検査・治療、現代農業の問題点、生産動物研究のアプローチなど）の解説を行う予定である。この分野の専門用語の習得と国際的な動物科学者との英語でのコミュニケーション能力を身に付けるため、教師による指導と、バーチャルホワイトボードやバーチャルアナトミーソフトなどの教室技術を用いた個人及びグループワークが混在したコースとして実施される予定です。授業では、アクティブラーニングを取り入れ、実際の英語（畜産学者、農家、その他の関係者によるスピーチやライティング）に触れることができる。	
			異文化理解入門	グローバルな時代に生きていることを改めて認識し、英語圏以外の多様な文化を理解し受容する態度、自文化をより深く知ろうとする姿勢、ものごとを複眼的に考察・判断できるような素地を涵養することを目的とする。なお、学部学科によっては初修外国語学習への動機付けも図る。 日本語、日本文化・日本事情、日本人のものの見方や考え方などと比較対照しながら、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びイスラーム圏の言語(クラスによりアラビア語又はトルコ語)の特徴やあいさつことばなどの日常表現、英語文化圏以外の地域の文化・風習・現代事情、各文化圏に住む人々のものの考え方・価値観・生活習慣、各文化圏に対する一般的なイメージ・固定観念・ステレオタイプ的思考とそこから生じる偏見や誤解、授業担当者自身の異文化体験(当該言語文化を学ぶようになったきっかけ、異文化に触れて、あるいは異なる文化背景の人々と付き合う中で経験した驚き・当惑・困惑・トラブルなどの実例)などを授業内容とする。独語文化圏、仏語文化圏、中国語文化圏、韓国・朝鮮語文化圏、イスラーム文化圏に関する授業を各3回ずつの総合講義形式で行う。 (オムニバス方式/全15回) (113　大野　克彦/3回)独語文化圏に関する講義を行う。 (255　二村　淳子/3回)仏語文化圏に関する講義を行う。 (192　寺西　光輝/3回)中国語文化圏に関する講義を行う。 (140　鄭　芝淑/3回)韓国・朝鮮語文化圏に関する講義を行う。 (249　宍戸　克実/3回)イスラーム文化圏に関する講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	必修科目	日本語・日本事情		日本語Ⅰ	この授業では、外国人留学生が大学での勉学の土台となるアカデミックスキルを身に着けることを目的とする。 内容は、レジュメや課題作成に必要な要約、引用、コメントシート作成等について学ぶ。 外国人留学生が、第二言語としての日本語力を伸ばしながらスキルを身に付けられるよう実践的な課題に多く取り組む。	
				日本語Ⅱ	この授業では、外国人留学生が大学の学業生活に必要な日本語の技能の中から、レポートを書く技能をとりあげ、レポート作成に必要な様々な日本語の表現を学ぶことを目的とする。 授業は、基本的に教科書にそって行い、レポートの各構成部分で多用される文型を紹介し、使い方を説明したのち、練習問題や補足プリントにより表現の使い方を学ぶ。さらに、教科書の各課でとりあげた表現を利用した課題（宿題）を課す。豊富な練習と添削を通して、レポート作成に必要な表現を身に付けて行く。	
				日本語Ⅲ	この授業では、外国人留学生が大学での学業生活に必要なスキルの中で、特に「話す」スキルの向上を目指す。 大学においてロ頭発表を行うために必要な知識と表現、スキルを学び、最終的に個人でロ頭発表を行う。	
				日本語Ⅳ	外国人留学生がこれまでに学習したレポートで使われる様々な表現を用いて、信頼性のある資料にもとづいた論証型レポートを作成することを目的とする。 内容は、テーマの設定から、資料の収集・精査、レポートのアウトライン、パラグラフ・ライティング、引用・図表の説明の仕方などを学びながら、3000字程度の論証型レポートを作成する。なお、外国人留学生がこれまでに作成した自身のレポートを書き直す作業も行う。	
				日本事情A	授業の目的は、外国人留学生が日本の大学、日本社会で円滑な学生生活を送り、自分の目標を達成できるように、日本語能力を強化し、日本理解を深め、基本的な自己発信ができることである。 授業の内容は、日本の経済・金融・政治・行政・社会・生活に関するニュースを聴き取りその概要を理解するとともに、日本の状況と比較し自国の状況についてロ頭発表を行うことを主とする。 授業の方法は、Zoomを用いた遠隔授業で、配布資料による講義・聴解、グループワーク、ロ頭発表（複数回）、小レポート・小テスト（複数回）などを行うことにより、総合的な学習能力の強化を図る。	
				日本事情B	授業の目的は、外国人留学生が日本の大学、日本社会で円滑な学生生活を送り、自分の目標を達成できるように日本語能力を強化し、日本理解を深め、基本的な自己発信ができることである。 授業の内容は、日本の少子高齢化・科学技術・企業と労働に関する文献を読み、その概要を理解するとともに、日本・友人の国の状況と比較し自国の状況についてロ頭発表を行うことを主とする。 授業の方法は、配布資料による講義・読解、グループワーク、ロ頭発表(複数回)、小レポート・小テスト(複数回)などを行うことにより、総合的な学習能力の強化を図る。	
	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	「起業」－ビジネスの発見と創出	鹿児島大学は、「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに発展する知の拠点を形成し、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。地域社会からは、起業マインドを持つ人材の輩出が期待されている。本学では既に教職員や大学院学生及び学部生から起業に挑戦する者も現れている。この機運をさらに高め、起業マインドを持つ人材の育成とその人材間・支援者間の交流ネットワーク形成を行うべく講義を開講する。社会情勢や「ヒト・モノ・カネ」の運用や流れを起業の観点から知ることで、日常生活の諸現象を複眼的な視点で理解できる。そのため、人間力の涵養にも資するものになる。 起業を取り巻く環境や社会・経済情勢を学び、チャレンジ精神（進取の精神）の実践として、ビジネスアイデアを共同で言語化する作業を行う。講義の前半は座学形式を主とし、後半はアクティブラーニングを志向したワークショップ形式とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	アメーバ経営	この講義の目的はアメーバ経営の基本のデザインと導入状況を理解することにある。 京セラ（株）は創業以来一度も赤字を出したことなく、成長性と収益性を両立してきた。その理由の一つは「アメーバ経営」にあると言われている。この講義は、主に管理会計の観点から、アメーバ経営を解説する。一方、広義のアメーバ経営は、管理会計的要素、組織的要素、稲盛フィロソフィを含み、三者が相互補完的に機能を発揮する。アメーバ経営を包括的に理解してもらうために、必要に応じて組織論（組織構造や組織文化）の内容も含む。また、アメーバ経営は、京セラグループだけではなく、多くの日本企業や海外企業にも導入されている。これらの企業へのアメーバ経営の導入状況を理解してもらうために、導入の概要や事例を講義内容に含む。	
				グローバル人材育成（雲南）	中国・雲南農業大学（雲南省）及び華中農業大学（湖北省）を訪問し鹿児島とは異なる環境の中に身を置いて、日本とアジアとの関連を考えるものである。技術的課題としては、茶、花卉、タバコ、ジャガイモ、畜産物、カンキツなどの農産品を生産する両省は、鹿児島県と似た農業環境を有することから、現地訪問を通じて鹿児島の農業との比較を行う適地である。特に、茶については、歴史的流通路である茶街道（茶馬古道）を学び、茶市場訪問、茶道体験を行い、また、花卉については、世界最大規模の花卉卸売市場訪問し、さらには、中国のカンキツの研究拠点を視察して理解を深める。さらに、本学と協定関係にある両農業大学において、鹿児島大学友好大使や連大を卒業した両校の教員から農業及び少数民族などに関する講義を受け、農業及び両省の社会的背景について学習する。また、雲南農業大学について平成22年度より実施している双方向の研修制度の一環として、英語によるプレゼンテーションを実施し、学生交流を促す。この他、両省の文化に直接触れ、比較することにより、「日本」を考える切掛けを見出し、「日本」を見つめ直す得難い機会となり、国際的人材育成にとって重要な学びの場とする。	共同・集中
				コーポレート・ファイナンス	講義では、コーポレートファイナンス(企業財務)の理論と実践を学ぶ。前半は価値について、後半はリスクとリターンについて学ぶ。さらに、講義で学んだ理論を全員参加の形で実践する。具体的には日本国債、不動産・リート、住宅ローンと上場企業の理論価値（現在価値）を求める。講義では日経新聞の記事などを用いながら、コーポレートファイナンスの基礎知識を楽しく勉強できるように工夫する。	
				医学・行動心理学入門	授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。授業の内容は、同じ日に同じ教室で開講される実験医学・行動心理学を受講するに当たって必要な基礎知識である。合計４単位が取得できる。授業の方法は、教員による講義と学生自身によるプレゼンテーションである。	共同・集中
				稲盛和夫のベンチャー企業論	この授業の目的は、将来、起業又は企業経営を目指す学生に、どのようにして会社を経営し成長させていくか、企業経営に必要なマインド及び会社経営の考え方について、基礎的な理解を図ることである。本講義では本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長、日本航空名誉顧問）と盛和塾（稲盛氏に学ぶ経営塾）の塾生との問答録をテキストとして使用する。授業内容としては、稲盛和夫氏の経営観を学習するとともに、企業経営を超えた基本的な人間観についても学習する。 (オムニバス方式/全15回) (177　吉田 健一/8回)オリエンテーション，「活力ある社風をつくる」，「社員のやる気を引き出す」「幹部を育てる」という題で講義を行う。 (197　劉 美玲/7回)「自らを高める」，「リーダーの役割10か条」「高収益の基盤を築く」，「挑戦し続ける企業を目指す」という題で講義を行う。	オムニバス方式
				稲盛和夫の経営哲学（Ⅰ）	授業の目的は、経営のベースとなる経営哲学について、現代日本の代表的経営者であり、本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏の思想を理解することである。経営哲学の意義と、そのあるべき内容を理解することが本講義の目的である。 授業の内容は、稲盛氏の経営哲学の集大成である『京セラフィロソフィ』を熟読し、経営学、思想、宗教、人間観の知識を総動員し、担当者が解説を加えていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	稲盛和夫の経営哲学（Ⅱ）	授業の目的は、経営のベースとなる経営哲学について、現代日本の代表的経営者であり、本学工学部の卒業生である稲盛和夫氏の思想を理解することである。経営哲学の意義と、そのあるべき内容を理解することが本講義の目的である。 授業の内容は、稲盛氏の経営哲学の集大成である『京セラフィロソフィ』を熟読し、経営学、思想、宗教、人間観の知識を総動員し、担当者が解説を加えていく。	
				韓国語入門Ⅰ	この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語及び日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることを目的とする。 授業内容としては、ハングル（韓国文字）の創字原理を理解しその読み書きに習熟すると共に、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。 教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。	
				韓国語入門Ⅱ	この授業の目的は、韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習すると共に、日本語及び日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることにある。 授業内容としては、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。また、韓国語に反映されていると考えられる韓国の価値観についても随時学習する。 教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。	
				教育社会学入門	教育社会学は、教育に関する様々な現象を、社会的背景と関連づけながら分析的に捉えようとする学問である。その分析対象は、例えば教育が個人や社会にもたらす利益（社会的に権威のある大学を卒業すれば良い仕事に就ける？）や教育をめぐる格差（なぜ鹿児島県の女子の大学進学率は低くなる？）、学校空間での権力関係（「リア充／陰キャ」というカテゴリーはなぜ生じる？）、若者の逸脱行動（ヤンキーはなぜ反抗する？）など、非常に多岐に渡る。私たちが教育というテーマについて考えるとき、これまでの人生において誰もが教育をすでに経験しているために、自分の経験や身近な人たちの価値観に基づいて理解しがちになる。この講義では、教育社会学の基礎的な理論や概念、分析事例について学ぶことで、現代社会における教育に関わる現象に対して多角的・批判的に考察する力を身に付け、教育をめぐる社会的公正について考察することを目的とする。 講義では、教育に関するいくつかのテーマと分析枠組み、データ等を提示し、それらを学生自身の経験と照らし合わせながら科学的に検討していく。配布資料や映像資料等による講義と課題レポートが中心となる。受講者には積極的な応答を求める。	
				現代の日本政治	授業の目的は、我が国の戦後政治史の知識を得た上で、今日的課題への理解を深めることである。 授業の内容は、大きく2期に分かれる。1回目「はじめにー政治とは？」から7回目「利益団体・社会集団・ネットワーク」までは、基本的な知識を伝授する。8回目から15回目までは、戦後の我が国の政治史を、主要政党の歴史に焦点を当てて概観する。本講義は「現代の日本政治」であるが、現在起こっている事の時事解説を直接的に行うものではない。現在起こっていることへの理解を深めるためにはある程度、歴史的な視点が必要であるという観点から、本講義では、前半では、政治を見る際の視点に触れ、後半では、我が国の現代政治について学ぶ。	
				現代社会を考える	日本をはじめ、現代の社会は変革期にある。この講義はこのような社会の変化を社会学の観点からいくつかのキーワードによって理解することで、社会的な視野や判断力、探求能力の涵養する。講義では配付資料をもとに現代社会を考える基本的枠組みを紹介し、現代日本社会の変化について考えていく。また、理解を深めるために適宜、新聞資料やビデオ資料などを使用する。 授業の準備としては、常に時事的な出来事に関心を払うことが必要になる。また、各回の内容に即して簡単な情報収集を指示することもある。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	現代哲学入門	幅広い視野から現代社会の諸問題の解決策を探るために、西洋現代哲学の展開について学習する。現代哲学の抽象的な議論を、現代社会の諸問題と関連づけ、自分の言葉で説明できるようになることを目的とする。 授業内容は、言語、身体、心、生命、技術という観点から西洋現代哲学の展開を学習する。これらの問題を巡って、現代フランス哲学、英米哲学、ドイツ哲学、それぞれの展開がどのように交差しているか学習する。 授業方法は、パワーポイントを用いた講義、グループワーク（ディベート）、manabaを活用した授業の振り返り、課題レポートを組み合わせた形式で行う。	
				古代東アジアの王陵	大型墳墓を素材として古代東アジアの遺跡・考古学研究の知識を得ること、東アジアの墳墓遺跡と国家形成の考古学研究についての概要や日本という国がどのように生まれてきたのか、どのような特徴をもっているのかを理解することを目的とする。 日本列島の古代、西暦3～6世紀には権力者のための墓として巨大な前方後円墳を造る社会が存在した。この前方後円墳はどういった存在だったのかを解説し、また、日本古代の古墳時代を同時代の東アジア社会と比較する。 人類史的に巨大なモニュメントにはどのような意味があったのかを考える。それには王墓の構造や副葬品の考古学研究で明らかにされつつある成果を紹介する。これらを通して日本という国の形成過程に関わる特質を理解する。	
				行動科学	授業の目的は、生きているヒト・動物の行動について理解と関心を持つことである。 具体的な行動の例を視覚的な材料を用いてわかりやすく解説し、ヒト・動物の持つ環境への適応行動やメカニズムを学ぶ。	
				自然学校へ行こう	自然体験や暮らしの体験を通じた教育活動をベースにしながら、地域の資源を活かし、新たな価値を創造し、ソーシャルビジネスを興していくことで持続可能な農山漁村社会をつくっていく一連の活動や組織を「自然学校」と呼ぶ。豊かで持続的な未来社会を創造するための新しい方法として、注目され始めている「仕事」である。この授業では、そんな自然学校の世界を知ってもらうことを目的に、九州各地で活動する自然学校の経営者たちを迎えて、そこでの取組と熱い想いを語ってもらう。 １.授業の目的は、自然学校について知り、将来の仕事を考えるきっかけとすること。 ２.授業の内容は、自然学校経営者の話を聴くこと。 ３.授業の方法は、毎回の講義とその感想レポートによる。	
				自然学校へ行こう　実践編Ⅰ	前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、自然学校に実際に行って活動してみたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地又は全国各地の自然学校等において、参加・体験活動（原則として７日間以上）を行うものである。なお、本授業を経てさらに深く実践的に学びたい学生は、「自然学校インターンシップ」を受講することができる。 １.授業の目的は、自然学校での体験を通じて、自然学校の意義や活動内容を理解することである。 ２.授業の内容は、各地の自然学校（教員が紹介します）へ行き、活動に参加すること。 ３.授業の方法は、７日間以上の体験活動と、それをまとめたレポート作成及び発表による。	集中
				自然学校へ行こう　実践編Ⅱ	前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、自然学校に実際に行って活動してみたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地の自然学校等において、体験活動（原則として７日間以上）を行うものである。 １.授業の目的は、自然学校での体験を通じて、自然学校の意義や活動内容を理解することである。 ２.授業の内容は、各地の自然学校（教員が紹介します）へ行き、活動に参加すること。 ３.授業の方法は、７日間以上の体験活動と、それをまとめたレポート作成による。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	鹿児島探訪－歴史－	現在の鹿児島県域における古代から中世にかけての歴史的展開を、資料を見ながら講義形式で概観する。 今日、常識とされていることでも、歴史的由来をたずねると案外その根拠が乏しいことが多い。虚心坦懐に史料から先人の残したメッセージを読み取ること、鹿児島の歴史的歩みを理解すること、現代の諸問題に対応する能力を身に付けることを目標とする。	
				実験医学・行動心理学	授業の目的は、実験動物の脳の仕組みを学ぶことを通じてヒトを含めた動物に共通な心理・行動の生物学的基盤を理解することである。実験を通じて、本を読んだだけではわかり難い医学・心理学の最先端の知識を具体的なイメージを伴って体得する。実験内容は、答えが予想できる実習形式のものから始め、最先端の未知の領域にも挑戦する。同じ日に同じ教室で開講される医学・行動心理学入門を受講することで合計４単位が取得できる。授業の方法は、各自が選択した課題を解決のための実験の遂行である。	共同・集中
				社会学の世界	社会学とは、「個人と社会」という視点から「自明性の剥奪」という研究姿勢をつうじて、日常世界を構成するさまざま現象にアプローチしようとする学問である。 本講義では、「コミュニケーション」就中「社会的コミュニケーション」という現象をテーマに取り上げ、まずその自明性と問題点を指摘し、次いでその問題点を克服しうるコミュニケーション観及び人間観を社会学等の観点から考察し、最後にそのコミュニケーション観に立脚したコミュニケーション理論を「シンボリック相互作用論」（Symbolic Interactionism）の視座と方法を用いて構築する。	
				戦後日本外交史	授業の目的は、戦後の我が国の外交史について、まずは、基本的な知識を身に付けることである。そのために、担当者（吉田）は出来るだけ、中立の立場で講義を心がけるつもりである。また、講義内容がある立場からだけの見解に偏らないように、採用する教科書以外の参考書の知見も講義で紹介する。知識を身に付けることと、自身の意見、見識を持つことの両方を目的とする。 授業の内容は、指定したテキストを解説するが、その際、受講生は事前にテキストを一読してきていることを前提に、テキストに記述していない細かなエピソードなども解説する。その上での担当者の個人的な問題意識をも講義で述べる。内容は1945（昭和20）年から今日に至るまでの日本外交を多面的な視点から概観するものである。	
				大人になるための政治学	本授業は、「社会に貢献するために必要な幅広い教養と高度な専門的知識、及びこれらに基づいた論理的思考力」を養成することを目指し、大人（≒市民）として必要な、最低限の政治に関する知識と、それらを科学的に考察し判断するための方法を習得してもらうことを目標とする。 授業内容は、私たちの生活に立ち現れるさまざまな問題が政治と密接に関わっていることに気づくことにはじまり、社会科学的視座より問題への理解を深める。そして、現在の問題へとつながる歴史や分析枠組みを知ることで、その原因や将来的展望について学習することを目指す。	
				知的財産制度の基礎	オープンイノベーションが重視される昨今、知的財産を核とした産業界、大学、行政の連携も積極的に進められており、技術系、事務系を問わず、現代社会で活動する者にとって知的財産についての素養は必須と考えられている。そこで、主に以下の事項について、講義及び実習により、知っておきたい知的財産全般についての知識の習得を図る。 (1)特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、不正競争防止法など知的財産法についての基礎を学ぶ。 (2)新聞等で話題になった具体的事例を通して、知的財産権の役割、意味について考える。 (3)アイデアの抽出法、特許や意匠・商標の検索法を実習を通じて習得する。 (4)データ分析、報告書作成の手法についても実習により学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	中国語入門Ⅰ	本授業は、中国語の初学者向けの授業である。基礎的な語彙や日常的で平易な会話文を学びながら、CEFRのpre-A1レベルの初歩的コミュニケーション能力の育成を目指す。 内容は、「読む」「聞く」「書く」「話す」といった中国語の基礎的能力を身に着けるとともに、中国語圏の文化や社会についても取り上げる。 方法は、各課で示された到達目標（Can-do）を目指し練習を進める。授業では、とりわけペアやグループでの練習を重視し、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていくなかで、実践的な中国語コミュニケーション能力を身に付けてい	
				中国語入門Ⅱ	中国語入門Iに引き続き、基礎的な語彙や日常的で平易な会話文を学びながら、CEFR A1レベルの初歩的コミュニケーション能力の育成を目指す。 内容は、「読む」「聞く」「書く」「話す」といった中国語の基礎的能力を身に着けるとともに、中国語圏の文化や社会についても取り上げる。 方法は、各課で示された到達目標（Can-do）を目指し練習を進めていく。授業では、とりわけペアやグループでの練習を重視し、情報差を埋める活動や、インタビュー、ゲームなどを通してクラスメートとつながっていくなかで、実践的な中国語コミュニケーション能力を身に付け	
				中国文学の世界	本授業は、中国古典文学史上の著名な作家、作品をとりあげ、作家の人生との関わりを中心にその文学の特色及び思想を理解することを目的とする。 今季の授業内容は三国・魏の曹植、同・阮籍、南朝・宋の陶淵明を取り上げ、彼等の詩の読解を通じて人生とその文学の本質を考えていく。	
				貞観政要を読む―帝王学入門―	この授業の目的は、古来、帝王学の教科書ともいわれた『貞観政要』を読むことにより、組織のリーダーに必要な資質及リーダーを支える人間に必要な資質について考え、理解を深めることである。『貞観政要』とは「貞観の治」（６２７年～６４９年）とよばれている中国史上、最も平和な治世を実現した唐の太宗皇帝（李世民：５９８～６４９）と名臣たちの政治問答集である。『貞観政要』は中国のみならず、日本においても北条政子や徳川家康、近くは明治天皇などに読まれてきた書物であり、組織の上に立つものにとって必要なことが説かれている。また、この書は、リーダーは如何にあるべきかということのみならず、リーダーを支える側近が如何にリーダーに諫言を行うか、人材の登用を如何に行うか、後継者はどのように育成すべきかなどについても論じられている。帝王学という言葉は、たまに聞く言葉であっても、正確に理解されていない言葉でもある。また、社会では誤解されている面もある。本講義で、その誤解を正すことも含め、本当にリーダーに必要な資質について考え、理解を深めるため実際の『貞観政要』をテキストとして使用する。	
				独語入門Ⅰ	この授業は、ドイツ語の発音、初歩的な語彙・文法・構文、挨拶・定型表現等を修得することを目的とする。 授業の内容は、ドイツ語の音声を聞き発音の練習を行ったり、動詞の変化や冠詞の格変化等といった基本的かつ重要なな文法事項について学習する。 教科書に基づいた講義、練習問題の実施と発表及び課題レポートを組み合わせた形式で行う。	
				独語入門Ⅱ	この授業は、ドイツ語の発音、初歩的な語彙・文法・構文、挨拶・定型表現等を修得することを目的とする。 授業の内容は、ドイツ語の音声を聞き発音の練習を行ったり、動詞の変化や冠詞の格変化等といった基本的かつ重要なな文法事項について学習する。 教科書に基づいた講義、練習問題の実施と発表、及び、課題レポートを組み合わせた形式で行う。	
				日本国憲法	日本国憲法を支える基本的な理念である「立憲主義」「民主主義」「平和主義」について、基礎的な知識を獲得すると共に、その知識をもとに課題を解決することができるようになることをめざす。 図書館を積極的に活用して学習を進められたい。憲法に関する基本的な知識については、予習段階で多様な参考文献を参照しつつ独習することが求められる。 予習・授業・復習のサイクルを重視するので、予習をしてこない学生には出席を認めない。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	美術への誘い	授業の目的は、絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術理論及び美術史・美術教育学の6分野における基礎的知識・技能を習得し、美術への興味・関心を獲得することである。 授業の内容は、美術作品の制作過程・技法・背景、歴史、教育等、6分野の基礎的な箇所を取り扱う。 授業の方法は、6分野を2-3コマごとにオムニバス形式で行うものである。 （オムニバス方式/全15回） （33　桶田 洋明/6回）絵画「絵の見方・感じ方」について講義を行う。 （180　和田 七洋/3回）デザイン「デザインとは何か」について講義を行う。 （134　清水 香/3回）工芸「やきものの魅力」について講義を行う。 （25　小江　和樹/3回）美術教育学「美術教育における教材」について講義を行う。	オムニバス方式・集中
				仏語入門Ⅰ	この授業ではフランス語の学習を通して、ヨーロッパ諸語の言語的特徴について知識を身に付け、その思考方式に親しみ、外国語文化一般を学ぶ基礎力を涵養することを目指す。また、国際社会における有力言語であるフランス語を習得することによって、多面的に世界を知るきっかけを与える。 内容は、基本的な知識を習得するための入門授業なので、発音・文法・基礎語彙の習得が授業の中心となる。一年間継続すると仏語検定5級以上の実力が身に付く。 基本的には教科書に沿って授業を行うが、視聴覚資料、会話練習も取り入れる。練習問題をこなすことによって理解を深める。	
				仏語入門Ⅱ	この授業ではフランス語の学習を通して、ヨーロッパ諸語の言語的特徴について知識を身に付け、その思考方式に親しみ、外国語文化一般を学ぶ基礎力を涵養することを目指す。また、国際社会における有力言語であるフランス語を習得することによって、多面的に世界を知るきっかけを与える。 内容は、基本的な知識を習得するための入門授業なので、発音・文法・基礎語彙の習得が授業の中心となる。 基本的には教科書に沿って授業を行うが、視聴覚資料、会話練習も取り入れる。練習問題をこなすことによって理解を深める。	
				文化人類学の世界	文化人類学はフィールドワーク(実地調査)に基づき、文化の多様性の視点から人間の生について考える学問である。「私たちが生きるこの世界とはなんなのか」を考え、「こうではないかもしれない世界のあり方」を想像するための姿勢を体得することが本講義の目的である。その切り口として、2022年度後期は、ラオスの様々な事例を通して文化人類学的な思考及び現代人類学の潮流を学んでいく。	
				簿記入門	会計は事業の言語と言われ、ビジネスにおいて、英語とともに重要視されている。簿記の基本知識は、企業活動や経営を理解するため、業種・職種を問わずすべての企業人に必要とされている。本講義は簿記の基本知識について学ぶ。日商簿記初級レベルの知識の習得を目標とし、演習問題に取り組みながら進めていく。	
				方言コンテンツを作ろう	この授業では、方言記録保存活動の一環として、フィールド調査に基づいて方言動画を作成し、配信することを目指す。 現在、鹿児島県内の方言は、消滅の危機に瀕している。その土地のことばは、その土地の文化財であり、保護し保っていく努力が必要である。 この授業では、鹿児島県内の方言を使用した動画を作成し、方言の記録保存（アーカイブ化）をおこなう。まず、フィールドで取材と撮影をおこない、動画の素材を得る。そして、その動画を方言ベースで編集する。方言の録音、標準語訳、方言解説は、ネイティブへの調査に基づいておこなう（方言調査）。 これらの作業を通して、言語文化への理解を深めながら、地域課題の解決に向けて自ら行動できる力を身に付ける。 授業のスケジュールは、受講生と取材先と相談のうえ決定する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（人文・社会科学分野）	方言学入門	この授業の目的は、主に鹿児島のことばを対象としながら、言語研究・方言研究の手法を学ぶことである。 授業内容としては、鹿児島のことばをはじめ、日本のことばの多様性に触れるとともに、その多様性の中にある規則やシステムを捉えることを目指す。また、鹿児島のことばの歴史と現在について知り、鹿児島のことばが抱える「消滅危機問題」を考察する。	
				陽明学入門	『伝習録』に見られる王陽明の言葉により忠実にあたり、陽明学の本質を掴む。儒学の歴史について概観した後、宋の朱熹と陸象山にみる「心」に対する考え方の違いを確認し、王陽明の思想をみて行く。 今日、「陽明学」と呼ばれる新儒学の思想体系は王陽明の思想を指すが、一番肝心なのは、王陽明が人間の「心」というものをどう捉えていたかである。陽明学はしばしば、「革命の哲学」や「反逆の哲学」、「行動の哲学」という解釈がなされるが、それは正しくない。陽明学は社会思想でもなければ、革命哲学、行動の哲学でもない。ましてや支配者の論理（帝王学）でもなければ、逆に労働者解放の論理でもない。 しかし、陽明学が、社会思想、革命哲学、行動の哲学と（日本で）誤解されてきたことにもそれ相応の理由はあり、心の学（心学）でありながらも、社会や政治に直接的影響を与えて来たことも確かなことである。そして、その影響の与え方は多岐に渡り、誤解・浅解のどれもがそれなりの理由に基づく。 本講義ではその理由は何であるかを真剣に考えたい。そして、世間に広まっている「俗流陽明学」と一線を画し、王陽明『伝習録』から直接、陽明学の真髄を共に学びたい。	
			教養基礎科目（自然科学分野）	くらしの化学	授業の目的は、くらしの中に化学的視点をおくことで生活の質を高め、環境問題や社会問題の解決に向けた素養を高めることである。 授業の内容は、くらしの中にある製品と自然物の組成から化学的性質を理解し、適切な使用方法と廃棄方法について考えるものである。 授業の方法は、座学による話題提供とグループワークによる情報収集をおこない、プレゼンテーションによって自身の考えを表現し、他者の考えを聞き相互理解を深める。	
				ヒトの産み育てを考える	この授業の目的は、ヒトが人らしく生活するためには、基本的生活能力が不可欠であることから、人としての基本的生活の営みについて理解することである。特に、ヒトが子を産み育てるとはどういうことなのか？個人や社会が子を産み育てることについて支援できることは何か？講義を通じて関心を持ち、考える。自分の未来設計、他者への支援に向けてヒトの産み育てが今後、どうあるべきか考える力を養うことを目的とする。授業内容としては、現代のこどもの成長と子育てを学習するとともに、多様な生き方についても配慮し、妊娠から子育てについて学習する。授業テーマから自らの課題を抽出し、自分の考えを展開する。授業は配布資料による講義とグループディスカッション、自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （95　山本 直子/3回）ヒトの産み育ての概論及び乳児等について講義を行う。 （179　若松 美貴代/2回）妊孕性・不妊及び産後のメンタルヘルスについて講義を行う。 （106　井上 尚美/2回）いのちの誕生及び未来をつくる人生設計：避妊について講義を行う。 （74　根路銘 安仁/1回）子育ての科学について講義を行う。 （220　水野 昌美/2回）幼児・学童・思春期について講義を行う。 （31　沖 利通/1回）未来を創る人生設計：性感染症について講義を行う。 （212　津留見 美里/2回）妊娠から子育て等について講義を行う。	オムニバス方式
				遺伝のしくみ	授業の目的は、19世紀後半にメンデルが構築した「仮想的粒子としての遺伝子」に基づく遺伝のしくみから、20世紀半ばに発見された「物質としての遺伝子」DNAに基づく新しい遺伝のしくみまで、遺伝学の基礎を理解する。 授業の内容は、細胞分裂、メンデルの法則、連鎖、遺伝子の発現、突然変異など。また、遺伝のしくみに関連する最近の諸問題も学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （21　一谷　勝之/ 8回）細胞分裂、メンデルの法則等について講義を行う。 （54　田浦　悟/ 7回）突然変異、遺伝子の発現等について講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（自然科学分野）	宇宙のすがた	現代科学が明らかにした宇宙の姿を知ることで、宇宙における地球人という意識を持つための素地となる認識を持つことを目的とする。 内容は、現在理解されている宇宙の姿について、全体を概観した上で、地球近傍から順次遠方へと話題を進め、それぞれのスケールでの現代の宇宙観を示すとともに、それらの知見がどのようにして得られたのかについても言及する。	
				化学と環境	この講義は、基礎化学の習得と、ヒトを取り巻く環境を化学的な視点から理解できるようにすることを目的とする。　授業内容としては、身の回りの物質がどのように成り立っているか学習するとともに、日常で使用されている化学物質の働きを分子レベルで解説する。さらに人により生みだされた化学物質が人類にもたらした利益、また引き起こした問題について考える。	
				家畜の歴史	私たちの生活に欠かせない家畜たち。その起源のほとんどはアジアの国々にある。そして、今でも世界中では、様々な形で家畜と人が共存して生活している。この授業では、それらの家畜たちがどのようにして作り出され、今の時代まで受け継がれてきたのかについて考えながら、動物の生体内に起こった変化や遺伝についての知識を得る。	
				教養の物理学入門	この授業の目的は、受講生が基本的な物理現象について理解するとともに、物理学的見方を育成し、客観的事実に基づいて考え、意見や議論ができる素養を身に付けることである。 授業の内容としては、文系理系共に必要な大学教養の物理学入門レベルである。身近にある基本的な物理現象や機器装置、社会インフラ等について、物理学視点から説明される。 授業の方法は、教科書と教科書をもとにした事前配布資料（ワークシート）による講義と、講義後の小テストと授業の振り返り、そして課題レポートを組み合わせた形式で行う。	
				教養線形代数学	数学は世の中の様々な現象を解明する手段として重要であるが、その中でも基礎的なのが線型代数学及び微分積分学である。この講義では線型代数の基礎とその応用について解説する。	隔年
				鹿児島の自然史	鹿児島の自然環境の大部分は、地球の歴史の中で最も若い地質時代（第四紀）につくられたものである。第四紀は氷期と間氷期の繰り返しによって特徴づけられ、それにともなう氷河の拡大・縮小によって海水準が大きく変化してきた。地球表層部の諸現象(地形・土壌・海洋・生物・人類など)は、この変化に大きな影響を受け、現在みられる地球上の自然で第四紀の変動のあとをとどめないものはほとんどない。鹿児島の自然環境は、これら地球規模の環境変動と鹿児島の地理的位置の組み合わせによって成立したものである。本講義では、15回の授業を通して、日本列島及び鹿児島における第四紀の気候変動、海水準変化、地殻変動、火山活動史などとそれがもたらしてきた環境の変化について紹介する。	
				初心者のためのサバイバル生物学	進化学の基礎的知識を身に付ける事を目標とする。前半は、進化学理解の基礎知識となる遺伝学の復習を行う。生物学における「種」とはヒトの生物界の認識の基本的な単位であるとともに、自然界における生物進化の基本単位でもある。前半は、動物を主題として、個体群・種・進化の基本概念を理解する。T. DobzhanskyやE. Mayrらによって提唱された現代的な生殖隔離に基づく種概念に関して解説する。後半は、主に動物の進化に関して理解する。	
				焼酎	授業の目的は、南九州に根ざした食品産業である焼酎に関して理解を深めることを目的とする。 授業の内容は、南九州の重要な地場製品である焼酎について、嗜好品としての特徴は当然であるが、その歴史、文化、経済、製造法、さらに健康関連副産物、環境に関わる後処理技術等の講義を行う。 （オムニバス方式/全15回） （56　髙峯　和則/11回）焼酎の嗜好品としての位置づけ，歴史，文化，経済，製造法等についての講義及び本講義の総括を行う。 （61　玉置　尚徳/1回）焼酎醸造微生物学について講義を行う。 （163　二神　泰基/1回）発酵とバイオテクノロジーについて講義を行う。 （38　北原　兼文/1回）ｻﾂﾏｲﾓの歴史・特性・利用について講義を行う。 （176　吉﨑　由美子/1回）焼酎の香りと官能検査について講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（自然科学分野）	情報セキュリティ入門	ＩＴ（情報技術）は情報通信とともに産業や政府活動、そして私たちの生活を支える重要な社会基盤である。しかし一方でＩＴ基盤を脅かす脅威が存在することも事実である。この脅威は私たちの経済活動や社会活動そのものへの脅威に転化する。これからの社会では高度情報化社会の恩恵を享受するために情報セキュリティへの取り組みが強く求められている。 この授業の目的は社会生活で必ず関わりを持つであろうコンピュータやネットワークを使用する参加者を対象に情報セキュリティについての基本を身に付け情報セキュリティ確保の為の思考と行動の様式を身に付けることができるよう分かりやすく解説する。	
				食品・化粧品・医薬品の有機化学	化学、とくに有機化学的な視点から、日常生活に用いられる様々な物質を見直し、その機能についてより深く理解することを目的とする。 内容は、基礎的な化学的知識の習得、食品・化粧品・医薬品を構成する化学物質の性質を調べ、理解する。食品・化粧品・医薬品に関する諸問題を考察し、「化学」的な見地から議論する。 公開されているデータベース等を利用して、化学物質の構造や性質を調査する。食品・化粧品・医薬品に関する諸問題について、社会の中でどのような議論がなされているかを知り、食品・化粧品・医薬品に関する特定の問題について調査し、自分の意見をまとめてレポートを作成する。作成したレポートは互いに評価（ピア・レビュー）し、ディスカッションによって完成度を高める。	
				世界を変えた有機分子	有機化学は、昔から知られている科学分野の１つでありながら、その多様性から、高校の授業ではごく一部しか学習する機会が与えられなかった。この授業の目的は、これまで学ぶ内容が限られていた有機化学について、大学生として、広く深い視点を得るために、社会に大きな影響を与えた有機分子について、歴史的な背景とその研究について学習することを目的とする。 授業内容としては、歴史の流れに沿って様々な有機分子の発見と合成について学習し、社会への影響や研究に寄与した化学者を含めた、広範な内容についても解説する。	
				生化学実験Ｉ	生命科学や医学に対する理解を深めるために、講義を受けるだけでなく、実際の生命現象の観察や実験を行う科目である。学生は、分子生物学、生化学の基本的な実験手法を習得するだけでなく、その原理を理解することによって、基本的生命現象や各種疾患の発症機構に興味を持つことを目標とする。	共同
				生物学入門	近年、急速な発展を遂げている生物学を基礎とした科学技術は、新聞やニュースで取り上げられない日は無いといっても良いくらい私たちの生活に大きな影響を及ぼしている。この授業では、生物学の基本となる事象から現在ホットな研究トピックスを紹介し、教養としての生物学を体系的に身に付けることを目的とする。授業内容としては、高校レベルの生物基礎の流れに従い、現在行われている関連した最先端の研究内容を紹介する。	
				生命科学情報活用１	情報の早い英語文献Nature、Journal of Biological Chemistry、Molecular and cellular biologyなどの科学雑誌からMolecular biology of the Cellのような総説、教科書的なものまで対象とし、医学、生物学上重要なトピックスに関わる物を選出し論文抄読する。学生は、単に和訳するのでなく、参考文献や引用文献の検索や調査といった過程を通じて、限られた期日で文献で描かれている内容を理解するやり方の習得を目標とする。	共同
				電気電子工学入門	授業の目的は、電気電子工学分野の基礎的内容を理解することにある。 授業は、学習目標及び授業計画に沿った内容で実施する。 授業は、主に講義形式で進めるが、学生諸君に課題を与え、その課題に対するプレゼンテーションを実施して貰う形式も含める。 （オムニバス方式/全15回） （９　青野 祐美/5回）電子デバイスについて講義を行う。 （139　田中 哲郎/5回）電気エネルギーについて講義を行う。 （181　渡邉 俊夫/5回）無線通信システムについて講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（自然科学分野）	動物の感覚・脳・行動	動物には多種多様な行動が観察され、これを統合する脳や神経のメカニズムは動物の進化の過程で環境に適応しつつ発達してきた。動物の感覚、脳、行動に関する科学は、20世紀に入って分析手法が確立され、比較的最近になって発展した研究分野である。本授業では、この分野に関する様々な研究領域から最新の研究成果について紹介するとともに、動物の行動に関して多角的な観点から考察を行う。 本授業は、動物の行動と、その発現システムについて理解することを通して、生体機能やその進化など、生物学の基本となる考え方を修得することを目的とする。さらに、わたしたち「ヒト」という生物や人間社会についても生物学的視点から理解する。 授業はオムニバス形式で行い、動物の行動科学、神経科学、心理学、認知科学、遺伝学分野において第一線で研究をすすめる講師がそれぞれの専門分野における研究成果を紹介する。 （オムニバス方式/全15回） （161　藤田 志歩/1回）「行動の機能，適応，進化」について講義を行う。 （50　坂巻 祥孝/1回）「昆虫の感覚とコミュニケーション」について講義を行う。 （125　栗和田 隆/1回）「昆虫の社会関係が行動に及ぼす影響」について講義を行う。 （16　安樂 和彦/1回）「魚類の聴側線感覚と行動」について講義を行う。 （101　池永 隆徳/1回）「魚の化学感覚と行動」について講義を行う。 （166　三浦 裕仁/1回）「おいしさの化学感覚」について講義を行う。 （187　柏谷英樹/1回）「哺乳類の嗅覚系」について講義を行う。 （47　齋藤 充/1回）「食欲のメカニズム」について講義を行う。 （32　奥野 浩行/1回）「マウス行動学から探る学習・記憶・情動などの大脳高次機能」について講義を行う。 （57　田川 義晃/1回）「意識を生む脳の配線のしくみ」について講義を行う。 （65　富原 一哉/1回）「繁殖と脳の進化との関係」について講義を行う。 （175　横山 春彦/1回）「身近な動物たちの行動」について講義を行う。 （85　三浦 直樹/1回）「ゲノム・遺伝子からみる人と動物のつながり」について講義を行う。 （66　冨山 清升/1回）「進化学からみた動物行動学：血縁選択説とゲーム理論」について講義を行う。 （161　藤田 志歩/1回）「霊長類の行動と社会」について講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（自然科学分野）	動物の病気	動物は生活する環境により、人との関係が強い家畜(産業動物)及び伴侶動物と野生動物さらに実験動物とに区別され、これらの動物に発生する病気には動物固有の病気と人にも感染する共通の病気（人獣共通感染症）がある。 １.授業の目的は、このような動物と人との病気を理解することである。 ２.授業の内容は、様々な動物における体の構造と機能を理解し、動物に感染する病原体による病気や病原体とは関係なく発生する病気の概要や要因を学び、さらに動物の病気の診断法、治療法、予防法についての知識を修得できるように構成している。 ３.授業の方法は、主にスライドを利用した講義形式で、共同獣医学部所属の15名の教員が担当する。毎回、その回の授業に関して、あるいはその回の担当教員が指示する課題や質問について、レポート等を授業中に作成して提出する。 （オムニバス方式/全15回） （210　辻尾 祐志/1回）動物の体の形態的構造及び機能について講義する。 （143　内藤　清惟/1回）病気とは何か、その成り立ちについて講義する。 （15　有村 卓朗/1回）病気の要因について講義する。 （89　三好 宣彰/1回）動物に発生するがんの形態について講義する。 （12　浅野 淳/1回）疾患モデルの動物たちについて講義する。 （115　小澤 真/1回）動物に感染するウイルスについて講義する。 （60　田仲 哲也/1回）動物に感染する原虫と節足動物について講義する。 （100　安藤 匡子/1回）動物に感染する細菌による病気について講義する。 （137　高橋　雅/1回）伴侶動物の癌治療について講義する。 （92　矢吹　映/1回）動物の腎泌尿器疾患について講義する。 （80　藤木　誠/1回）使役犬の関節疾患について講義する。 （152　畠添 孝/1回）馬の外科治療について講義する。 （85　三浦 直樹/1回）動物の病気の画像診断について講義する。 （99　安藤 貴朗/1回）動物の繁殖における病気の治療法と予防法について講義する。 （222　森脇　潤/1回）動物の遺伝病について講義する。	オムニバス方式
				脳と心の生物学	脳と心の理解は人類の課題であり、感情、情動など“心の動き”を理解することは、人文、自然科学、工学、医療などいずれの分野においても重要になっている。現在、われわれはみずからの心と脳について、どこまで理解できているのか。この授業では、脳と心のはたらき、しくみ、不調について、主に生物学的側面から、最新のトピックとその理解に必要な基礎知識を専門の教員がわかりやすく解説する。授業は配布資料等による講義と自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。 （オムニバス方式/全15回） （32　奥野 浩行/3回）視覚情報処理及び記憶と忘却等について講義を行う。 （57　田川義晃/4回）脳の回路発達における環境の影響及び神経再生と脳機能の再建等について講義を行う。 （209　玉川　直/1回）シナプスの形成と伝達について講義を行う。 （204　城山　優治/1回）適応行動に必要な心について講義を行う。 （187　柏谷 英樹/1回）匂い・フェロモンと情動回路について講義を行う。 （205　楠本郁恵/1回）健康な身体をつくるための食欲について講義を行う。 （78　原博満/1回）免疫系と神経系の相互作用について講義を行う。 （124　栗原 崇/1回）薬物作用からみた脳と心について講義を行う。 （11　浅川 明弘/1回）情動とその不調 -食の重要性について講義を行う。 （71　中村 雅之/1回）心の病気、精神疾患の基礎知識について講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養基礎科目（自然科学分野）	保健学入門	保健学は、健康を守り高めるための学問並びに実践体系の学問である。健康な生活をもたらすような方法を開発していくためには、きわめて広範で包括的な領域の知識や協力が必要である。中でも医学とは深い関係を持っている。医学は急速に進歩していっている。その成果は社会に反映されて初めて人々の健康につながる。医学の進歩には自然科学系の技術革新の知識が必要で、社会に反映するには人文社会科学系の知識が必要である。そのため保健学は、自然科学系と人文社会科学系の両方の側面を持っている。 鹿児島大学は９つの学部がある総合大学である。互いの学部の知識を得るチャンスが共通教育だと考えているので、医学部の知識を中心に講義するが、教養基礎科目として保健学入門は、自分の専門分野が社会の人々の健康に貢献できるか考える手掛かりになってもらえれば幸いである。 自然科学としての医学と小児保健分野を中心にトピックになっているところとして、遺伝・感染症・成育（子供の発達）の３分野を取り上げる。	
				暮らしの中のバイオ	バイオテクノロジー(バイオ)は種々の生物の活動を分子レベルで解析し、理解しながら、それらの成分、産物、機能を最大限に活用して人の生活を豊かにする技術である。これらに関する技術は21世紀を拓く先端技術の1つとして、近年の生物学、生化学、工学、分子生物学の飛躍的な発展により誕生して、社会の認知と理解を得ながら発展し実用化されている。そして、今後一層の進展が期待されている。本講義ではバイオの基礎となる、私たちの食の素材・歴史・科学を学び、そこに込められている人類の経験と叡智に触れ、さらに酵素や遺伝子の働きや利用までをその分野のエキスパートから分かりやすく学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （41　侯　徳興/3回）総括及び「食と健康」のサイエンスについて講義を行う。 （61　玉置尚徳/1回）生命科学研究と酵母等について講義を行う。 （211　鶴丸博人/1回）環境中の微生物の働きについて講義を行う。 （154　濱中大介/1回）食品を長持ちさせる仕組みについて講義を行う。 （168　南　雄二/1回）体をまもるペプチドについて講義を行う。 （160　藤田清貴/1回）糖質のバイオについて講義を行う。 （49　境　雅夫/1回）微生物による環境保全について講義を行う。 （183　渡部由香/1回）暮らしの中の色の科学について講義を行う。 （20　石橋松二郎/1回）微生物と醤油について講義を行う。 （148　中村正幸/1回）微生物と植物の病気について講義を行う。 （153　花城 勲/1回）日用生活品と酵素について講義を行う。 （56　高峯和則/1回）焼酎の香りの科学について講義を行う。 （169　宮田 健/1回）：ワクチンと予防接種について講義を行う。	オムニバス方式
				遊び心と科学	科学 ＝「眉間にシワを寄せて考え込むこと」ではない。むしろ、身近な現象を科学の目で見ることは楽しいものである。ただ、楽しむためには少しばかり経験が必要かもしれない。そこで、この授業では、身近な道具やおもちゃ、映像などのネタを準備し、みんなで見たり、やったり、作ったり・・・といった経験をしてみる。経験を通じて、身近な世界に(科学的な)遊び心を持って接近できるようになることが授業の目的である。なお、数式はあまり使わない。できるだけ、やったり考えたりすることが中心の授業である。	
				理系ジャーナリズム	現代社会では科学や科学技術と無縁で生活することは不可能である。したがって、科学に関する報道の特性、一般の報道の特性をよく理解して対処することは現代人には必須の素養と言える。いろいろな分野の報道関係者や報道に関連した取材・発信経験を持つ研究者からその体験やそれを通じて得た知見を学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （213　中川　亜紀治/14回）授業の総括等を行う。 （109　井村　隆介/1回）報道される科学者について講義を行う。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅰ）	Intercultural Communication for Global Citizens	この授業では、グローバルな市民として必要な文化的知性（CQ＝Cultural Quotient）を身に付けることを目的とする。 文化的知性とは、文化的に多様な状況において効果的に関わり、働くことができる能力のことである。授業では、グループワーク、ケーススタディ、シミュレーションゲーム、VTR鑑賞、DIEメソッド、ロールプレイ、カルチャーアシミレーターなどを取り入れ、異文化間コミュニケーションに焦点を当てる。	
				Intercultural Understanding and Acceptance	本授業では、日本人学生・留学生両方の履修者が、英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通して協働し、各自が調査を行う。授業前半では、文化人類学において発展してきた文化相対主義的な視点を中心に、異なる背景を持つ人々との向き合い方について学び、「自らを異化し、他者を親和化する」姿勢を身に付ける。その上で、各自が国内在住の外国人を対象とした調査を行い、そこで得られた知見を元にプレゼンテーションを行い、学期末には報告書を提出する。 なお、授業での使用言語は英語であるが、この授業で最も重要なことは異なる言語文化的背景を持ったもの同士がコミュニケーションをとることであり、英語の流暢さや文法的正しさよりも、伝えようとする積極性と相手を理解しようとする努力が求められる。	
				いのちと地域を守る防災学Ⅰ	授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。後期の「いのちと地域を守る防災学II」と対になる構成となっており、前期の本授業では、災害を知り、それに対する対処・対策を考えることに重きが置かれている。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の１つとなっていたが、今年度は集合教育、対面授業による実施が難しく、別途レポートを課すことになる。 (オムニバス方式/全15回) (84　松成 裕子/3回)講義の目的／防災士とは／災害について講義する。／災害時における医療活動について講義する。 (109　井村 隆介/1回)鹿児島の自然災害史について講義する。 (116　柿沼 太郎/1回)津波のしくみと被害について講義する。 (130　小林 励司/2回)地震の仕組み等について講義する。／避難と避難行動について講義する。 (13　安達 貴浩/1回)風水害と対策について講義する。 (123　木村 至伸/1回)社会基盤の地震被害について講義する。 (22　岩船 昌起/1回)島嶼の自然災害について講義する。 (171　八木原 寛/1回)火山噴火のしくみと被害について講義する。 (132　佐藤 宏之/1回)歴史災害に学ぶ防災意識について講義する。 (159　福満 博隆/1回)自然体験活動と防災及び避難生活者の健康づくり支援について講義する。 (216　平 瑞樹/1回)中山間地域における地盤災害と農地復旧対策について講義する。 (126　黒光 貴峰/1回)学校教育における防災教育の実情と課題について講義する。	オムニバス方式
				かごしま教養プログラム	この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を生かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行う。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、対面形式で講義とグループ学習を通じて学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習して、グループテーマについて取りまとめと発表を行う。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅰ）	キャリアデザイン	授業の目的は、鹿児島大学生がおかれている状況や働くことに関する基礎知識について学ぶとともに、各界のエキスパートの講話を参考にして柔軟にキャリアを形成していこうとする姿勢を養い、社会人となるための基礎力を身に付けることである。 授業では、自分自身の適性や価値観の気づきに加え、他者との違いや多角的なものの見方について考えることを重視する。 授業の内容は、キャリア形成のための基礎知識を学ぶことと、多彩なゲスト講師による講話である。 (オムニバス方式/前期・後期それぞれ全15回の計30回) (162　藤村 一郎/9回)授業の総括及び自己理解の方法とキャリア等について講義を行う。 (221　森 裕生/1回)非認知的能力の必要と実践について講義を行う。 (182　渡邊 弘/2回)メディアの活用/ワークルールについて講義を行う。 (26　大前 慶和/1回)かごしまキャリア教育プログラムについて講義を行う。 (121　河邊 弘太郎/2回)U・J・Iターンの働き方等について講義を行う。	オムニバス方式・共同(一部)
				稲盛哲学：稲盛研究の最高峰が伝授	経営哲学、社会哲学としての稲盛哲学（稲盛フィロソフィ）のアカデミックな理解を図ることを目的とし、「社会生活の基盤となる倫理について考えを述べられる」ようになるための学力（とりわけ「思考力・判断力」及び「主体性・協働性」）の拡大を目指す。 授業は、社会哲学、経営人類学、管理会計学の立場から、この分野における国内最高峰の研究者（稲盛アカデミー客員教授）による稲盛哲学理解に資する内容である。 教科書及び担当教員が配布する資料による講義を行うとともに、ワークシート等を介した理解の深化を図る。	
				自然体験活動入門講座	農学部高隈演習林に隣接し、垂水市と鹿児島大学が提携している垂水市立大野ESD自然学校（旧大野小中学校跡）をベースキャンプにして、高隈の森の自然を利用した野外活動を通して、自然とのふれあいを深め、仲間と協力して成し遂げる喜びを体験し、自分の可能性について見つめ直す学習をする。	集中
				身の周りの男女共同参画	性に関わらず人が個人として尊重される男女共同参画、ダイバーシティ社会の実現のためにはどのようなアクションが必要で、自らは何をすべきか。それを明らかにするためには、ジェンダーの視点で身の周りの事象や問題を考えることが必要である。授業では、身の周りの事象や問題をアクティブラーニングを通じてジェンダーの視点から分析、検証し、社会での自分自身のあり方を明確化する。	
				身近な話題の生物学	将来、生物学関係のことを専門に勉強するための基礎として、生態学の一般的な概念を理解することを目的とする。生態学は、個体群、群集、生態系の3つのレベルに分けて考えることがで、それぞれの基本的概念を理解する。そして、現在のさまざまな環境問題を考えるための基礎を身に付ける。	
				進取の精神を学ぶ	本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度（進取の精神）を養い、地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養うことである。 本授業の内容及び方法は、以下の通りである。 (1) 本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学び、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解する。 (2) 鹿児島で社会の発展のために活動を展開している団体等の中で、現代社会が抱えている諸問題のうち、国際協力、平和問題、地域農業について実践する講師による講義によって、その問題と取り組む内容について理解を深める。 この講義を受けた後、受講した学生が休日や休業を活用してこれらの活動への自主的参加を決断する行為や、地域社会の現場での活動に積極的に参画するなかで、進取の精神と行動力を涵養する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅰ）	人生における出会いの意義と役割	本授業は「出会い」をキーワードとし、展開される。ゲストスピーカーによる「出会い」に関連した講話から、受講生自身が「出会い」の意義と役割を考え、理解していく。さらには、理解した内容を参考に、実際に行動することが求められる。なぜならば、「出会い」は何らかの行動に基づいてもたらされる事象であり、受講生自身にも素晴らしい「出会い」が訪れ、ひいては人生に何らかのプラスを実現させてほしいと考えるからである。	
				大学で学ぶ	この授業の目的は、現代の大学が置かれている状況を理解したうえで、それらが抱える諸課題に対して自分なりの考えを論理的に述べられるようになること、そして、自身の今後の学びを設計するための基本的視座を獲得することにある。 高校までと大学では様々な違いがあり、その点については日々の学生生活を通じて実感することとなるだろう。その違いはどのような背景に基づくものか、また、様々な背景に基づき成り立っている制度がどのような課題を抱えているかについて、まずは考えたい。そのうえで、今後大学で学んでいく自分自身を振り返り、具体的な学びのプロセスを設計するための手掛かりを得てほしい。 (オムニバス方式/全15回) (105　伊藤 奈賀子/5回)大学とはどういうところなのか及び高大接続等について講義を行う。 (141　出口 英樹/3回)学習科学等について講義を行う。 (221　森 裕生/7回)大学の制度と仕組み等について講義を行う。	オムニバス方式
				地域コミュニティ論	地域コミュニティを理解するためには、質的・量的な接近が不可欠である。この授業では、地域コミュニティの存立条件について理解するとともに、諸資料の取り扱いやフィールドワークの能力を身に付けることを目的とする。 授業内容は、鹿児島県内における諸地域の課題を学習するとともに、地域住民の視点についても配慮し、多様な地域コミュニティの諸相について学習する。	
				地域リサーチ・スタートアップ	本講義は、「地域人材育成プラットフォーム」の「かごしま地域リサーチ・プログラム」のスタートアップ科目として、地域でリサーチ活動を行う際の基礎的な手法を修得することを目的とするものである。鹿児島が抱える地域課題を発見するためのリサーチ能力、後半は、明らかになった地域課題の解決に向けた方法論を批判的に検討し、その適切性を判断する能力の育成を目指す。	共同
				地域防災学実践	この授業では、鹿児島県内諸地域での防災力の向上に係わる課題を発見し、具体的にその中の一つについて解決できる対策をフィールドワークやグループ学習を通じて構築することを目的とする。　そのためには、鹿児島県内での災害に係わる自然現象や社会構造等の情報を集めて精査し、かつ地区防災計画等、防災対策に係わる基礎知識を得た上で、自然やコミュニティ等の「地域」の実情に合わせて実践的に解決策を編み出す必要がある。従って、授業内容としては、鹿児島県内で一つの地域・地区を任意で設定し、そこでの防災にかかわる諸要素について学習するとともに、課題をグループメンバーで発見して、その解決に導くことができる対策を具体的・実践的に構築する。また、その過程をグループごとにプレゼンテーションし、個人で最終レポートをまとめて提出する。具体的な成果としては、任意の地域での地域・地区防災計画の一部の構築をイメージしている。	
				防災フィールドワーク	この講義では、地域防災に係わる自然現象や社会問題等を素材にし、鹿児島県の中でも特に桜島を対象地域として、１０～１２月の土曜日等の６日間で集中講義を行い、講義とグループ学習を行う。講義はグループでフィールドワークを展開していく上で基調となる地域防災に係わる内容であり、かつ「災害に遭った場合に役立つ基礎知識」が中心である。 グループでのフィールドワークでは、鹿児島市主催「桜島火山爆発総合防災訓練」に参加し、市職員の業務を補助する等の体験を行う。桜島の土地柄を理解し、桜島の火山防災を考えてもらう調べ学習を間に挟みつつ、研究の取りまとめと発表を行う。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅰ）	倫理学入門	倫理学の基本的な構図の体系的な理解を通して、何が倫理的な問題であり、それに対しどのような向き合い方ができるか、いくつかの可能性を検討することを目的とする。 授業内容は、倫理学入門として、功利主義、義務論、徳論といった基本的な倫理理論を、具体的な事例の検討を通して理解することが中心的課題となる。	
			教養活用科目（統合Ⅱ）	いのちと地域を守る防災学Ⅱ	授業では、自然災害やその対策について正しい知識を持つと同時に、地域自治体や防災組織が現在行っている防災への取り組みや新しい技術を理解し、災害時にはいのちを自ら守ることができ、かつ支援やボランティア活動を担うことのできる態度・志向性を獲得することを目的とする。この講義は、自然・人文に及ぶ複合的・総合的な「防災学」のかなりの範囲を網羅するものであり、本学のさまざまな学部・大学院・教育研究施設に所属する「防災学を専門とする教員」がそれぞれの得意分野をオムニバス形式で担当講義する。前期の「いのちと地域を守る防災学Ⅰ」と対になる構成となっており、後期の本授業では、災害にかかわる情報を知り、新たな減災や危機管理の手法を身に付けることに重きが置かれている。また、鹿児島市消防局、鹿児島地方気象台、県危機管理課、県原子力安全対策課からの授業を用意しており、行政の防災関係機関の現場対応などを知ることができる。なお、この授業の概要・性格から本授業は、「防災士」受験資格取得科目の１つとなっている。 (オムニバス方式/全15回) (84　松成 裕子/6回)講義の目的／災害における防災士の役割等について講義する。 (22　岩船 昌起/1回)災害と避難所について講義する。 (130　小林 励司/1回)地震に関する知見・情報について講義する。 (82　升屋 正人/2回)大規模災害と情報通信について講義する。 (91　森尾 成之/1回)自然災害に対する行政の危険防止責任について講義する。 (109　井村 隆介/1回)ハザードマップについて講義する。 (129　小林 善仁/1回)地域の復旧と復興について講義する。 (14　安部 幸志/2回)トラウマの理解と心理的ケアについて講義する。	オムニバス方式
				かごしまフィールドスクール	地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などに関する地域や施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や課題について実践的に学習して、課題を解決する方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらを発展させる方策などについて考える。このような活動を通して、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身に付けるとともに、自己開発の能力を身に付ける。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図る。なお、コースにより、3千5百円～5千円程度の宿泊経費等が必要となる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	がんはなぜおこるのか：がんとの共生	医学部の基礎、臨床の教員、それぞれの分野の専門家が分担して行うオムニバス授業である。悪性腫瘍(がん)は、日本人の死因の第１位で、2人に1人が罹患すると言われており、誰もがかかる可能性がある病気である。がんとはどんな病気なのかを理解し、がんの予防、診断、治療について適切な知識を得るために、1。がんはどのように発生するのか? 2。がん細胞と正常な細胞は何がちがっているのか? 3。がん細胞はどのように進展し、死をひきおこすのか? 4。適切な予防、発見及び治療法にどのようなものがあるのかなどについて、学ぶ。 また、本学で行われている先進的な研究についても一部紹介する。受講に当たり、細胞、遺伝子などの理解があることが望まれる。 (オムニバス方式/全15回) (120　河原 康一/1回)がんの発生と細胞について講義する。 (157　東 裕子/1回)皮膚癌について講義を行う。 (224　山本 雅達/1回)遺伝子改変動物を用いた理解について講義を行う。 (142　戸上 真一/1回)婦人科のがんについて講義を行う。 (43　小戝 健一郎/1回)がんの新しい治療について講義を行う。 (206　熊谷 公太郎/1回)肝臓がんについて講義を行う。 (77　花谷 亮典/1回)脳腫瘍について講義を行う。 (27　大脇 哲洋/1回)消化器のがんについて講義を行う。 (42　郡山 千早/2回)生活習慣とがんについて講義を行う。 (229　上田 和弘/1回)肺がんについて講義を行う。 (18　家入 里志/1回)小児のがんについて講義を行う。 (23　榎田 英樹/1回)膀胱がん，前立腺がんについて講義を行う。 (51　笹平 智則/1回)病理からみたがんについて講義を行う。 (29　岡本 康裕/1回)小児白血病について講義を行う。	オムニバス方式
				ヒトの身体の仕組みと働き	授業の目的は、人体を構成する代表的な器官(臓器)、すなわち循環器系、呼吸器系、消化器系、脳神経系、泌尿・生殖器系、筋骨格系などについて、その解剖学的仕組みと働きを理解することである。 授業の内容は、身体の基本的な営みである血液循環、呼吸、消化吸収、ホルモン作用、神経機能、生殖妊娠、分娩、免疫、睡眠などについて、ヒトの健康や疾病と関連付けながら解説する。 授業の方法はスライド、プリントなどの資料を用いて、講義形式の授業を行う。 (オムニバス方式/全15回) (31　沖 利通/3回)性差とホルモンの働き及び生殖器の働き、ヒトの発生と先端医療について講義する。 (10　赤崎 安昭/2回)記憶と知能等について講義する。 (87　宮田 昌明/2回)血管の仕組みと働き及び心臓の仕組みと働きについて講義する。 (30　岡本 裕嗣/3回)錐体外路、小脳の構造と機能及び骨格筋と末梢神経の構造と機能について講義する。 (70　永野　聡/3回) 骨格の構造と機能及び関節の成長と老化、脊椎・脊髄の構造と機能について講義する。 (74　根路銘 安仁/2回) 血液の仕組みと働き及び食欲の仕組みと働きについて講義する。	オムニバス方式
				ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅰ	ヒトの病気には原因があり、症状や障害をもたらす仕組みがある。これを知ることによって病気の予防が可能となる。ここでは広く日常的にみられる病気や関心を集めている病気について、それぞれの領域の専門医が分かりやすく解説する。方法は、通常の板書による講義に加え、必要に応じてスライドやプリントなどを用いて教授する。 (オムニバス方式/全15回) (31　沖 利通/3回)性感染症及び婦人科がん等について講義する。 (10　赤崎 安昭/2回)統合失調症及びうつ病について講義する。 (87　宮田 昌明/2回)動脈硬化及び高血圧について講義する。 (30　岡本 裕嗣/3回)脳卒中及びパーキンソン病・脊髄小脳変性症、末梢神経障害、筋疾患などについて講義する。 (70　永野　聡/3回) ロコモティブシンドローム及び腰痛等について講義する。 (74　根路銘 安仁/2回) 病気の成り立ちと予防(食中毒) 及び感染症の成り立ちと予防(ワクチン) について講義する。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	ヒトの病気の成り立ちと予防Ⅱ	本授業の目的は、自分の健康管理に役立つ正しい情報を自ら収集できるようになることである。 発生頻度の高いありふれた病気、最近注目されている病気、大学生が気をつけなければならない病気等の原因や症状、経過、治療、予防、高齢者の慢性疾患の増加に伴う障害モデルの発展や臓器移植等、社会的関心が高いテーマについて幅広く取り上げる。 医師が自分の専門領域について医学生以外の一般の人にも分かりやすく概説する。興味を持った内容について自分で学習し、疑問があれば担当教員への質問等で学びを深める。 (オムニバス方式/全15回) (31　沖 利通/3回)妊娠の異常及び分娩の異常等について講義する。 (10　赤崎 安昭/2回)統合失調症及びうつ病について講義する。 (87　宮田 昌明/3回)糖尿病と食事及びがんと予防等について講義する。 (30　岡本 裕嗣/2回)神経変性疾患及び免疫性神経疾患について講義する。 (70　永野　聡/2回）スポーツ障害と予防及び関節痛と予防について講義する。 (74　根路銘 安仁/3回）貧血と予防及び感染症の成り立ちと予防等について講義する。	オムニバス方式
				医学・脳科学入門	授業の目的は、自分を含めた生物としてのヒトの脳機能の正常と病気に関する興味と理解を深めることである。授業の内容は、同じ日に同じ教室で開講される実験医学・脳科学を受講するに当たって必要な基礎知識の習得である。合計４単位が取得できる。授業の方法は教員による講義と学生自身によるプレゼンテーションである。	共同
				稲盛和夫のリーダー論	2018年度のNHK大河ドラマは『西郷どん』で全国的にも明治維新や西郷隆盛への関心は高まった。だが、西郷の政治思想や人間観又はその背景となった儒学思想などを正確に理解している人は決して多いとはいえない。西郷への理解を深めるためには『南洲翁遺訓』を熟読することが最も良い方法である。西郷隆盛、稲盛和夫氏の二人に興味のある学生の受講を歓迎する。 授業の目的は『西郷南洲翁遺訓』にまとめられた西郷南洲の教えから、リーダーとしての生き方、考え方をまとめた稲盛氏の著書『人生の王道』をテキストとして取り上げ、稲盛和夫氏の生い立ちや生き方を通しながら、真のリーダーシップを学ぶことである。 授業の内容は『人生の王道』を章ごとに読み解いていく。その際に、本来の『西郷南洲翁遺訓』そのものの中身を熟読玩味しつつ（つまりは、西郷隆盛の人間観、政治観、リーダー観などをまずは理解する）、その『遺訓』を稲盛氏が自らの人生と経営に如何に生かして来たかの両方の視点から解説する。	
				宇宙・地球における計測・計量	宇宙や地球の探究では、時間や空間、質量等様々な物理量の計測・計量が、時には大胆な推定に基づき、時には超精密な手法に基づき行われる。これらの一部は実際に、我々の日常生活で利用するべく、あるいは身近な自然現象を説明する為に必要な、様々な計測・計量の方法と深く結びついている。この講義では、これらに関する具体的事例を学んだ上で、提供されるデータを用いて受講生自身が実際に計測や計算を実践する。	
				屋久島の環境文化Ⅰ－植生－	世界自然遺産は人類全体のために自然環境を保護し保存する地域である。屋久島は日本最初の世界自然遺産で、世界的に特異な樹齢数千年のヤクスギをはじめ、多くの固有種や希少種を含む生物相を有するとともに、特異な生態系とすぐれた自然景観を有する島である。本授業では、亜熱帯～冷温帯の植生の垂直分布を観察しながら、グローバルな視点で植生を考える能力を身に付ける。自然とは何か、自然保護がなぜ必要か、現場を見ながら考える。風光明媚な観光資源としてではなく、世界遺産について感得することがこの授業の目的である。	共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅱ－生き物－	屋久島は日本で最初の世界自然遺産で、樹齢数千年のヤクスギをはじめ、多くの固有種や希少種を含む生物相など、世界的に特異な生態系とすぐれた自然景観を有する島である。本授業では、屋久島特有の自然、特に動物、昆虫、野鳥などを現地で観察するとともに、また、ヤクシカ、ヤクシマザル、ウミガメなどの野生動物の保護や管理、人間との軋轢問題などについて実地体験を通して学ぶ。現地研修から得られた知見をもとに、人と自然の両者の視点から、屋久島におけるこれからの地域づくりについて課題と解決策を考える。	共同・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	屋久島の環境文化Ⅲ－産業－	世界自然遺産は人類共通の宝として、自然環境を将来世代にわたって保全する地域である。屋久島は日本最初の世界自然遺産に登録された島で、世界的に特異な植生の垂直分布や多くの固有種や希少種を含む生物相がみられ、ヤクスギの森や滝など美しい自然景観を有している。世界自然遺産の島として、自然環境と観光に注目が集まっているが、屋久島には島の資源を活かした独自の産業が息づいている。 本授業では、屋久島の自然環境を概観した後、世界自然遺産の保全と地域社会の持続可能な発展という視点で、農業、漁業、製造業、サービス業などを実践的に学習する。自らが体験し、自らが考え、チームで議論することを通じて、国際社会の中で自己開発の能力「グローカルな素養」を身に付ける。世界自然遺産の島で、人と自然の共存とは何かを考え、自らの生き方を感得することがこの授業の目的である。	共同・集中
				屋久島の環境文化Ⅳ－生活と文化－	本授業は、共通教育の教育目標「１。自立心と公共心を育み、社会貢献意識を涵養します。」と「２。思考過程を重視し、『多面的視野』、『総合的判断力』、『課題探求能力』を涵養します。」を担う科目として開設されている。本授業では、次の４項目を目標としている。 (1)屋久島の人々の生活と文化の独自性を知るとともに、それが直面している社会情勢の様々な影響と問題を理解する。 (2)様々な視点で人々の生活と文化の持続可能性を考察する。 (3)屋久島の人々の生活と文化と屋久島文化の在り方の関係を考察する。 (4)屋久島の現状を踏まえた人々の生活と文化の維持・発展を考える。	共同・集中
				価値創造の場	起業家精神（Entrepreneurship)とは単に会社を興すのではなく、不確実な未来に柔軟に対応する意識を持ち行動できる精神である。この授業は教員が知識を伝授するのではなく、学生自らが有する社会課題認識や興味・関心を牽く先端技術を起点とし、未だ見たことのない社会像をイメージし、社会課題をビジネス手法での解決する、先端科学技術を活用した新たな価値提案を行う訓練の場である。本学の産学連携・新事業創出を実践する担当教員（藤枝・中武）が毎回提示するテーマについて、自ら調べ、構想し、アイデアを確立することを目指す双方向性の強い授業である。	
				環境と進化の科学	地球上に生息している生物がどのように環境に適応しているのか、どのようなメカニズムで進化してきたのか理解する。環境への生物の適応や進化を理解するために、生物を構成する細胞の話から生物学の基礎的分野の解説を重視する。また、人間が環境をどのように利用し、変化させてきたか、現状の把握と今後の課題について理解する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	ロと顔の科学	歯学（歯科学、歯科医学）が扱う学問の範囲は、歯はもちろんのこと、歯を植えている顎骨、歯や顎を含む口腔、さらに周囲の顔面や頸部を含み、一般に思われているよりもはるかに広範に及ぶ。本授業では、口腔顎顔面領域の構造及び働きから各種疾患の診断・治療・予防に至るまで基礎的並びに臨床的知識の習得を主な目的として、歯科医学と生命科学との関連性も含めて、歯学部の教員により毎回異なるテーマでオムニバス形式の講義をおこなう。 （オムニバス方式/前期・後期それぞれ全15回の計30回） 前期 （194　星加 知宏/1回）むし歯・最も身近な口の病気について講義を行う。 （75　野口 和行/1回）口臭について講義を行う。 （196　村原 貞昭/1回）最新の審美補綴歯科材料について講義を行う。 （195　村上 格/1回）加齢と補綴治療に伴う顔貌の変化について講義を行う。 （193　比地岡浩志/1回）口の中にできるがん～見つけ方と治し方について講義を行う。 （184　石畑 清秀/1回）咬合改善のための口腔外科治療について講義を行う。 （88　宮脇 正一/1回）矯正歯科治療について講義を行う。 （191　佐藤 秀夫/1回）食べる機能の発達と支援について講義を行う。 （59　田中 達朗/1回）歯科診療における放射線の被ばくについて講義を行う。 （223　山下 薫/1回）歯科麻酔学について講義を行う。 （58　田口 則宏/1回）言語と非言語のコミュニケーションについて講義を行う。 （173　山中 淳之/1回）哺乳類の歯の進化と発生について講義を行う。 （62　田松 裕一/1回）歯の喪失に伴う顎骨の形態変化について講義を行う。 （47　齋藤 充/1回）口と脳の密な関係について講義を行う。 （83　松口 徹也/1回）むし歯の化学について講義を行う。 後期 （47　齋藤 充/1回）　口と脳の密な関係について講義を行う。 （191　佐藤 秀夫/1回）　小児歯科学について講義を行う。 （88　宮脇 正一/1回）　矯正歯科治療について講義を行う。 （223　山下 薫/1回）　歯科麻酔学について講義を行う。 （58　田口 則宏/1回）　口と顔によるコミュニケーションについて講義を行う。 （44　後藤 哲哉/1回）　口腔インプラントの科学について講義を行う。 （62　田松 裕一/1回）　歯の喪失に伴う顎骨の形態変化について講義を行う。 （59　田中 達朗/1回）　歯科における放射線医学の進歩について講義を行う。 （83　松口 徹也/1回）　むし歯を化学するについて講義を行う。 （51　笹平 智則/1回）　ミクロの世界から病気を科学するについて講義を行う。 （68　中田 匡宣/1回）口の細菌と全身疾患について講義を行う。 （52　佐藤 友昭/1回）　デジタル化とくすりの未来について講義を行う。 （36　菊地 聖史/1回）　歯を削る機械について講義を行う。 （164　平間　雅博/1回）　歯科における行動科学の応用について講義を行う。 （172　山口 泰平/1回）　大学における医科歯科連携と地域包括ケアとの関わりについて講義を行う。	オムニバス方式
				国際感覚を持つバイテク人材育成	研修目的は、世界的に活躍できると同時に、鹿児島など九州各地の地域社会に貢献できるバイテク人材になるための切掛け（端緒）を見出すことである。このため、モンクット王工科大学トンブリー校(タイ、バンコク市)を拠点として、バイテク講義の受講、問題発見解決型学習やプレゼンテーションなどを行う。また、農産業関連施設（ラン農園、市場など）や食品製造工場・研究所等を視察する。加えて、歴史・文化施設、寺院などの視察も行う。現地活動を通じて、国際感覚、コミュニケーション能力、協調性、ビジネス感覚を養うとともに、親日国タイの人々の特性を理解する。本研修を通じて、両校の学生間に絆が形成され、両国の将来にわたる友好関係の発展維持の礎が築かれれば幸いである。	共同・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	最先端医療を創出するバイオ研究	政府は医療における成長戦略（日本再興戦略）をかかげ、がん等の難病克服の革新医薬、あるいは再生医療や遺伝子治療といった全く新しい革新医薬の開発に繋がるバイオ研究と実用化の促進を最重要目標の一つと定めた。このように、自然科学研究と医療の発達は単に目覚ましいだけでなく、両分野は個別に進むのではなく、基礎研究、臨床応用、社会での実用化を一体として進める新時代に突入した。このようなバイオと先端医療の基本事項の理解はどの学部の生徒にも重要である。さらにこれからの最先端医療の発展は、様々な学部出身者の創造的なバイオ研究に掛かっている。そこで、これらバイオ研究の技術を理解することを目的として授業を行う。 授業内容は、最先端医療を創出するバイオ研究の技術、その臨床応用から実用化まで、各専門の講師がわかりやすく講義する。 （オムニバス方式/全15回） （43　小戝 健一郎/6回）総括及び遺伝子治療等について講義を行う。 （167　三井 薫/4回）幹細胞研究の歴史と基礎及びiPS細胞等について講義を行う。 （217　松田　恵理子/1回）　最先端医療を創出するバイオの研究と技術について講義を行う。 （57　田川　義晃/1回）脳神経再生医療の基礎と応用について講義を行う。 （72　西村 正宏/1回）歯科領域の再生医療の実現に向けた現状と課題について講義を行う。 （237　鈴木 紳介/1回）分子生物学や医用工学の発展に基づいた最新の抗がん治療について講義を行う。 （70　永野 聡/1回）整形外科領域の革新的な医療技術について講義を行う。	オムニバス方式
				自己理解・他者理解と障害理解	授業の目的は、障害理解を目指して、その前提となるべき「相手を理解することや自分を理解すること」について学ぶ。 授業内容は、自分について考え、相手について考えることを通して、相互理解や障害理解について知識や演習を通して理解を深める。また、障害の特性を知り、多様性を尊重した支援を考える。 授業の方法は、講義を中心とする。自己・他者について考えるための演習を取り入れる。	
				自然学校インターンシップⅠ	前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、続けて「自然学校へ行こう・実践編」を受講して実際に自然学校での活動を体験したことで、自然学校の企画や運営も含めてさらに深く実践的に学びたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地の自然学校等において、夏季休暇中又は冬季・春季休暇中にインターンシップ（原則として10日間以上）を行うものである。 １。授業の目的は、自然学校での体験を通じて、持続可能な社会と自らの仕事を切り拓いていく意欲を持つこと。 ２。授業の内容は、各地の自然学校（自分で選ぶ）で職場体験をすること。 ３。授業の方法は、10日間以上の職場体験と、それをまとめたレポート作成及び発表会による。	集中
				自然学校インターンシップⅡ	前期講義「自然学校へ行こう」を受講し、自然学校についてさらに深く実践的に学びたい学生が、「自然学校へ行こう」のゲスト講師等が経営する九州各地の自然学校等において、夏季休暇中又は冬季・春季休暇中にインターンシップ（原則として10日間以上）を行うものである。 １。授業の目的は、自然学校での体験を通じて、持続可能な社会と自らの仕事を切り拓いていく意欲を持つこと。 ２。授業の内容は、各地の自然学校（自分で選ぶ）で職場体験をすること。 ３。授業の方法は、10日間以上の職場体験と、それをまとめたレポート作成及び発表会による。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	自然環境保全と世界遺産	南北に細長い日本列島の南に位置し、桜島などの火山や九州最高峰の宮之浦岳を有し、生物の種類が著しく異なる境界を含む鹿児島県は、日本の自然環境を語る上で重要な地域である。屋久島は1993年に日本で最初の世界自然遺産に登録され、奄美大島と徳之島は沖縄県の2島とともに2021年に新たに登録された。この授業では、鹿児島の自然環境の特性やその保全の取組、課題を学ぶことを通じて、自然環境に関する基礎的な知識や自然環境問題を考えるための視点を修得することを目的とする。併せて、日本の自然環境保全制度や自然環境保全のための国際協力の仕組みについても理解の促進を図る。 担当教員による講義のほか、ゲスト講師（環境省、鹿児島県、民間団体関係者）が鹿児島の自然環境とその保全の取組を現場に即して説明する。アクティブラーニングでは、関連授業を振り返り、提示される課題についてグループ討議で考察を深めたうえで、小レポートを作成する。	
				鹿児島探訪－文化－	鹿児島は、中央の文化の影響と琉球口などから流入する外来の文化の影響を受け、独特の文化を創り上げてきた。本講義は、鹿児島の文化、とりわけ文学、美術・工芸、出版、教育、文化、醸造のテーマについて、担当教員が総合講義形式で講義を行う。本講義の目的は、鹿児島の過去・現在の文化の様相とその特徴をよく理解することにあり、そのうえで、未来の地域文化の創造について考えることを期待する。	
				実験医学・脳科学	授業の目的は、自分を含めた生物としてのヒトの正常と病気に関する興味と理解を深めることである。実験を通じて、本を読んだだけではわかり難い医学・生理学、脳科学の最先端の知識を具体的なイメージを伴って体得する。実験内容は、答えが予想できる実習形式のものから始め、最先端の未知の領域にも挑戦する。同じ日に同じ教室で開講される医学・脳科学入門を受講することで合計４単位が取得できる。授業の方法は、自ら選択した課題に関する実験である。	共同
				森・ひと・体験	農学部附属高隈演習林で実施する合宿授業。森の中でのキャンプ生活とさまざまな自然体験活動を通じて、人と自然、人と人の関係について学ぶ。夏休み期間中の５日間と冬の週末２日間の２回に分けて実施。 １。授業の目的は、自然体験を通じて豊かな感性とコミュニケーション能力を修得すること。 ２。授業の内容は、キャンプ・ネイチャーゲーム・沢登り・ナイトハイク等々の楽しい体験活動である。 ３。授業の方法は、様々な自然体験活動と、活動後のふりかえりやレポートによる。	集中
				進取の精神海外研修inベトナム	本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度（進取の精神）を養い、グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育むことである。 授業では、まず、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解するために、本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学ぶ。日本と同様に中国より仏教や文化が伝播したベトナムでは、ベトナム国民は長い間、中国、フランスによる長期間の侵略やベトナム戦争に堪えた後、現在、国土の復興と産業等の振興に懸命に取り組んでいる。 さらにベトナムを直接訪問し、農業、産業、工業などベトナムの様々な取り組みを実際に体験し、様々な立場で国の発展を支えている多くのベトナム国民と交流する。また、稲盛アカデミーベトナム事務所で日本語・日本事情を学び本学への留学に果敢に挑戦する若者や、ベトナム支援活動等を行っている日本人の若者とも交流する。これらの事前事後の講義や現地での体験学習を通じて、ベトナム文化、歴史、産業の実態を深く理解し、進取の精神を涵養するとともに、グローバルな視点を持った実践力を育む。	共同・集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	地域環境論	授業の目的は、地域の様々な環境問題及びそれらと連動した社会問題からいくつかの事例を選び、多角的な視点から学んで論じ、受講生と教員がそれらの問題の全体像と本質を考えることにある。関連図書も紹介するので、それらを読んで学ぶ事もまた目的に含まれる。 授業の内容は、環境問題や社会問題が題材とした実在する諸問題の提示である。具体的事例として、諫早湾干拓事業などの沿岸開発、原子力発電所、水俣病事件などを取り上げる。このような、身近でありながらも普遍性を備えた問題に焦点を当て、それらの問題を考えるために必要な基礎的知識を学んで整理する。環境問題が引き起こされる背景としての様々な地域社会の問題や政治についても論じ、複数の側面からのアプローチがあることを理解する。	
				島のしくみ	鹿児島県の特徴として鹿児島市とそれ以外の自治体の規模の違い、それと離島の存在があげられる。鹿児島県では鹿児島市への人口集中に伴い、郡部の過疎化と高齢化が進み、大きな不均衡が生じてしまった。この状況は離島ではさらに著しいものとなっている。鹿児島県の多くの離島は自治体の合併によっても効率化は期待できないであろう。しかし、環海性、隔絶性、狭小性などの制約の中で、離島では優れた自然環境の中で貴重な歴史文化を育てており、地域の多様性が保全されている。また、離島の地域社会では伝統的な共同体が地域活性化の原動力となり、自らの英知と努力により多種多様な地域おこしの取り組みが行われている。鹿児島大学も直接・間接にかかわっている。この授業では与論島の経験豊かな実務者による講義が中心となっており、与論島の現況や取り組みについて理解するとともに地域社会の在り方や活性化について考える。	集中
				南太平洋多島域	東南アジア島嶼部を含む南太平洋多島域は、文化的、自然的に連なるスペクトラムである。この多島域は大小様々な島々から成り、自然環境は変化に富み、人々の生活ぶりはその自然及び歴史に根ざした文化環境と深く結び付いている。他方、日本も太平洋に面し、多くの島々からなる島国で、南太平洋多島域と、自然的、文化的に深く結びついている。私たちの住む地域と隣接した位置にあるこの多島域の正解について、多面的に理解し、科学的に深い洞察力を養うことを講義は目指している。 （オムニバス方式/全15回） （35　河合 渓/8回）南太平洋多島域の動物及び環境について講義を行う。 （112　大塚 靖/4回）太平洋諸島の自然と歴史及び熱帯感染症等について講義を行う。 （174　山本 宗立/3回）島の食文化について講義を行う。	オムニバス方式
				農家民泊体験講座	この授業の目的は、進取の精神を修得するためには、体験活動が不可欠であることから、農村地域に出向きそこで暮らす人々の実態について理解するとともに、問題解決能力を身に付けることを目的とする。 授業内容としては、農家に宿泊し農家の生活と経営を実践的に学習するとともに、授業は配布資料等による講義と体験、自己演習、課題レポートを組み合わせた形式で行う。	
				派遣留学Ⅰ	授業の目的は、協定校への派遣留学の準備をさまざまな角度から行うことである。 内容と方法は、派遣前ガイダンス（留学準備全般の注意・講義）、留学の価値を高めるための自己分析及び目的の意識化と改善、派遣先言語による自国等紹介パワーポイント原稿の作成・発表・相互評価（一部協働学習）、留学ポートフォリオ（前半）の作成、グローバルランゲージスペース外国語学習への参加などによる。	集中

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	選択必修科目	教養教育科目	教養活用科目（統合Ⅱ）	派遣留学Ⅱ	授業の目的は、留学体験を総括し、人生とその生き方を表すライフキャリア（個人の成長や発展。職業生活の歩みを表すワークキャリアを含む）の中での位置づけを考察し、自己の確立及び将来ビジョンの形成に役立てることである。合わせて、留学体験の総括と成果をレポートにまとめ、他者（後輩）に効果的に伝えるためのコミュニケーション能力を磨くことも目的とする。 内容は、留学体験を総括し、ライフキャリアの中での位置づけを考察し、自己の確立及び将来ビジョンの形成に役立てることである。また、留学体験の総括と成果をレポートにまとめ、他者（後輩）に効果的に伝える。 方法は、留学体験の総括を補助する講義と自己振返り、ディスカッション、派遣留学レポートの作成、プレゼンテーションの準備と実施、留学ポートフォリオ（留学中・帰国後）の完成である。	集中
				有機農業Ⅰ　新しい食と農のかたち	農的暮らし、半農半Ｘ、食農教育といった言葉を最近よく耳にする。農の魅力が再認識される一方で、わが国の食料自給率は約40％と低迷し、農業、農村に目を向ければ、いずれも崩壊の危機に瀕している。この授業では、私たちが生きる上で不可欠な食と農のあり方をもう一度見つめ直し、その再生に向けた新しい方向性を皆で考えていきたいと思う。受講にあたって、専門的な知識は必要としない。授業は、大学の先生だけでなく、実際に食と農の現場に携わっている有機農家や有識者が農の魅力や食の本来あるべき姿を写真などを交えて、分かりやすく紹介していく。 （オムニバス方式/全15回） （138　髙山 耕二/14回）授業の総括等を行う。 （107　井倉 洋二/1回）持続可能な未来をつくる環境教育について講義を行う。	オムニバス方式
				留学生のための異文化理解	授業の目的は、派遣留学に必要な、文化や異文化適応についてのメタ認知を形成することである。具体的な内容は、文化とは何かについて理解し、文化の相対性、多様な価値観の存在、異文化適応のモデル等について自らのこれまでの経験を分かち合いながら学ぶ。方法は、グループ討論、VTR視聴、ケーススタディ、プレゼンテーションなどである。	
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目		基礎生物化学	学習目標 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸等の種類、構造、役割と機能について理解し、概説できるようになる。 授業計画 （全１５回の授業を対面形式で実施する） （オムニバス方式/全15回） （１　大塚　彰／７回） 第1回　生物化学の基本 第2回　生体分子の構造の基本 第3回　生体における水の役割 第4回　糖類の種類と構造 第5回　糖質の役割と機能 第6回　脂質の種類と構造 第7回　脂質の役割と機能 （４　室谷　進／７回） 第8回　アミノ酸の種類と構造 第9回　アミノ酸の役割と機能 第10回　タンパク質の種類と構造 第11回　タンパク質の役割と機能 第12回　核酸の種類と構造 第13回　核酸の役割と機能 第14回　ミネラルの種類と役割 （４　室谷　進・１　大塚　彰／１回）（共同） 第15回　ホルモンの種類と役割	オムニバス方式 ・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目	生化学	学習目標 栄養学の基礎領域である生化学（主に代謝生化学）の知識を理解し、説明することができる。 授業計画 （全８回の授業を対面形式で実施する） 第1回　生体内における高エネルギー化合物（ATP、アセチルCoA）とその役割 第2回　炭水化物の代謝1（解糖系） 第3回　炭水化物の代謝2（糖新生、グリコーゲン代謝） 第4回　クエン酸回路 第5回　電子伝達系 第6回　脂質の代謝（脂肪酸β酸化） 第7回　アミノ酸の代謝（アミノ酸の分解） 第8回　核酸の代謝（核酸合成）	共同
			分子生物学	学修目標 1.分子生物学の基礎及び応用について学習・理解する。 2.獣医学、畜産学、動物科学において用いられる分子生物学的手法と概念を理解・習得する。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） （オムニバス方式/全15回） （94　大和　修／８回） 第1回　イントロダクション及びゲノム 第2回　複製・修復・変異 第3回　転写 第4回　翻訳 第5回　遺伝様式 第6回　遺伝子発現調節 第7回　バイオインフォーマティクス 第8回　まとめ及び中間試験 （201　奥谷　公亮／８回） 第9回　ゲノム進化 第10回　細胞の情報伝達 第11回　細胞周期とがんI 第12回　細胞周期とがんII 第13回　病原体、感染、自然免疫I 第14回　病原体、感染、自然免疫II 第15回　その他（適応免疫、再生医療等） 第16回　期末試験	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目	動物科学専門英語	学修目標 学生は、この科目を修了すると、以下のことができるようになる。 1.畜産動物科学に関連する英語の主要な理論的概念を理解する（One Health、Sustainability、Animal Welfareなど）。 2.畜産動物科学に関する実用的な英語用語（畜産、生産動物の疾病診断・治療、食品加工、農業における計画 3.思決定に関する用語）を理解し、使用することができる。 4.生産動物の種に関する用語：雄、雌、幼児のすべての名称と形容詞、動物の解剖学的部位別の食品名、種固有の病気の主要用語（BSE、鳥インフルエンザなど）を認識し、使用することができる。 5.畜産学者による英語の論文や発表の要旨を追うことができる。 6.持続可能な畜産を実現するための自分なりの工夫について、基本的な説明ができる。 7.畜産動物学の重要課題に関する英語でのディスカッションに参加することができる。 授業計画 第1回　畜産事情の比較 日本 vs アメリカ vs 第3世界（読解、リスニング、ディスカッション） 第2回　主な生産動物の疾病用語（微生物、寄生虫など） 第3回　主要な生産動物の調査・診断技術（牛群健康モニタリング、分子生物学、食肉検査など） 第4回　主要生産動物疾病の治療法（ワクチン接種、淘汰、その他） 第5回　実際のケーススタディ3（One Health, Sustainability）。EUにおける抗菌剤使用量の削減（リスニング、リーディング、ディスカッション） 第6回　動物のエソグラム 動物の行動を観察するための英語用語（解説、ビデオによる実習） 第7回　リサーチライティング入門。馬の行動実験（リスニング、各自文章作成）、鶏の給餌実験（各自）をもとにしたライティング練習。 第8回　ファーム・トゥ・フォーク」の英語用語。食肉処理と食品加工（説明と生徒の文章作成） 第9回　グループワーク。グループワーク：ジレンマを紹介し、グループで話し合う（例：アメリカの馬の屠殺禁止、豚の尾のドッキング、牛の結核の結果に基づくアルパカの屠殺、羊のクローン化）。 第10回　実際のケーススタディ4：新しい家畜の種／品種の導入。カナダのジャコウウシ、ブラジルのベルギーブルー（ミオスタチンノックアウト牛）（聞き取り、議論） 第11回　チームワーク英語の実演（実際の英語のビデオを見て、モデル動物を使ったアクティブラーニング）。去勢（ウシ）、分娩介助（カプリン）、筋肉内注射（ブタ）、人工授精（ニワトリ）、乳房炎治療（ウシ）、妊娠確認（ウシ） 第12回　チームワーク英語のデモンストレーション／継続（パフォーマンスでは生徒のスクリプトと実際のビデオを比較します。） 第13回　野生動物：家畜のインターフェース（捕食動物対策、病気の蔓延防止）＋ナミビアの農民、ヤギの群れ、チーターの共存に関するリスニング 第14回　学生個人発表 第15回　個人発表の終了と復習 第16回　期末試験	
			畜産キャリア形成I	学修目標 1.我が国の畜産業と畜産行政の実際を知る 2.多様なキャリア形成の事例を知り視野を広げる 3.自身のキャリアデザインを明確化する 授業計画 （全8回の授業を対面形式で実施するが、ゲスト講師担当部分は遠隔とする場合がある。また都合により順番を変更することがある） 第1回　ガイダンス並びに畜産学科で取得可能な資格と畜産における様々なキャリアデザイン 第2回　民間の畜産事業者の事例：生産事業 第3回　民間の畜産事業者の事例：飼料事業 第4回　民間の畜産事業者の事例：飼料資材事業 第5回　民間の畜産事業者の事例：養鶏事業 第6回　民間の畜産事業者の事例：食肉加工事業 第7回　民間の畜産事業者の事例：乳卵製品事業 第8回　総合討論 畜産キャリア形成Ｉ（1年次）では、主に学習目標１を習得することを中心に授業を進めます。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目	畜産キャリア形成II	学修目標 1.我が国の畜産業と畜産行政の実際を知る 2.多様なキャリア形成の事例を知り視野を広げる 3.自身のキャリアデザインを明確化する 授業計画 （全8回の授業を対面形式で実施するが、ゲスト講師担当部分は遠隔とする場合がある。また都合により順番を変更することがある） 第1回　ガイダンス並びに民間の畜産事業者の事例：食品・医薬事業 第2回　食品衛生監視員・管理者 第3回　家畜人工授精師 第4回　胚培養士 第5回　畜産系公務員の事例：地方公務員畜産行政職 第6回　畜産系公務員の事例：地方公務員畜産研究職 第7回　畜産系公務員の事例：農林水産省畜産職 第8回　総合討論 畜産キャリア形成Ⅱ（2年次）では、主に学習目標１と２を習得することを中心に授業を進めます。	
			畜産キャリア形成III	学修目標 1.我が国の畜産業と畜産行政の実際を知る 2.多様なキャリア形成の事例を知り視野を広げる 3.自身のキャリアデザインを明確化する 授業計画 （全8回の授業を対面形式で実施するが、ゲスト講師担当部分は遠隔とする場合がある。また都合により順番を変更することがある） 第1回　ガイダンス並びに教育研究職キャリア：国立大学 第2回　教育研究職キャリア：私立大学 第3回　教育研究職キャリア：公立・短期大学 第4回　研究職キャリア：国立研究機関 第5回　畜産の未来に向けた研究と取り組み事例：メタン発生の軽減 第6回　畜産の未来に向けた研究と取り組み事例：気候変動と畜産 第7回　畜産の未来に向けた研究と取り組み事例：家畜のブランド戦略 第8回　総合討論 畜産キャリア形成Ⅲ（3年次）では、主に学習目標２と３を習得することを中心に授業を進めるとともに、畜産の未来に向けた先端的な取り組みについても知ります。 畜産キャリア形成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して、明確化した自身のキャリアデザインをインターンシップ研修（選択、3年次夏季から実施）や進路選択（就職や大学院進学）へ継続させます。	
			欧文講読I	学修目標 英語で書かれた専門分野に関連する理論や技術、用語等を説明できるようになる。 授業計画 全15回の授業を対面形式で実施する。授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。 第1回　専門分野に関連する用語を学ぶ（1） 第2回　専門分野に関連する用語を学ぶ（2） 第3回　専門分野に関連する用語を学ぶ（3） 第4回　専門分野に関連する用語を学ぶ（4） 第5回　専門分野に関連する用語を学ぶ（5） 第6回　専門分野に関連する用語を学ぶ（6） 第7回　専門分野に関連する用語を学ぶ（7） 第8回　専門分野に関連する用語を学ぶ（8） 第9回　専門分野に関連する理論や技術を学ぶ（1） 第10回　専門分野に関連する理論や技術を学ぶ（2） 第11回　専門分野に関連する理論や技術を学ぶ（3） 第12回　専門分野に関連する理論や技術を学ぶ（4） 第13回　専門分野に関連する理論や技術を学ぶ（5） 第14回　専門分野に関連する理論や技術を学ぶ（6） 第15回　専門分野に関連する理論や技術を学ぶ（7）	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	導入・基礎教育科目	欧文講読II	学修目標 専門に密着した欧文の原著論文や総説に接することにより、畜産学に関わる理論や技術、用語等を学び、卒業論文等の作成の課題や解決策を提案することができる。 授業計画 全15回の授業を対面形式で実施する。授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。 第1回　専門分野の欧文の総説の読み方を学ぶ（1） 第2回　専門分野の欧文の総説の読み方を学ぶ（2） 第3回　専門分野の欧文の総説の購読による研究の現状の把握（1） 第4回　専門分野の欧文の総説の購読による研究の現状の把握（2） 第5回　専門分野の欧文の総説の購読による研究の現状の把握（3） 第6回　専門分野の欧文の総説の購読による研究の現状の把握（4） 第7回　専門分野の欧文の原著論文の読み方を学ぶ（1） 第8回　専門分野の欧文の原著論文の読み方を学ぶ（2） 第9回　専門分野の欧文の原著論文の購読と卒業論文との位置づけ確認（1） 第10回　専門分野の欧文の原著論文の購読と卒業論文との位置づけ確認（2） 第11回　専門分野の欧文の原著論文の購読と卒業論文との位置づけ確認（3） 第12回　専門分野の欧文の原著論文の購読と卒業論文との位置づけ確認（4） 第13回　専門分野の欧文の原著論文の購読と卒業論文との位置づけ確認（5） 第14回　卒業論文の意義と世界的な研究の位置づけについての検証（1） 第15回　卒業論文の意義と世界的な研究の位置づけについての検証（2）	共同
		専門基礎科目	畜産学	学修目標 1.家畜を健康に飼育し、生産能力を高めるために必要な基礎的な学理を説明することができる。 2.家畜の生産システムを理解し、説明することができる。 3.畜産物の種類や製造・品質管理の過程を説明することができる。 授業計画 全15回の授業を対面形式で実施する。授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。また、教員の都合により講義の順番を変更する場合がある。 （オムニバス方式/全15回） （１　大塚　彰／５回） 第1回　家畜・畜産とは何か？ 第2回　日本における畜産の歴史 第6回　家畜の栄養 第7回　家畜の飼料 第8回　家畜の管理 （３　三好　和睦／５回） 第3回　家畜の種類と品種 第4回　家畜の育種 第5回　家畜の繁殖 第14回　家畜排泄物の処理と利用 第15回　畜産の経営と行政 （４　室谷　進／５回） 第9回　家畜の衛生と疾病予防 第10回　家畜の生体の構造と機能 第11回　畜産物の利用（肉） 第12回　畜産物の利用（乳・卵） 第13回　畜産物の動向	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	獣医学概論	学修目標 1.獣医師の社会的役割や責務について学ぶ。 2.獣医師が活躍する様々な分野について見識を深める。 3.獣医学の歴史を学ぶとともに最先端の基礎研究や獣医臨床に触れる。 4.今後の学習や将来のためのモチベーションとする。 授業計画 （オムニバス方式/全８回） （15　有村　卓朗／１回） 第1回　獣医学教育について （86　三角　一浩／１回） 第2回　牛と馬の獣医学について （45　小原　恭子／１回） 第3回　動物感染症について （12　浅野　淳／１回） 第4回　実験動物について （24　遠藤　泰之／２回） 第5回　伴侶動物の内科診療について 第8回　期末試験 （89　三好　宣彰／１回） 第6回　動物の疾患について （80　藤木　誠／１回） 第7回　伴侶動物の外科診療について	オムニバス方式
			動物福祉学	学修目標 生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。動物福祉の概念を理解できる。OIE、欧米諸国、わが国での動物福祉への取組み状況について、動物の種類別に理解できる。 授業計画 （オムニバス方式/全８回） （12　浅野　淳／５回） 第1回　動物福祉総論（１）動物福祉の概念、「5つの自由」、動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法 第2回　動物福祉総論（２）「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題、安楽死の考え方 第3回　愛玩動物の福祉（１）歴史的背景、愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題、国内外の動物保護活動の現状と課題 第4回　愛玩動物の福祉（２）飼養放棄や殺処分問題、動物のみだりな殺傷・虐待の現状と対策、飼養動物の災害時の対応 第7回　実験動物と展示動物の福祉：福祉上の問題と環境エンリッチメント （６　大島　一郎／２回） 第5回　産業動物の福祉（１）歴史的背景、産業動物における福祉上の問題、国際的な福祉基準 第6回　産業動物の福祉（２）動物福祉の実践と実際 （12　浅野　淳・６　大島　一郎／１回）（共同） 第8回　期末試験	オムニバス方式 ・共同（一部）
			動物と人間の関係論	学修目標 動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。 授業計画 (全８回の授業を対面集中形式で実施する) 第1回　人間と動物の関わり（１） 動物の飼養・利用の歴史、欧米と日本の動物観、動物との関わりの相違 第2回　人間と動物の関わり（２） 動物の飼養と利用の現状 第3回　人間の福祉と愛玩動物の関わり（１） 動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識 第4回　人間の福祉と愛玩動物の関わり（２） 多頭飼育問題 第5回　人間の福祉と愛玩動物の関わり（３） 愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる様々な事情 第6回　動物介在活動・動物介在療法・動 物介在教育（１） 動物との接触による身体的・心理的影響、動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容 第7回　動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育（２） 使用される動物の公衆衛生学的適性と行動学的適性、動物病院や愛玩動物看護師の関わり、学校飼育動物の目的や実態 第8回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	動物形態学	学修目標 生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、繁殖や病的変化について学ぶ基盤を確立する。 授業計画 第1回　骨と骨格 第2回　筋系 第3回　筋組織 第4回　神経系Ⅰ中枢神経 第5回　神経系Ⅱ末梢神経 第6回　心臓及び血管系 第7回　免疫器官及びリンパ系 第8回　消化器系の形態と組織構造Ⅰ 第9回　消化器系の形態と組織構造Ⅱ 第10回　泌尿器系の形態と組織構造 第11回　雄の生殖器 第12回　雌の生殖器 第13回　内分泌器官 第14回　感覚器系 第15回　外皮と付属器官 第16回　期末試験	
			動物生理学	学修目標 1.生理学における基本的な知識、考え方を説明することができる。 2.専門用語を理解し、説明することができる。 3.動物の生理機能を統合的に理解することができる。 授業計画 （オムニバス方式/全15回） （53　白石　光也／11回） 第1回　一般生理学（１） 第2回　一般生理学（２） 第3回　血液（１） 第4回　血液（２） 第9回　心臓・循環（１） 第10回　心臓・循環（２） 第11回　呼吸 第12回　腎・泌尿器 第13回　内分泌（１） 第14回　内分泌（２） 第15回　生殖 （143　内藤　清惟／４回） 第5回　神経・筋 第6回　中枢神経系 第7回　消化器 第8回　消化・吸収 （53　白石　光也・143　内藤　清惟／１回）（共同） 第16回　期末試験	オムニバス方式・共同(一部)
			実験動物学	学修目標 「実験動物技術者（１級）」資格取得に必要な学習項目をカバーしつつ、総論として動物実験の意義、倫理的課題、法令、実験動物福祉、実験動物の体の構造と機能、繁殖・育種及び飼育管理について理解する。さらに各論として、代表的な実験動物の特性について理解する。 授業計画 （講義：全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　動物実験の意義、歴史、動物実験のデザインと成績の評価 第2回　実験動物の福祉と法令 第3回　実験動物の解剖と生理 第4回　実験動物の遺伝育種 第5回　実験動物の繁殖 第6回　遺伝子改変動物 第7回　実験動物の飼育管理、施設と環境 第8回　労働安全衛生 第9回　実験動物の感染症と微生物モニタリング 第10回　動物実験の基本的技術と検査法 第11回　実験動物の特性 Ⅰ（マウス・ラット） 第12回　実験動物の特性 II（その他の齧歯類） 第13回　実験動物の特性 III（食肉類、ブタ） 第14回　実験動物の特性 IV（サル類） 第15回　実験動物の特性 V（鳥類、魚類、その他） 第16回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	家畜飼養管理学	学修目標 家畜の飼養管理に関する専門用語と基本概念を説明できる。 畜産現場における家畜飼養管理の重要性を説明することができる。 授業計画 第1回　家畜管理学の概要 第2回　家畜と環境 第3回　飼育環境の制御 第4回　家畜の行動の基本概念 第5回　家畜の管理作業 第6回　牛の管理 第7回　豚の管理 第8回　その他の管理 第9回　畜舎に具備すべき要件 第10回　牛舎と付属施設 第11回　豚舎と付属施設 第12回　放牧管理用施設 第13回　糞尿処理利用方式 第14回　糞尿処理方式と施設・機械 第15回　畜舎・施設機器の経済性	
			家畜繁殖学	学修目標 1.家畜の繁殖現象に係わる基礎的知識について説明することができる。 2.哺乳動物の生命誕生に関するメカニズムについて説明することができる。 3.家畜の人工繁殖技術の理論とその利用・応用について説明することができる。 授業計画 全15回の授業を対面形式で実施する。授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。 第1回　雄性生殖器の形態と生理機能 第2回　雌性生殖器の形態と生理機能 第3回　繁殖に係わる視床下部及び下垂体ホルモン 第4回　繁殖に係わる性腺ホルモン 第5回　性分化と性成熟 第6回　小テスト（前半）＋精子の形成と成熟（後半） 第7回　卵子の形成と成熟 第8回　発情周期（性周期） 第9回　交配と受精 第10回　初期胚の発生と着床 第11回　小テスト（前半）＋妊娠と分娩（後半） 第12回　泌乳 第13回　家畜の人工繁殖技術：人工授精 第14回　家畜の人工繁殖技術：受精卵移植 第15回　小テスト（前半）＋その他の人工繁殖技術（後半）	
			動物遺伝学	学修目標 1.動物の分子遺伝学を中心に遺伝学の知識を学び、問題を解くことができる。 2.動物DNAの解析技術について説明することができる。 授業計画 定期的に確認テストを実施し、期末テストは実施しない。また、授業内容に関連するレポートを課して、指定期日までに提出されたものを評価する。 第1回　家畜の品種1 第2回　家畜の品種2 第3回　動物染色体の構造と変異 第4回　メンデルの遺伝とその拡張1 第5回　メンデルの遺伝とその拡張2 ＋レポート1 第6回　性と遺伝 ＋確認テスト1 第7回　ゲノムDNA、そのできること 第8回　動物遺伝子の構造と発現 第9回　ゲノムDNAの多様性、DNA多型 第10回　ゲノムDNAの解析手法 第11回　DNA多型の解析手法+確認テスト2 第12回　責任遺伝子の探し方1（Functional cloning） 第13回　責任遺伝子の探し方2（Positional cloning） 第14回　免疫の遺伝 ＋確認テスト3 第15回　最近の動物遺伝学 +レポート2	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	家畜栄養学	学修目標 栄養学の基礎領域である消化生理及び栄養化学の知識を理解し、説明することができる。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　五大栄養素（タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル）とその化学的特徴 第2回　体の構成成分と栄養素1（アミノ酸、タンパク質） 第3回　体の構成成分と栄養素2（脂質） 第4回　体の構成成分と栄養素3（糖質） 第5回　体の構成成分と栄養素4（繊維、核酸） 第6回　栄養素の消化と代謝1（総論） 第7回　栄養素の消化と代謝2（総論） 第8回　栄養素の消化と代謝3（各論、反芻家畜） 第9回　栄養素の消化と代謝4（各論、反芻家畜） 第10回　栄養素の消化と代謝5（各論、家禽） 第11回　栄養素の消化と代謝6（各論、犬と猫） 第12回　栄養要求量 第13回　栄養素の過不足 第14回　ライフステージと栄養 第15回　栄養要求量と飼料設計	
			生物統計学	学修目標 1.統計分析法を説明することができる。 2.検定法で有意差を検出し、意味を説明することができる。 3.指定に従ってレポートを作成し、期限内に提出することができる。 授業計画 第1回　講義のすすめ方とガイダンス 第2回　データの要約1：代表値（平均、中央値、最頻値） 第3回　データの要約2：度数分布表、ヒストグラムと相関表 第4回　サンプリングと誤差 第5回　データの要約3：分散、標準偏差、標準誤差 第6回　データの検定1：2群の平均値の差の検定 1）対応のある場合のデータ 第7回　データの検定2：2群の平均値の差の検定 2）対応のない場合のデータ 第8回　データの検定3：一元配置分散分析 第9回　データの検定4：3群以上の平均値の差の検定　（多重検定） 第10回　データの検定5：二元配置分散分析（繰り返しのない場合） 第11回　データの検定6：二元配置分散分析（繰り返しのある場合） 第12回　データの要約4：相関 第13回　データの要約5：回帰 第14回　データの検定7：カイ二乗検定 第15回　おさらい	
			食肉科学	学修目標 食肉について、その生産から屠畜、加工、調理を説明することができる。最終的に食する肉がどのようにして生産されているのかを評価する力をつける。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　肉用家畜の生産 第2回　肉用家畜の屠畜 第3回　食肉の構造1 第4回　食肉の構造2 第5回　食肉の熟成過程1 第6回　食肉の熟成過程2 第7回　食肉の熟成とおいしさとの関連1 第8回　食肉の熟成とおいしさとの関連2 第9回　食肉の栄養生理機能1 第10回　食肉の栄養生理機能2 第11回　調理に伴う食肉中成分の変化1 第12回　食肉の加工1 第13回　食肉の加工2 第14回　食肉の安全性1 第15回　食肉の安全性2	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	牧場実習I	学修目標 肉用牛生産の基礎的技術を体験し、多面性及び他分野との有機的つながりを説明できる。 牛を適切にハンドリングできる。 肉用牛の基本的な生態及び飼養管理を理解し、牛肉生産過程を説明できる。 授業計画 牧場での対面実習を行います。 第1回　オリエンテーション 第2回　肉用牛（繁殖牛・子牛）の飼養管理施設 第3回　肉用牛（育成牛・肥育牛）の飼養管理施設 第4回　肉用牛（繁殖牛）の日常管理 第5回　肉用牛（子牛・育成牛・肥育牛）の日常管理 第6回　肉用牛の手入れ・牛体洗浄 第7回　肉用牛の生態・行動観察（舎飼い牛） 第8回　肉用牛の生態・行動観察（放牧牛） 第9回　牛の保定・ロープワーク 第10回　肉用牛（成牛）のハンドリング 第11回　肉用牛（子牛）のハンドリング 第12回　肉用牛の体重測定 第13回　肉用牛の体尺測定 第14回　夏季の放牧草地管理 第15回　夏季の採草地管理	共同
			牧場実習II	学修目標 1.牛肉生産に必要な処置を理解し、説明できる。 2.肉用牛を取り巻く環境（飼料や糞尿処理）を理解し、説明できる。 3.農業機械の基本的な役割と機能が説明できる。 授業計画 牧場での対面実習を行います。 第1回　オリエンテーション 第2回　肉用牛の飼料観察（濃厚飼料） 第3回　肉用牛の飼料観察（粗飼料） 第4回　肉用牛の飼料調整（牧草収穫） 第5回　肉用牛の飼料観察（サイレージ調製） 第6回　農業機械 第7回　敷料と糞尿の観察 第8回　堆肥の製造 第9回　堆肥の品質評価 第10回　鼻紋の採取 第11回　耳標・鼻環装着 第12回　去勢 第13回　除角 第14回　冬季の放牧地管理 第15回　冬季の採草地管理	共同
			動物行動学	学修目標 1.動物の行動に関する専門用語と基本概念を説明できる。 2.農業生産現場における行動の重要性を理解し、行動的問題を説明できる。 授業計画 対面による講義を行います。 （オムニバス方式/全15回） （243　加隈　良枝／７回） 第1回　行動学の基本概念 第2回　行動の進化 第3回　行動発現の機構① 第4回　行動発現の機構② 第5回　行動の周期性 第6回　生得行動と学習① 第7回　生得行動と学習② （６　大島　一郎／８回） 第8回　個体維持行動① 第9回　個体維持行動② 第10回　社会行動① 第11回　社会行動② 第12回　社会行動③ 第13回　失宜行動 第14回　行動と施設・設備 第15回　家畜の飼養管理と行動	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	畜産化学基礎実験	学修目標 1.実験器具・機器の正しい取り扱いができる。 2.実験に必要な試薬を作製することができる。 3.基礎的な化学実験の理論を理解し、実施することができる。 4.畜産物成分の簡単な分析を行うことができる。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　事前講義（実験計画、注意点、実験ノート、データの取り扱い等） 第2回　実験器具の準備：名称、用途、洗浄・保管方法等 第3回　試薬、器具の取り扱いと溶液試薬の調整(パーセント濃度溶液) 第4回　試薬、器具の取り扱いと溶液試薬の調整(モル濃度溶液、pHの調整法) 第5回　食肉及び飼料成分の分析①：検体の調整法 第6回　食肉及び飼料成分の分析②：検体の採取・保存法 第7回　食肉及び飼料成分の分析③：電子天秤の使用法 第8回　食肉及び飼料成分の分析④：乾燥機・デシケータの使用法 第9回　食肉及び飼料成分の分析⑤：電気炉の使用法 第10回　食肉及び飼料成分の分析⑥：遠心分離機の使用法 第11回　食肉及び飼料成分の分析⑦：ピペットマンの使用法 第12回　食肉及び飼料成分の分析⑧：ホモジナイザーの使用法 第13回　食肉及び飼料成分の分析⑨：有機溶媒の使用法 第14回　食肉及び飼料成分の分析⑩：廃液の処理方法 第15回　事後講義（データの統計法、レポートの書き方、考察方法等）	共同
			栄養生化学実験	学修目標 動物性食品の品質評価に関する生化学的な分析方法を理解し、説明することができる。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　ガイダンス及び事前講義（実験の目的と内容の説明） 第2回　実験ノートとレポートの書き方の説明と試薬の調整 第3回　実験試料のサンプリングと成分分析（色値の測定、ドリップの測定）1 第4回　実験試料のサンプリングと成分分析（色値の測定、ドリップの測定）2 第5回　脂質過酸化度の分析（抽出） 第6回　脂質過酸化度の分析（測定） 第7回　ヘム色素含量分析（抽出） 第8回　ヘム色素含量分析（測定） 第9回　実験データの取りまとめと考察（ディベート1） 第10回　呈味関連物質（アミノ酸）の分析（抽出） 第11回　呈味関連物質（アミノ酸）の分析（測定） 第12回　呈味関連物質（核酸代謝物）の分析（抽出） 第13回　呈味関連物質（核酸代謝物）の分析（測定） 第14回　実験データの取りまとめと考察（ディベート2） 第15回　事後講義	
			畜産物分析化学実験	学修目標 1.畜産物の物性を評価する手法を理解し、説明することができる。 2.畜産物中の機能性成分に関する化学分析の手法を理解し、説明することができる。 畜産物の味を評価する手法を理解し、説明することができる。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　ガイダンス及び事前講義（実験の目的と内容の説明） 第2回　高速液体クロマトグラフィー（HPLC）分析の原理の説明（講義） 第3回　試薬・移動相の調整 第4回　試料の調整とサンプリング 第5回　ビタミンEの抽出 第6回　HPLCによるビタミンEの定量1 第7回　HPLCによるビタミンEの定量2 第8回　結果の検証・考察（ディベート1） 第9回　食味試験（目的、方法）の説明と五味識別試験 第10回　食味試験用試料の調整（肉の加熱調理）と食味試験1 第11回　食味試験用試料の調整（プリン）と食味試験2 第12回　呈味関連物質（アミノ酸・核酸代謝物）の分析（抽出） 第13回　呈味関連物質（アミノ酸）の分析（測定） 第14回　呈味関連物質（核酸代謝物）の分析（測定） 第15回　結果の検証・考察（ディベート2）と事後講義	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	家畜育種・繁殖学実験	学修目標 1.動物遺伝育種学に関する基礎的実験手法を理解し、行うことができる。 2.家畜・動物の繁殖生理学・生殖工学的技術に関する基礎的実験手法を理解し、行うことができる。 3.家畜の人工繁殖技術に関する基礎的手法を理解し、行うことができる。 授業計画 全15回の授業を対面形式で実施する。授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。 （オムニバス方式/全15回） （２　下桐　猛／５回） 第1回　オリエンテーション・サンプルの調整 第2回　DNAの抽出 第3回　DNAの検出及び濃度測定 第4回　DNAの検出・PCRと電気泳動 第5回　DNA多型の検出・まとめ （３　三好　和睦／10回） 第6回　顕微鏡の取り扱い・採血法・血液性状検査 第7回　ミニブタの解剖 第8回　家畜生殖器の観察 第9回　家畜精液の採取と性状検査 第10回　家畜精液の保存・人工授精・発情周期の観察 第11回　家畜卵子の採取と観察 第12回　家畜卵子の体外受精 第13回　家畜受精卵の回収・検査と保存 第14回　家畜受精卵の移植	オムニバス方式
			飼料化学	学修目標 1.飼料の原料、栄養成分，添加物，抗栄養成分，毒成分について理解する。 2.飼料成分が畜産物の品質に及ぼす影響を理解する。 3.配合飼料の設計の基本と飼料成分表示票の記載事項について理解する。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　飼料コストの重要性 第2回　飼料の定義、原料、エネルギー（総・可消化・代謝・正味エネルギー，可消化養分総量等） 第3回　飼料の非栄養性機能成分 第4回　飼料の抗栄養成分・毒成分 第5回　飼料添加物 第6回　飼料の安全性と飼料製造管理者 第7回　日本標準飼料成分表と日本飼養標準 第8回　ウシ用配合飼料の特徴 第9回　ブタ用配合飼料の特徴 第10回　ニワトリ用配合飼料の特徴 第11回　実験動物用飼料及びペットフードの特徴 第12回　特殊な給餌法（強制給餌、経管・静脈栄養等） 第13回　飼料成分が畜産物の品質に及ぼす影響 第14回　動物の健康に及ぼす影響（疾患との関連） 第15回　配合飼料の概要と設計	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	家畜育種学	学修目標 1.家畜の育種の関わる専門用語を説明できる。 2.変異の解析法を提示できる。 3.育種技術を説明することができる。 授業計画 第1回　本講義のガイダンス 第2回　家畜化と家畜育種の歴史 第3回　家畜の経済形質 第4回　質的形質の変異と遺伝１ 第5回　質的形質の変異と遺伝２ 第6回　量的形質の変異と遺伝 第7回　遺伝率 第8回　血縁の利用 第9回　近親交配と近交退化 第10回　雑種の利用と交雑育種 第11回　能力検定 第12回　選抜法 第13回　ゲノム情報の家畜育種への応用１ 第14回　ゲノム情報の家畜育種への応用２ 第15回　総括	
			畜産物加工実習	学修目標 1.畜産物加工物の生産の基礎的技術を説明できる。 2.畜産物加工品の品質管理、特質を説明できる。 授業計画 （実習は対面形式の集中講義として実施する） 第1回　事前ガイダンス 第2回　食品添加剤の基礎知識 第3回　加工施設の衛生について 第4回　ハム・ベーコンの加工（原料肉の取り扱い・トリミング） 第5回　ハム・ベーコンの加工（ピックル液の調整） 第6回　ハム・ベーコンの加工（食肉の塩漬） 第7回　ハム・ベーコンの加工（塩漬肉の燻製） 第8回　ハム・ベーコンの加工（加熱処理及び包装） 第9回　ソーセージの加工（肉挽） 第10回　ソーセージの加工（脂肪挽） 第11回　ソーセージの加工（乳化） 第12回　ソーセージの加工（ケーシングと腸詰） 第13回　ソーセージの加工（加熱処理） 第14回　官能検査 第15回　まとめと官能評価結果についてのディベート	共同
			野生・森林動物学	学修目標 1.生物多様性、系統進化と分類について学ぶ。 2.絶滅危惧種及びその保全について学ぶ。 3.動物園の機能や社会的役割について学ぶ。 4.外来種の生態系及び人間生活等への影響とその対策を学ぶ 5.野生動物に関する法律及び政策について学ぶ。 6.森林動物と農業との関わりを学ぶ 授業計画 全8回の講義を対面あるいは遠隔で行う （オムニバス方式/全８回） （222　森脇　潤／４回） 第1回　生物多様性、系統進化と分類 第2回　絶滅危惧種の保全 第3回　動物園学 第4回　外来生物、野生動物の法制度と政策論 （138　髙山　耕二／４回） 第5回　森林動物と農業 第6回　森林動物による農業被害の防止 第7回　森林動物の調査 第8回　森林動物との共生	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	動物関係法規	学修目標 動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生 のあり方等を理解する。 授業計画 （全８回の授業を対面形式で実施する） 第1回　法学総論 法の体系、獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて 第2回　愛玩動物看護師法 愛玩動物看護師法の目的・定義等について 第3回　獣医療関連行政法規 獣医師法と獣医療法の概要 第4回　公衆衛生行政法規と薬事行政法規 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、狂犬病予防法、麻薬及び向精神薬取締法、毒物及び劇物取締法等 第5回　愛護・適正飼養の基本となる概念と愛護・適正飼養関連行政法規 愛護・適正飼養に関連する法規、動物の愛護及び管理に関する法律、愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律等 第6回　社会福祉行政・環境衛生法規 身体障害者補助犬法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律等 第7回　野生動物等に関する法律及び条約 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律、絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約等 第8回　期末試験	
			動物衛生学	学修目標 産業動物を、動物福祉の考え方に基づき生産性を確保しつつ健全に飼育し、安全な畜産物を得るために家畜衛生行政、飼育環境、疾病の予防・防除の重要性・必要性を学び、疾病を制御する基本的な方策を関連法規に基づき理解する。 授業計画 第1回　動物衛生学の概要 第2回　日本の家畜防疫の仕組み 第3回　家畜伝染病の発生動向と国際防疫 第4回　疾病制御と予防衛生 第5回　環境衛生 第6回　飼養管理衛生 第7回　動物の中毒 第8回　家畜排せつ物の管理 第9回　乳牛の管理衛生 第10回　肉牛の管理衛生 第11回　放牧牛の管理衛生 第12回　豚の管理衛生 第13回　鶏の管理衛生 第14回　ミツバチ及び特用家畜の管理衛生 第15回　伴侶動物、展示動物及び野生動物の管理衛生 第16回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （共同獣医学部畜産学科）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	動物病理学	学修目標 様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。 授業計画 第1回　動物病理学の基礎（１） 病理解剖と病理組織学的検査の目的と意義 第2回　動物病理学の基礎（２） 病理組織標本の作製法 第3回　動物病理学の基礎（３） 病理組織学的検査の実施手順 第4回　細胞や組織に生じる変化（１） 変性と物質沈着・壊死とアポトーシス 第5回　細胞や組織に生じる変化（２） 細胞増殖のメカニズム、再生と化生 第6回　細胞や組織に生じる変化（３） 過形成と肥大・低形成と萎縮 第7回　循環障害（１） 充血とうっ血、出血 第8回　循環障害（２） 血栓の成因と播種性血管内凝固(DIC)の病態 第9回　循環障害（３） 虚血と梗塞・浮腫と水腫 第10回　循環障害（４） ショックの原因と分類、病態について 第11回　炎症（１） 炎症の定義と5大主徴と炎症の分類と原因 第12回　炎症（２） 炎症に関与する細胞と化学伝達物質、炎症の経過と治癒 第13回　腫瘍（１） 腫瘍の定義と分類、原因と発生機序 第14回　腫瘍（２） 腫瘍と宿主の関係、腫瘍の転移と進行 第15回　感染病理、先天異常 プリオン・ウイルス・細菌・真菌・寄生虫などの感染症、遺伝子・染色体異常、発生異常と奇形 第16回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	動物感染症学	学修目標 微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。また、病原体の感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。 授業計画 （オムニバス方式/全15回） （60　田仲　哲也／１０回） 第1回　微生物の分類と特徴（１） 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性 第3回　微生物の分類と特徴（３） 真菌、リケッチアの分類、形態、増殖方法及び病原性 第7回　寄生虫の分類と特徴（１） 原虫の分類、形態、生活環及び病原性、 第8回　寄生虫の分類と特徴（２） 蠕虫(吸虫、条虫、線虫)の分類、形態、生活環及び病原性 第9回　寄生虫の分類と特徴（３） 衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性 第10回　細菌動物感染症 細菌の感染経路と伝播様式、症状、診断法、治療法、予防法 第12回　寄生虫動物感染症 寄生虫の感染経路と伝播様式、症状、診断法、治療法、予防法 第13回　免疫学の基礎と応用（１） 免疫担当細胞とその役割、自然免疫と獲得免疫 第14回　免疫学の基礎と応用（２） 病原体感染に対する生体防御 第15回　免疫学の基礎と応用（３） アレルギー(Ⅰ～Ⅳ型)と自己免疫疾患、ワクチンの原理と種類 （165　松本　祐介／５回） 第2回　微生物の分類と特徴（２） ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性 第4回　微生物検査（１） 検体採取と取扱い、無菌環境下での必要な手技 第5回　微生物検査（２） 微生物染色法、顕微鏡による観察法、微生物培養法、薬剤感受性試験 第6回　微生物検査（３） 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む) 第11回　ウイルス動物感染症 ウイルスの感染経路と伝播様式、症状、診断法、治療法、予防法 （60　田仲　哲也・165　松本　祐介／１回） 第16回　期末試験	オムニバス方式
			動物薬理・毒性学	学修目標 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。 授業計画 （オムニバス方式/全15回） （110　宇野　泰広／９回） 第1回　動物薬理・毒性学の基礎（１） 第2回　動物薬理・毒性学の基礎（２） 第3回　動物薬理・毒性学の基礎（３） 第4回　神経系に作用する薬物（１） 第5回　神経系に作用する薬物（２） 第6回　呼吸器系に作用する薬物 第7回　循環器・泌尿器に作用する薬物（１） 第8回　循環器・泌尿器に作用する薬物（２） 第16回　期末試験 （53　白石　光也／７回） 第9回　消化器に作用する薬物 第10回　オータコイド、代謝・内分泌系の薬物（１） 第11回　オータコイド、代謝・内分泌系の薬物（２） 第12回　血液・免疫系に作用する薬物（１） 第13回　化学療法薬（１） 第14回　化学療法薬（２） 第15回　中毒と中毒治療薬	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	獣医公衆衛生学	学修目標 1.畜産・獣医学に関わる公衆衛生活動を理解し科学的考え方の習得を目指す。 2.人々の健康の維持・増進や疾病予防への動物の関わりについて理解する。 授業計画 第1回　ガイダンスと概説 第2回　畜産・獣医学における公衆衛生学の概念 第3回　公衆衛生の歴史的歩み 第4回　国民衛生の動向 第5回　感染症の予防と防疫 第6回　人と動物の共生 第7回　環境衛生と動物 第8回　試験	
			食品衛生学	学修目標 1.食品による健康危害要因の種類と健康障害の発生要因を理解する。 2.食品衛生行政、関係法規を理解する。 3.食品に起因する健康被害を未然に防ぐ方策について理解する。 授業計画 第1回　ガイダンス・食品衛生の概念 第2回　食品衛生行政 第3回　食中毒と食品媒介疾病 第4回　ウイルス性食品媒介感染症 第5回　細菌性食品媒介感染症 第6回　細菌性食中毒１ 第7回　細菌性食中毒２ 第8回　細菌性食中毒３ 第9回　細菌性食中毒４ 第10回　原虫性食中毒１ 第11回　原虫性食中毒２ 第12回　自然毒と化学物質 第13回　食品中の汚染物質・食品添加物 第14回　衛生管理の基本 第15回　食品（乳肉卵）の衛生管理 第16回　試験	
			動物形態機能学実習	学修目標 1.運動器や内臓器官の構造や特徴を雌雄差を含めて理解する 2.顕微鏡の取扱いを修得し主要臓器の組織像の特徴を理解する。 3.実験動物の飼養管理や動物実験の基本を修得し身体の機能を理解する。 授業計画 （オムニバス方式/全15回） （210　辻尾　祐志／５回） 第1回　骨学・関節学:骨標本の観察 第2回　肉眼解剖（１）：ビデオ・VRアナトミー 第3回　肉眼解剖（２）：屠場臓器による雌雄の生殖器解剖 第4回　顕微鏡観察（１）：運動器、消化器、循環器、呼吸器、リンパ 第5回　顕微鏡観察（２）：泌尿器、生殖器、内分泌、神経、感覚器 （12　浅野　淳／５回） 第6回　実験動物の飼育管理実習（１）：動物施設、飼育環境、飼養管理業務 第7回　実験動物の飼育管理実習（２）：マウス・ラットの飼育機材と環境エンリッチメント 第8回　実験動物の飼育管理実習（３）：マウス・ラットの飼養管理と維持・繁殖 第9回　実験用小動物を用いた動物実験の基本（１）：ハンドリング、保定、麻酔・鎮痛、投与、採血、安楽死 第10回　実験用小動物を用いた動物実験の基本（２）：遺伝的及び微生物学的モニタリング （53　白石　光也／１回） 第11回　身体の機能（１）：赤血球と血液凝固系の機能と役割 （143　内藤　清惟／２回） 第12回　身体の機能（２）：各種薬物投与法と薬物の分布 第13回　身体の機能（３）：心電図の測定と解析 （110　宇野　泰広／２回） 第14回　身体の機能（４）：シミュレーションソフトによる薬物動態の解析 第15回　身体の機能（５）：薬物代謝酵素の発現とその働き	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	必修科目	専門基礎科目	卒業研究論文	学修目標 畜産科学分野における研究能力及び現場の課題について検討を行う能力を養成する。 授業計画 授業は対面で実施する。ただし、「授業形態（対面・遠隔）」については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。卒業研究は、学生が主体的に実施することから、時間割に記載されている以外の多くの時間や、夏季、冬季休暇期間中においても行うことになる。標準的には、以下の内容を含んだものとなる。 第1回　実験計画の立て方 第2回　研究の進め方 第3回　データ解析とまとめ方（1） 第4回　データ解析とまとめ方（2） 第5回　中間発表におけるプレゼンテーションの方法（1） 第6回　データ解析とまとめ方（3） 第7回　データ解析とまとめ方（4） 第8回　データ解析とまとめ方（5） 第9回　データ解析とまとめ方（6） 第10回　中間発表におけるプレゼンテーションの方法（2） 第11回　データ解析とまとめ方（7） 第12回　データ解析とまとめ方（8） 第13回　文献検索と論文の作成法（1） 第14回　文献検索と論文の作成法（2） 第15回　卒論発表におけるプレゼンテーションの方法	共同
	選択科目	専門応用科目	動物生殖工学	学修目標 1.動物生殖工学の特色及び他の学問分野との関わりについて、説明できるようになる。 2.個々の技術における理論・方法について、説明できるようになる。 3.家畜生産における生殖工学的技術の応用について、説明できるようになる。 授業計画 全15回の授業を対面形式で実施する。授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。 第1回　動物生殖工学と他の学問分野との接点 第2回　動物の生殖と初期発生 第3回　情報伝達物質の利活用：発情周期の同期化 第4回　情報伝達物質の利活用：過剰排卵 第5回　精子の保存技術 第6回　小テスト（前半）＋卵子の保存技術（後半） 第7回　体外成熟・体外受精・体外培養 第8回　経膣採卵 第9回　顕微授精 第10回　性支配 第11回　小テスト（前半）＋クローニング（後半） 第12回　遺伝子改変動物の作出 第13回　人工授精 第14回　受精卵移植 第15回　小テスト（前半）＋着床・妊娠・分娩の制御（後半）	
			情報処理演習	学修目標 エクセルソフトを用いた，統計処理ができるようになる。 授業計画 第1回　利用ガイダンス 第2回　メールの設定 第3回　基本統計量 第4回　平均値 第5回　Count関数 第6回　If関数 第7回　ｔ検定 第8回　ｆ検定 第9回　一元配置分散分析 第10回　二元配置分散分析 第11回　多重比較 第12回　レポート作成 第13回　実験データの扱い 第14回　プレゼンテーションの作成 第15回　総括	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	インターンシップ研修	学修目標 企業や試験研究機関で活躍している技術者・研究者による解説などを通して、大学での講義や実験の内容と現場や社会との関連性についての理解を深める。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　事前講義 第2回　研修先で就業体験1 第3回　研修先で就業体験2 第4回　研修先で就業体験3 第5回　研修先で就業体験4 第6回　研修先で就業体験5 第7回　研修先で就業体験6 第8回　研修先で就業体験7 第9回　研修先で就業体験8 第10回　研修先で就業体験9 第11回　研修先で就業体験10 第12回　研修先で就業体験11 第13回　研修先で就業体験12 第14回　事後講義1 第15回　事後講義2	
			ミートジャッジング（畜産物品質評価実習）	学修目標 食肉格付の理論とその評価方法の基礎を理解し、説明することができる。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　食肉に関するディベート 第2回　牛枝肉取引規格の概要と食肉格付の評価方法（講義） 第3回　豚枝肉取引規格の概要と食肉格付の評価方法（講義） 第4回　牛部分肉取引規格の概要（講義） 第5回　豚部分肉取引規格の概要（講義） 第6回　牛取引規格に基づいた牛枝肉の評価1（実習） 第7回　牛取引規格に基づいた牛枝肉の評価2（実習） 第8回　豚取引規格に基づいた豚枝肉の評価1（実習） 第9回　豚取引規格に基づいた豚枝肉の評価2（実習） 第10回　部分肉の見分け方1（実習） 第11回　部分肉の見分け方2（実習） 第12回　精肉の見分け方1（実習） 第13回　精肉の見分け方2（実習） 第14回　海外の食肉格付（講義） 第15回　まとめ（実習内容に関するディベート）	共同
			草地利用学	学修目標 1.草地の種類や用途を説明できる。 2.草地で生産される牧草の栽培整理を説明できる。 授業計画 対面での講義をおこないます。 第1回　草地と草地学 第2回　草地の種類と環境 第3回　牧草の栽培と生理 第4回　草地における植物と家畜の相互作用 第5回　草地の生産維持管理 第6回　草地の利用 第7回　草地の施設と機械 第8回　試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	畜産物利用学	学修目標 動物性食品（乳、肉、卵）の有する性質についての知識を理解し、説明することができる。また、畜産加工食品の製造過程における現象（化学反応など）についての知識を理解し、説明することができる。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　牛乳の科学1 第2回　牛乳の科学2 第3回　乳製品の科学1 第4回　乳製品の科学2 第5回　牛乳の生理学的機能 第6回　牛乳及び乳製品の安全管理 第7回　世界の食肉・食肉加工品 第8回　鶏卵の科学1 第9回　鶏卵の科学2 第10回　鶏卵加工製品の科学1 第11回　鶏卵加工製品の科学2 第12回　鶏卵の生理学的機能 第13回　鶏卵及び卵製品の安全性 第14回　副産物の利用 第15回　動物性食品に関する関連法規	
			食品科学	学修目標 1.食品の味、物性、機能について理解する。 2.食品の加工、開発、販売戦略について理解する。 3.食品の安全性の確保について理解する。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施する） 第1回　食品の主要成分 第2回　食品の嗜好成分 第3回　食品の物性 第4回　食品の美味しさ１ 第5回　食品の美味しさ２ 第6回　食品の一次機能 第7回　食品の二次機能 第8回　食品の三次機能 第9回　食品の加工 第10回　食品の開発 第11回　食品のマーケティング 第12回　食品のブランディング 第13回　食品のリスク管理 第14回　食品の安心・安全の確保 第15回　食品と疾病の関連	
			バイオインフォマティクス	学修目標 ゲノムデータを用いた類似配列検索、遺伝子予測、分子系統解析などの手法の原理を理解し、説明することができる。 授業計画 （全８回の授業を遠隔形式で実施する） 第1回　遺伝情報の発現機構 第2回　ゲノムの進化的変化 第3回　ゲノム解析方法-遺伝子発現量の定量的解析 第4回　ゲノム解析方法-発現遺伝子アノテーション解析 第5回　Rの導入及びRを用いた基本的な解析 第6回　Rを用いたバイオインフォマティクス解析1 第7回　Rを用いたバイオインフォマティクス解析2 第8回　まとめ	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	スマート畜産論	学修目標 1.畜産業の現状と課題に関連したスマート化について説明することができる。 2.畜産業に活用できるIoTやAIの有用性を理解し、説明することができる。 3.現在のスマート畜産の事例を理解し、その仕組みと課題を説明することができる。 授業計画 第1回　現在の畜産業の状況と課題 第2回　スマート畜産の背景と類型 第3回　畜舎におけるスマート化 第4回　作業の省力に関するスマート化 第5回　個体の生体情報検知のスマート化 第6回　システムとしての情報統合 第7回　スマート畜産の今後の可能性と課題について 第8回　試験	
			飼料資源化学概論	学修目標 1.飼料自給率の向上や食品副産物の再生利用について学び、飼料をとりまく状況についての概要を説明することができる 2.畜産物品質をばらつかせる原因について学び、その概要を説明することができる。 3.飼料資材による畜産物の改変と飼料資材の開発過程について知る。 授業計画 （全15回の授業を対面形式で実施するが、講義内容と順を変更する場合がある。） 第1回　飼料をとりまく状況の解説（日本の飼料自給率と世界的な飼料価格の変動） 第2回　飼料自給率に関するディベート 第3回　飼料自給率を上げる取り組み事例その1（精米副産物の再生利用事例） 第4回　飼料自給率を上げる取り組み事例その2（精米副産物の機能性） 第5回　畜産物品質のばらつきを向上させる必要性（品質を安定化させる必要性）の解説 第6回　畜産物品質のばらつきの原因となる飼養管理上の注意点その1（初期栄養の重要性） 第7回　畜産物品質のばらつきの原因となる飼養管理上の注意点その2（環境温度の重要性） 第8回　〔前半45分〕飼料による食肉の品質低下の予防、〔後半45分〕：期末試験 第9回　飼料資材による畜産物の品質改変 第10回　飼料資材と畜産物の開発　事例その１（かごしま黒豚の飼養） 第11回　飼料資材と畜産物の開発　事例その２（かごしま黒豚の肉質） 第12回　飼料資材と畜産物の開発　事例その２（ニワトリの事例） 第13回　飼料資材の開発　飼料化の事例その２（焼酎粕） 第14回　飼料資材の開発　飼料化の事例その３（麹菌） 第15回　飼料資材の開発　飼料化の事例その４（乳酸菌発酵焼酎粕） 第16回　〔前半45分〕授業の総括、〔後半45分〕：期末試験	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	家畜人工繁殖学実習	学修目標 1.家畜の人工授精技術を理解し、基本的手技を行うことができる。 2.家畜の受精卵移植技術を理解し、基本的手技を行うことができる。 3.家畜人工授精・受精卵移植に係わる関連法規を説明することができる。 授業計画 全ての授業を対面形式で実施する。授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により変更する場合がある。 第1回　精液の採取 第2回　精液及び精子の検査 第3回　保存液の特性と精液希釈 第4回　精液の液状保存と凍結保存 第5回　発情検査・直腸検査の実際 第6回　人工授精用器具の種類と操作 第7回　人工授精の実際 第8回　作業の確認試験 第9回　過剰排卵処置・発情周期の同期化 第10回　卵子・受精卵採取：採取器具の種類と操作 第11回　受精卵回収と移植の実際 第12回　卵子の体外受精と受精卵の体外培養 第13回　受精卵の凍結保存 第14回　人工授精に係わる関連法規 第15回　受精卵移植に係わる関連法規 第16回　修業試験	
			家禽生産学	学修目標 1.家禽生産の特徴について理解する。 2.家禽生産の課題について理解する。 3.家禽用飼料の科学について理解する。 授業計画 （全8回の授業を対面形式で集中実施する） 第1回　日本と世界の家禽 第2回　肉用鶏（ブロイラー）、卵用鶏（レイヤー）、卵肉兼用種及びその他の家禽 第3回　ニワトリ用飼料原料の流通と経済 第4回　ニワトリの飼養標準、飼料設計の実践 第5回　ニワトリの消化管と飼料による影響 第6回　抗生物質とプレ・プロ・ポストバイオティクス 第7回　家禽生産と諸問題① 第8回　家禽生産と諸問題② ※講義順は変更の可能性あり。	
			畜産物高度利用学	学修目標 1.畜産物の評価に関する分析手法の原理を理解し、説明することができる。 2.畜産物品質に関連する成分の質量分析による分析手法を理解し、様々な質量分析手法を用いた品質評価を理解する知識を習得する。 授業計画 （全８回の授業を遠隔形式か場合によっては対面形式で実施する） 第1回　畜産物に対する社会のニーズの変化 第2回　家畜の遺伝形質と畜産物品質との関連 第3回　家畜の飼育方法と畜産物品質との関連 第4回　畜産物品質の制御方法 第5回　畜産物品質に関連する成分 第6回　畜産物品質に関連する成分の質量分析 第7回　畜産物品質の質量分析による評価事例1 第8回　畜産物品質の質量分析による評価事例2	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物臨床検査学	学修目標 1.動物臨床検査学における個々の検査の種類、方法及び意義を理解・習得する。 2.様々な疾患に対して、どのような検査が適用され、その検査はどのように実施されるか理解・習得する。 3.検査結果を総合的に解釈し、診断・予後判定に結びつける方法を理解する。 授業計画 第1回　臨床検査の基礎I（検査を実施する者の役割、基準値・感度・特異度・精度管理） 第2回　臨床検査の基礎II（臨床検体の採取法、取り扱い） 第3回　血液検査I（全血球検査、ヘマトクリット管検査） 第4回　血液検査II（血液塗抹検査） 第5回　血液検査III（血液化学検査①） 第6回　血液検査IV（血液化学検査②） 第7回　血液検査V（血液化学検査③） 第8回　血液検査VI（凝固系検査・血液ガス検査） 第9回　血液検査VII（免疫学的検査、その他の検査） 第10回　尿検査I（尿の性状、尿比重、尿試験紙法） 第11回　尿検査II（尿沈渣） 第12回　糞便検査 第13回　病原性微生物の検査 第14回　細胞診・病理組織学検査 第15回　遺伝子検査 第16回　期末試験 注. 都合により講義順序が一部変わることがあるが、その場合前もって知らせる。	共同
			動物医療看護概論	学修目標 獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門 職としての社会 的責務を理解し職業意識を形成する。動物看護過程 の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。 授業計画 (全15回の授業を対面形式で実施する) 第1回　動物看護の基本となる概念（１） 動物看護の目的、概念、獣医療と動物看護の歴史 第2回　動物看護の基本となる概念（２） 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領 第3回　動物看護の基本となる概念（３） 動物にとっての健康、福祉、QOL 第4回　動物看護の提供体制（１） 社会における動物病院の役割、一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携 第5回　動物看護の提供体制（２） インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について 第6回　動物看護の提供体制（３） 診療録(カルテ)と動物看護記録、職場における労働安全衛生 第7回　愛玩動物看護師の社会的立場（１） 愛玩動物看護師の職能団体資格制度と業務範囲、資格認定機関 第8回　愛玩動物看護師の社会的立場（２） 愛玩動物看護師に関する代表的な組織・団体と国内外の看護師資格制度 第9回　動物看護過程の展開 動物看護過程の目的や意義、方法 第10回　動物看護過程の展開 情報の整理と解釈、動物看護計画の立案と評価 第11回　診療記録と動物看護記録 診療録(カルテ)と動物看護記録の作成法 第12回　動物看護業務（１） チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割とケアの標準化(クリティカルパス) 第13回　動物看護業務（２） 年齢層に応じた看護の特徴と退院計画・指導について 第14回　ターミナルケアに関わる技術（１） ターミナルケアの目的と意義 第15回　ターミナルケアに関わる技術（２） グリーフケアと死亡した動物への対応 第16回　期末試験	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物看護各論	学修目標 事前問診、入院 動物の容態説明、 院内における他 のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのよ うな看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。 授業計画 (全15回の授業を対面講義形式で実施する) （オムニバス方式/全15回） （24　遠藤　泰之／１３回） 第1回　クライアントエデュケーション 適正飼養、動物と飼い主の良好な関係、病気の適切な予防、在宅看護等におけるコミュニケーション 第2回　院内コミュニケーション インフォームドコンセントに、獣医療面接のプロセス、チーム獣医療に関するコミュニケーション 第3回　院内業務 受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)、物品購入や管理、ペット保険等について 第4回　徴候や疾患の理解と対処 代表的な徴候や病態、疾患とその評価 第5回　全身徴候と特異的徴候 各種徴候と疾患との関係 第6回　循環器疾患における看護の概要 弁膜症、心奇形、感染症等 第7回　呼吸器疾患における看護の概要 感染症、短頭種気道症候群、肺炎、肺水腫、猫喘息等 第8回　消化器・栄養代謝性疾患における看護の概要 口腔、消化管、肝疾患、膵臓疾患、感染症等 第9回　泌尿器疾患における看護の概要 急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、尿石症、猫下部尿 路疾患(FLUTD)、感染症等 第10回　内分泌疾患と皮膚疾患における看護の概要 感染症、アレルギー、下垂体、甲状腺、副腎、膵臓、性腺等 第13回　造血器・免疫介在性疾患における看護の概要 貧血、感染症、造血器系腫瘍等 第15回　担がん動物の看護 がんの診断のための検査、担がん動物の治療と化学療法の副作用等 第16回　期末試験 （80　藤木　誠／３回） 第11回　整形外科疾患における看護の概要 骨折、脱臼、関節炎、変形性関節症等 第12回　神経・感覚器疾患における看護の概要 脳炎、水頭症、てんかん、結膜炎、乾性角結膜炎、緑内障、白内障等 第14回　緊急疾患における看護の概要 交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、アナフィラキシー等	オムニバス方式
			動物検査学実習	学修目標 検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。 授業計画 第1回　検体採取・処理の手順 第2回　検査器具及び顕微鏡の取り扱い 第3回　全血球計算、血漿・血清の分離 第4回　血液化学検査 第5回　血液塗抹標本の作製と染色 第6回　血液塗抹標本の観察（一般観察） 第7回　血液塗抹標本の観察（白血球百分比） 第8回　簡易血清学的検査 第9回　尿検査（物理化学性状） 第10回　尿検査（尿沈渣） 第11回　糞便検査（直接法） 第12回　糞便検査（集卵法） 第13回　細胞診のための検体採取法 第14回　細胞診（実際の観察1） 第15回　細胞診（実際の観察2） 第16回　総合評価	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （共同獣医学部畜産学科）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物看護学実習Ⅰ	学修目標 内科診療に必要な手技など、動物内科学で学んだ知識の実践力を習得する。動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。 授業計画 (全15回の授業を対面形式で実施する) 第1回　動物の基本的な取扱い（１） 動物種に応じた安全なハンドリング、安全な運動 第2回　動物の基本的な取扱い（２） 動物に適切な道具(首輪、胴輪、リード、 おもちゃなど)、基本的なグルーミング、飼養環境の適切な整備 第3回　飼い主とのコミュニケーション（１） 犬や猫の品種に応じた特徴、動物の適切な飼養方法、飼い主が遵守すべき法令 第4回　飼い主とのコミュニケーション（２） 飼い主への支援、避難所等災害時の支援 第5回　動物愛護管理行政 動物愛護管理センターの活動、動物取扱業 第6回　身体検査 全身状態、バイタルサインの評価 第7回　診察補助（１） 診察の準備や診察室の衛生管理、基本的な保定、聴診器や体温計、注射器の取扱い 第8回　診察補助（２） 採血・採尿(尿カテーテルの挿入を含む)の手順 第9回　診察補助（３） 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順 第10回　輸液・輸血に関わる技術 留置針設置の手順、輸液ポンプ、シリンジポンプの使用、輸液・輸血中の動物の管理 第11回　マイクロチップに関わる技術 マイクロチップの適切な挿入部位と装着手順 第12回　生体検査（１） X線撮影のための基本的な保定、放射線防護のための装備 第13回　生体検査（２） 心電図検査、超音波検査の補助 第14回　生体検査（３） 神経学的検査、眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助 第15回　生体検査 皮膚検査(掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)と外耳道検査の補助 第16回　総合評価	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （共同獣医学部畜産学科）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物看護学実習II	学修目標 手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科学で学んだ知識の実践力を修得する。 授業計画 第1回　術前準備（１） 手術器具の種類 第2回　術前準備（２） 手術衣、タオル・ドレープ類の準備と滅菌 第3回　術前準備（３） 手術に必要な機器、器械台の準備 第4回　術前準備（４） 手術台への動物の固定 第5回　術前準備（５） 術野の消毒 第6回　術前準備（6） 手洗い、手術衣や手袋の装着 第7回　術中補助（１） 麻酔器の使用法と操作 第8回　術中補助（２） モニター機器(心電図、血圧計など)による術中監視 第9回　術中補助（３） 麻酔記録 第10回　術中補助（４） 直接補助(器械の受渡しなど) 第11回　術中補助（５） 間接補助(無影灯、保温マットの操作など) 第12回　術中補助（６） 歯科器具 第13回　術中補助（７） 歯科処置(歯石除去など)の補助 第14回　術後管理（１） 術後の創傷管理(ネット、カラー装着などを含む) 第15回　術後管理（２） 包帯(粘着性、自着性など)の装着 第16回　術後管理（３） 抜糸の補助 第17回　救急救命 必要な機材、薬剤の迅速な準備 第18回　救急救命 気管挿管の補助 第19回　救急救命 心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)の手順	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （共同獣医学部畜産学科）					
科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物内科学	学修目標 内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査所見の記録等について理解する。 授業計画 (全15回の授業を対面形式で実施する) 第1回　健康の保持・増進 健康診断の内容と目的について理解する 第2回　診療補助に必要な技術 診察室の準備と衛生管理、保定の基本的な原理、目的、方法、身体検査・アセスメント項目について 第3回　検査・処置に必要な技術 注射器の取扱い、採血、採尿、穿刺と吸引、各種カテーテル挿入、酸素吸入、マイクロチップの挿入等 第4回　投薬に関わる技術 薬の処方、内服薬、注射薬、外用薬、投薬前後の注意事項等 第5回　特別な注意が必要な注射に関する技術 投与速度、投与経路、化学療法剤、動物種による禁忌等 第6回　輸液に関わる技術 各種輸液剤の特性や適応、輸液の適応とリスク、輸液中のモニタリング等 第7回　輸血に関わる技術 輸血の適応とリスク、輸血計画、クロスマッチ試験と血液型、輸血に関わる手技、輸血による副反応等 第8回　心電図と血圧に関わる技術 心電図検査の実施方法、血圧測定の方法と意義等 第9回　X線検査に関わる技術 放射線防護、X線検査、撮影体位、造影検査と透視検査等 第10回　CT/MRIに関わる技術 CT及びMRI検査の概要等 第11回　超音波検査に関わる技術 超音波検査の目的と実施方法、保定体位。各種モード等 第12回　内視鏡検査に関わる技術 内視鏡検査の目的と意義、実施方法と準備事項、スコープの洗浄・消毒法等 第13回　神経学的検査に関わる技術 脳神経、姿勢反応、脊髄反射等 第14回　眼科検査に関わる技術 シルマー試験、フルオレセイン試験、眼圧測定、眼底検査等の方法と意義 第15回　皮膚と耳の検査に関わる技術 皮膚病変の観察と記録法、皮膚科検査（皮膚掻爬試験、スタンプ検査、毛検査、皮膚生検、ウッド灯検査）、外耳道検査等 第16回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物外科学	学修目標 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。 授業計画 (全15回の授業を対面形式で実施する) 第1回　外傷・創傷管理（１） 創傷の種類と治癒過程と管理方法、ドレーンの装着と管理法等 第2回　外傷・創傷管理（２） 止血法、骨折・脱臼の管理 第3回　術前準備（１） 術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査、無菌的処置の重要性について 第4回　術前準備（２） 手術衣、タオル・ドレープ類の準備と滅菌法、手術器具の準備と滅菌法について 第5回　術前準備（３） 手術室の機器類(無影灯、電気メス本体など)、器械台の準備、適切なポジショニング、術野の消毒、手洗い、手術着・手袋の着用法等 第6回　麻酔（１） 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割、麻酔リスクの評価(ASA分類など)について 第7回　麻酔（２） 麻酔前投与(鎮静など)、注射麻酔(局所麻酔を含む)、吸入麻酔の手技、導入時、覚醒時のリスクと対処法について 第8回　麻酔（３） 麻酔看視項目(心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼気終末二酸化炭素濃度など)、麻酔記録の作成法について 第9回　術中補助（１） 代表的な手術器具(メス、鉗子など)、縫合材(縫合針、縫合糸)、歯科器具の名称と使用法について 第10回　術中補助（２） 直接補助(手袋着用下での補助)、間接補助(手術回りの補助)等について 第11回　術後管理（１） 麻酔覚醒後の動物のモニタリング、疼痛管理の意義と方法について 第12回　術後管理（２） 術創管理と包帯法について 第13回　救急救命（１） エマージェンシーの原因と病態、一次救命措置(BLS)と二次救命措置(ALS)について 第14回　救急救命（２） 気管挿管と心肺蘇生の方法 第15回　動物理学療法 動物理学療法の目的。意義、原理、手技について 第16回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	適正飼養指導論	学修目標 愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。 授業計画 (全８回の授業を対面集中講義形式で実施する) 第1回　愛玩動物の飼養 愛玩動物の適正飼養の目的、概念、現状、問題点、ペットロス等について 第2回　適正飼養の推進（１） 適正飼養に関する支援の目的と活動、動物取扱業者における適正飼養、過剰繁殖の問題とその対策 第3回　適正飼養の推進（２） 問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法 第4回　災害危機管理と支援 災害時の同行避難の重要性、災害獣医療の概要と災害時におけ る愛玩動物看護師の役割 第5回　動物愛護管理行政（１） 公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割 第6回　動物愛護管理行政（２） 動物愛護週間の役割と実施状況、犬・猫の収容並びに処分の状況、動物による事故の内容と報告状況 第7回　動物愛護管理行政（３） 動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割、動物取扱責任者の選任条件と役割 第8回　期末試験	
			動物生活環境学	学修目標 動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽 減するための方 法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。 授業計画 (全８回の授業を対面集中形式で実施する) 第1回　飼養環境整備 動物行動学を踏まえた人と動物のための飼養環境整備の必要性や方法等 第2回　ペットツーリズム関連施設、ドッグラン ペットツーリズムの現状、ドッグランの環境整備・管理の方法等 第3回　保護収容施設 動物シェルターの役割、災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスン 第4回　ペットへの教育・訓練施設 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等 第5回　動物介在教育施設 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法 第6回　ペット飼育のマナー事故やケガ等のリスクへの対応（１） 飼育マナーの必要性や目的、飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い 第7回　ペット飼育のマナー事故やケガ等のリスクへの対応（２） 飼育マナーに関する各種の条例、動物種別の飼育マナー、ペット保険の仕組みと実態 第8回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	産業動物治療学実習	学修目標 1. 講義で習得した知識をもとに，実際に動物に触れながら実習を行うことで，知識の定着を図るとともに，基礎的な獣医学的技術を習得する。 2. 牛，馬，豚の診断，診療を行う場合に必要な基礎知識，保定法，診断法，検査法及び治療法についての実践的な技術を習得する。 授業計画 (全30回の授業を対面形式で実施する) 1.　牛のハンドリングと部位名称 2.　子牛の臨床検査（1）（視診、触診、打診、聴診、検温） 3.　子牛の臨床検査（2）（視診、触診、打診、聴診、検温） 3.　牛の採血法と注射法(1) 4.　牛の採血法と注射法(2) 5.　成牛の臨床検査（1）（視診、触診、打診、聴診、検温） 6.　成牛の臨床検査（2）（視診、触診、打診、聴診、検温） 7.　牛の乳房炎の検査（1） 8.　牛の乳房炎の検査（2） 9.　牛の画像診断（1） 10.　牛の画像診断（2） 11.　牛の繁殖障害の診断・治療（1） 12.　牛の繁殖障害の診断・治療（2） 13.　馬の取扱い 14.　隔離施設取扱い説明 15.　馬の身体検査 16.　乗馬実習 17.　馬の採血、注射法（1） 18.　馬の採血、注射法（2） 19.　馬の鎮痛法、鎮静法、麻酔法（1） 20.　馬の鎮痛法、鎮静法、麻酔法（2） 21.　馬の鎮痛法、鎮静法、麻酔法（3） 22.　馬のエックス線検査（1） 23.　馬のエックス線検査（2） 24.　馬の内視鏡検査 25.　馬の内視鏡検査 26.　馬の超音波検査 27.　馬の超音波検査 28.　豚の衛生管理 29.　豚の臨床検査 30.　産業動物実習まとめ	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	動物医療総合実習Ⅰ	学修目標 産業動物の診療と看護に関する基礎的な知識や技術についての理解を深める。また、実習を通じて、畜主との接し方や臨床記録の記載方法、動物のハンドリング方法を習得するとともに、各種検査方法とその結果の解釈、動物の看護方法に関する理解を深め、個体治療における産業動物臨床に関する基礎的な技術の習得を行う。さらに、生産獣医療に基づく、群管理についての基本的な知識や技術を習得する。 授業計画 （全授業を対面形式で実施する） 1. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療・馬の疾病について（学内） 2. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療・母牛（生産牛）の疾患、繁殖障害について 3. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療・豚の疾病について、あるいは牛あるいは馬の手術 4. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療・馬の疾病について（学内） 5. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療・乳牛のプロファイル、あるいは子牛・生産牛・肥育のプロフ 6. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療（１） 7. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療（２） 8. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療（３） 9. 牛あるいは馬入院患畜の世話並びに治療（４） 10. 子牛の管理 11. 育成牛の管理 12. 肉用牛の繁殖管理 13. 肥育牛の管理 14. 肥育牛のMPT 15. 乳用牛の生産管理 16. 乳用牛の繁殖管理 17. 乳用牛のMPT 18. 牛あるいは馬の診療（往診）（１） 19. 牛あるいは馬の診療（往診）及び農業高校への検診（１） 20. 牛あるいは馬の診療（往診）乳牛のプロファイル、あるいは子牛・生産牛・肥育のプロファイル（１） 21. 牛あるいは馬の診療（往診）（２） 22. 牛あるいは馬の診療（往診）及び農業高校への検診（２） 23. 牛あるいは馬の診療（往診）乳牛のプロファイル、あるいは子牛・生産牛・肥育のプロファイル（２） 24. 牛あるいは馬の診療（往診）（３） 25. 牛あるいは馬の診療（往診）及び農業高校への検診（３） 26. 牛あるいは馬の診療（往診）乳牛のプロファイル、あるいは子牛・生産牛・肥育のプロファイル（３） 27. 牛あるいは馬の診療（往診）（４） 28. 牛あるいは馬の診療（往診）及び農業高校への検診（４） 29. 牛あるいは馬の診療（往診）乳牛のプロファイル、あるいは子牛・生産牛・肥育のプロファイル（４） 30. 総合評価	共同
			動物医療総合実習Ⅱ	学修目標 実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。 授業計画 （のべ6週間にわたる実習を対面形式で実施する） 以下の項目について、全実習期間を通じて習得する。 1. 動物看護業務の理解 1)チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割 2)動物診療施設を見学し、設備や機能 3)愛玩動物を適正に管理する方法 2. 動物看護業務の体験 1)診察室における獣医療補助行為の体験 2)各種検査や処置、外科手術の補助の体験 3)入院動物の看護の体験 4)飼い主との適切なコミュニケーションの体験 3. 動物看護業務の実践 1)実際の動物診療施設で、診察室における診療補助の実践 2)スタッフと連携協働し、チーム獣医療の実践 3)動物看護計画を立案しと実践 4)飼い主に対する適正飼養及び療養生活の指導の実践	共同

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	食料経済学	学修目標 食料をめぐる人々の行動とそれによって起こる社会現象を経済学に基づき理解した上で、より良い食料経済のために、消費者、生産者、流通業者はどのように行動すべきかを考えることができる。 授業計画 第1回　国民経済における食料経済の位置 第2回　食料経済の展開（自給自足、生産者と消費者の分化、流通業者の登場と存在意義） 第3回　食料経済の展開（食品製造業者の登場と食品の付加価値、飲食業者の登場と食の外部化） 第4回　食料供給地域の経済成長 第5回　食料需給の動向と特徴 第6回　食料自給率を考える 第7回　個別需要の理論 第8回　食品選択における情報の役割と実際 第9回　期末試験 第10回　個別供給の理論 第11回　生産における費用 第12回　生産における効率性 第13回　食料生産の動向と特徴 第14回　市場の機能 第15回　有利販売の理論的背景と方法 第16回　食品製造業の動向と特徴 第17回　流通の機能と組織 第18回　期末試験	
			応用微生物学	学修目標 1.細菌、酵母、糸状菌など微生物の多様性を説明できる。 2.微生物の構造とその機能や、速い増殖を支える代謝系、環境への適応能を遺伝子レベルで説明できる。 3.物質の生産と分解に関与する発酵など代謝機能の活用を説明できる。 授業計画 第1回　序論 第2回　微生物の種類 第3回　微生物の細胞構造 第4回　微生物の分類 第5回　微生物の分子生物学 第6回　微生物の遺伝子工学 第7回　遺伝子の発現制御 第8回　シグナル伝達 第9回　小テスト、栄養と増殖 第10回　検出と分離 第11回　代謝（異化と同化） 第12回　微生物の生態と地球化学的物質循環への寄与 第13回　微生物の環境保全への利用 第14回　食品の発酵と腐敗 第15回　発酵生産、小テスト 第16回　まとめ	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（共同獣医学部畜産学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	専門応用科目	農産物マーケティング論	学修目標 マーケティング論の専門用語及び理論体系を効率的・体系的学習し，農産物マーケティング論②が取り扱う，農業生産法人、産地出荷組織、食品メーカー、小売企業などの実践的マーケティング戦略及びその戦略プログラムのマネジメントが理解できる．前半で学んだマーケティングの理論を応用し，農産物産地出荷組織，農業生産法人、食品メーカー、小売企業などに求められる実践的マーケティング戦略を理解でき，自ら農産物及び食品のマーケティング戦略づくりに携われることができる。 授業計画 前半 第1回　流通　vs　マーケティング 第2回　マーケティング発想 第3回　戦略的マーケティングとは 第4回　STPとマーケティングリサーチ 第5回　製品戦略 第6回　価格戦略 第7回　コミュニケーション戦略 第8回　チャネル戦略 第9回　中間試験 後半 第1回　マーケティングのSTPを通してみる農産物・食品の特徴 第2回　農産物の流通と産地マーケティング 第3回　マーケティングリサーチにおける農産物・食品の差別化のあり方 第4回　農産物の地域ブランド戦略 第5回　農産物・食品の価格戦略 第6回　農産物・食品のコミュニケーション戦略 第7回　農産物・食品におけるチャネルの設計と管理 第8回　農産物・食品の消費にみる倫理性とグリーンマーケティングの可能性 第9回　期末試験	
			食料安全生産論	学修目標 1.GAP（農業生産工程管理）の理念・概念を理解し，説明することができる。 2.農業生産工程における衛生管理ついて理解し，説明することができる。 3.農業生産資材（農薬，化学肥料，堆肥）の特性とその利用法を理解し，説明することができる。 授業計画 第1回　農産物の安全生産に関する基礎知識 第2回　農業生産工程における衛生管理 I　残留農薬 第3回　農業生産工程における衛生管理 II　有害微生物 第4回　農業生産工程における衛生管理 III　カビ毒 第5回　農業生産工程における衛生管理 IV　重金属 第6回　農業生産工程における衛生管理 V　放射性物質 第7回　中間まとめと復習 第8回　農業生産工程における衛生管理 VI　硝酸性窒素 第9回　農業生産工程における衛生管理 VII　POPs・ダイオキシン類 第10回　GAP（農業生産工程管理） 第11回　農業生産資材の特性 I（化学合成農薬） 第12回　農業生産資材の特性 II（肥料・堆肥） 第13回　環境負荷低減のための農業生産技術 I（総合的有害生物管理：IPM） 第14回　環境負荷低減のための農業生産技術 II（環境保全型施肥管理） 第15回　最終まとめと復習	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （共同獣医学部畜産学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自 由 科 目	伴侶動物学	学修目標 伴侶動物（愛玩動物）の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。 授業計画 (全15回の授業を対面・集中形式で実施する) 第1回　歴史と品種（１） 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ 第2回　歴史と品種（２） 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ 第3回　歴史と品種（３） 代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について 第4回　歴史と品種（４） 血統と血統書 第5回　使役動物（１） 使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉 第6回　使役動物（２） 補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の歴史と現状 第7回　使役動物（３） 補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の役割と育成、適性について 第8回　使役動物（４） その他の使役犬(災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など）の種類と特徴及び現状 第9回　愛玩動物の飼養管理（１） 犬の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など) 第10回　愛玩動物の飼養管理（２） 猫の適切な飼養管理方法(飼養上 の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など) 第11回　愛玩動物の飼養管理（３） 愛玩鳥の適切な飼養管理方法(飼 養環境、体調管理など) 第12回　愛玩動物の飼養管理（４） 代表的なエキゾチック動物(ウサ ギ、ハムスターなど)の適切な飼養管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など) 第13回　動物の基本的な取扱い（１） 動物を安全に散歩・運動・ふれあいをさせることの意義 第14回　動物の基本的な取扱い（２） 基本的グルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など) 第15回　動物の基本的な取扱い（３） 適切な飼養環境やストレスの緩和方法 第16回　期末試験	
	愛玩動物関連産業概論	学修目標 ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理 解するとともに、 ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構 成する業種の概要、動物取扱業に おける動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。 授業計画 (全８回の授業を対面・集中講義形式で実施する) 第1回　ペット関連産業における職業倫理（１） 責任と社会的役割 第2回　ペット関連産業における職業倫理（２） 商取引における関連法規の概要 第3回　ペットの飼養実態 第4回　ペット関連産業の概要・市場規模 第5回　各ペット関連産業の現状と課題 第6回　動物取扱業（１） 動物取扱業制度の概要 第7回　動物取扱業（２） 動物取扱責任者に必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理 第8回　期末試験	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （共同獣医学部畜産学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自 由 科 目	作物学	学修目標 1.主要な食用作物の栽培特性と栽培技術が関連付けて理解できる。 2.水稲の冷害と高温障害のメカニズムと影響，その対応技術について説明することができる。 3.水稲の品種，多収，食味や新規用途について説明することができる。 4.最近の栽培技術の特徴や適応性について説明することができる。 授業計画 第1回 作物と収量 第2回 作物と環境と栽培 第3回 水稲Ⅰ 第4回　水稲Ⅱ 第5回 コムギ，トウモロコシ 第6回 ジャガイモ，サツマイモ 第7回　ダイズ 第8回　飼料作物，作付体系 第9回　作物の多様性と食料生産 第10回　作物と環境ストレス 第11回　水稲の冷害と高温登熟障害 第12回　水稲の多収と食味 第13回　最近の水稲栽培技術（省力化，生育診断，ICT） 第14回　サツマイモの栽培 第15回　資源作物，スマート農業 第16回　作物栽培の原理	
	スマート農学入門	学修目標 1.農林食品産業におけるスマート化の必要性について説明することができる。 2.農林食品産業におけるスマート化の取り組みについて説明することができる。 授業計画 （オムニバス方式/全15回） （64　寺岡　行雄・117　加治佐　剛／１回）（共同） 第1回　Society5.0 （64　寺岡　行雄／３回） 第2回　スマート農学とは？ 第14回　スマート木材生産 第15回　総合討論 （136　下田代　智英／１回） 第3回　スマート栽培 （208　末吉　武志／２回） 第4回　スマート農機 第7回　スマート植物工場 （150　朴　炳宰／１回） 第5回　スマート農場 （216　平　瑞樹／１回） 第6回　スマート農地 （208　末吉　武志・117　加治佐　剛／１回）（共同） 第8回　スマート化（環境制御・環境適応、無人化,ICT,データサイエンス） （122　神田　英司／１回） 第9回　スマート農業 （154　濱中　大介／１回） 第10回　スマート食品流通 （97　豊　智行／１回） 第11回　スマート農業経営 （２　下桐　猛／１回） 第12回　スマート畜産 （117　加治佐　剛／１回） 第13回　スマート林業	オムニバス方式 ・共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （共同獣医学部畜産学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自 由 科 目	農業と社会	学修目標 1.経済の動きと食料・農業政策の歴史・現状について理解し説明することができる。 2.食料の貿易、流通、食の安全性、マーケティング、サプライチェーン、消費の特徴について説明できる。 3.地域の特産物と地場産業、農業の６次産業化について理解し説明することができる。 授業計画 （オムニバス方式/全15回） （48　坂井　教郎／４回） 第1回　グローバル化と農業 第2回　日本の農業・鹿児島の農業 第3回　食料・農業・農村政策 第4回　島の農業 （97　豊　智行／４回） 第5回　貿易と食料需給 第6回　食料の流通 第7回　食品の安全性・品質問題 第8回　農産物生産の収益性と特質 （17　李　哉ヒョン／４回） 第9回　多様な農業の担い手と事業展開 第10回　農業経営におけるビジネスモデルの広がり 第11回　食料の取引をめぐる産業間・主体間関係 第12回　地域農業と農村社会 （199　大住　あづさ／３回） 第13回　フードシステムの再地域化 第14回　地域フードシステムのガバナンス 第15回　フードシステムと消費者の行動	オムニバス方式

（注）

1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。

2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。